

(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

図名リスト			
建築工事		電気設備工事	
A-1	建築工事特記仕様書 1	E-1	電気設備工事 特記仕様書 1
A-2	建築工事特記仕様書 2	E-2	電気設備工事 特記仕様書 2
A-3	建築工事特記仕様書 3	E-3	電気設備工事 特記仕様書 3
A-4	建築工事特記仕様書 4	E-4	幹線設備、配置図、盤図、照明器具姿図
A-5	建築工事特記仕様書 5	E-5	電灯コンセント設備 平面図
A-6	建築工事特記仕様書 6		
A-7	建築工事特記仕様書 7		
A-8	仕上表、敷地求積図、建物求積図		
A-9	附近見取図、配置図		
A-10	平面図、立面図、断面図		
A-11	矩計図		
A-12	平面詳細図		
A-13	展開図、天井伏図		
A-14	建具表キープラシ、建具表		
A-15	仮設計画図		
S-1	構造設計特記仕様書		
S-2	地盤柱状改良工事特記仕様書		
S-3	鉄筋コンクリート構造配筋標準図		
S-4	鉄骨構造標準図 (1)		
S-5	鉄骨構造標準図 (2)		
S-6	ベースパック柱脚標準図		
S-7	基礎伏図		
S-8	基礎詳細図		
S-9	梁伏図、軸組図		
S-10	鉄骨断面リスト 1		
S-11	鉄骨断面リスト 2		
S-12	鉄骨詳細図		

工事特記仕様書

I. 工 事 名 (仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事	
II. 工事概要	
1. 工事場所	津市久居明神町 地内
2. 敷地面積	652.13㎡
3. 工事内容	
標名称	(仮称) 明神給水タンク等保管庫
構 造	鉄骨造、平家建
建築面積	97.5㎡
延べ面積	97.5㎡
工事項目	建築工事、電気設備工事

III. 建築工事仕様

- 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、公共建築工事標準仕様書(「建築工事編」平成31年版)(以下「標準仕様書」)及び公共建築改修工事標準仕様書(「建築工事編」平成31年版)による。
- 特記仕様
1)項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。
3)項目に記載の()内番号は標準仕様書の当該項目、図又は表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
---	-----	---------

①	①通用基準等	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を適用する。 1) 建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修(平成28年版) 2) 建築物解体工事共通仕様書 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修(平成31年版) 3) 津市公共建築物等木材利用方針
	②施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし又、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※ 工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。 ※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事を含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※ 高所等の施工箇所にて完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査(書類を含む)を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。 ※ 工事期間中の施設敷地内は、工事作業員及び工事車両と明神ストックヤードとの動線交錯が発生するため、安全確保に十分留意すること。

※ 明神ストックヤード稼働日(水曜日、土曜日、日曜日)について構内道路は一方通行とし、敷地南側の門から入場し敷地東側の門から退場すること。また、明神ストックヤード休止日については、敷地南側の門から入退場し、工事車両等の出入り時は常時閉鎖とすること。

③発生材の処理等(1.3.11)
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。)施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
屋根	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
その他()	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用

- ・引渡を要するもの(・無) ()
- ・特別管理産業廃棄物(・有() 処理方法())
- ・石綿含有成形板等解体時の留意点
1.手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
2.可能であれば湿潤状態(散水)として作業を進めること。
3.飛散されない様にする事。
4.保護具及び作業着を着用すること。
5.解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
6.事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。
- ・再資源化を図るもの(・コンクリート塊
・アスファルトコンクリート塊
・建設発生木材

引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し監督員へ提出すること。
引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

④建設副産物情報交換システムの利用
受注者は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書(実施書)」、「再生資源利用促進計画書(実施書)」を監督員に提出することとし、工事着手前にJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へのデータ入力、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

⑤三重県産業廃棄物税
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。

・配置する
(1.3.3)

⑦技能士(1.5.2)
職種別に可能なものについては積極的に活用のごと

⑧建築材料等

9.化学物質の濃度測定(1.5.9)

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	ステレン	パラジクロロベンゼン
	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	●
	その他	●	●	●	●	●	●

測定対象化学物質(●で示したもとする。)
対象箇所(・図示(図面番号:) ())
測定方法(・パッシブ法 ・アクティブ法)
測定時期(())
報告書提出部数 2部

⑩特別な材料の工法
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

⑪騒音・振動の防止
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑫工事写真(1.2.4)
営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修(最新版))に従い撮影する。
提出部数1部 用紙は上質紙とする。
なお、デジタル工事写真の黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の黒板情報電子化について(平成29年3月1日付け国営整第211号)」による。

⑬完成図等(1.7.1) (1.7.2) (1.7.3)
・作成する(・完成図 ・保全に関する資料 ())
・完成図作図範囲(設計図を訂正)
完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)は発注者に移譲するものとする。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。

⑭完成写真
・デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。(A4版用紙に1ページあたり3枚) 1部
箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多くなる場合には、監督員と協議すること。
写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

⑮設備工事との取合い
施工範囲
・図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
・図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
・駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ
施工図
・設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

⑯設計GL
・図示のベンチマーク(B.M) 535 mm
(現状地盤はB.M mm)

17.養生その他
工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。

⑱事故の発生時
工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。
また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑲消防関係の手続き
1) 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成
・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事)
・別途工事
2) 防火対象物使用開始届出書
書類の作成(建築図面の作成及び建築に関する部分の記入)を行うこと。

⑳労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置
労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

㉑不正軽油の使用の禁止
1) 一般事項
市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材等の搬出入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。
2) 調査の協力
受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また受注者は、下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
3) 是正措置
受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

22.屋外広告物
屋外広告物を設置する場合は「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

② 仮設工事	1. 監督員事務所 (2.3.1)	<ul style="list-style-type: none"> ・設置する。 監督員事務所の規模 (単位: m) <table border="1"> <tr> <th>適用</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>規模</th> <td>10程度</td> <td>20程度</td> <td>35程度</td> <td>65程度</td> <td>100程度</td> </tr> </table>	適用						規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度	④ 地業工事	1. 杭の施工管理	杭工事特記仕様書による。	11. 鋼杭地業 (4.4.3) (4.4.4) (4.4.5) (4.4.6) (4.3.5) (4.3.8)	<ul style="list-style-type: none"> 鋼管杭 ・ SKK400 ・ SKK490 H形鋼杭 ・ SHK400 ・ SHK490M <p>径 ・ 300 ・ 350 ・ 400 ・ 450 ・ ()</p> <p>長さ ()m</p> <p>継手 ・ JISA5525 (鋼管ぐい)</p> <p>径 ・ 300 ・ 350 ・ 400 ・ 450 ・ ()</p> <p>施工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定埋込杭工法 杭の根入れ深さ ・ ()m ・ 図示 (図面番号:) <p>杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない</p>	⑤ 鉄筋工事	①鉄筋の種類 (5.2.1)	<table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>⊙SD295A</td> <td>⊙D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD295B</td> <td>・ ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⊙SD345</td> <td>⊙D19以上</td> <td></td> </tr> </table> <p>・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの</p>	種類の記号	径	備考	⊙SD295A	⊙D16以下		・SD295B	・ ()		⊙SD345	⊙D19以上		2. 溶接金網 (5.2.2)	<p>網目の形状、寸法</p> <p>鉄線の径 (mm) ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ ()</p> <p>寸法 (mm) ・ 100×100 ・ 150×150 ・ ()</p>	3. 内法直径 (5.3.2)	<p>90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示 (図面番号:)</p>	④継手 (5.3.4)	<table border="1"> <tr> <th></th> <th>径</th> <th>部位</th> </tr> <tr> <td>⊙重ね継手</td> <td>D16以下</td> <td>地中梁</td> </tr> <tr> <td>⊙ガス圧接</td> <td>D19以上</td> <td></td> </tr> </table> <p>主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ</p> <p>⊙標準仕様書 [5.3.4] (3) (7) ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>継手位置</p> <p>⊙各部配筋参考図による ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>鉄筋定着</p> <p>⊙標準仕様書 [表5.3.4] ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・標準仕様書 [図5.3.3] ・ 図示 (図面番号:)</p>		径	部位	⊙重ね継手	D16以下	地中梁	⊙ガス圧接	D19以上		⑤鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) (表5.3.6)	<p>鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ</p> <p>⊙標準仕様書 [表5.3.6] ・ 図示 (図面番号:)</p>	⑥各部配筋 (5.3.7)	<p>⊙図示 (図面番号: S-8)</p>	7. 圧接完了後の試験 (5.4.10)	<p>抜取試験方法 ・ 超音波探傷試験 ・ 引張試験</p> <p>引張試験方法 ・ 標準仕様書 [5.4.10] (f) (b) ・ ()</p>	8. 機械式継手及び溶接継手 (5.5.2) (5.6.3)	<ul style="list-style-type: none"> 機械式継手 適用箇所 () 種類 () 性能 () 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置 () 鉄筋相互のあき ()mm 溶接継手 適用箇所 () 工法 () 性能 () 施工完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置 () 鉄筋相互のあき ()mm 																																																			
	適用																																																																																																											
	規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度																																																																																																						
種類の記号	径	備考																																																																																																										
⊙SD295A	⊙D16以下																																																																																																											
・SD295B	・ ()																																																																																																											
⊙SD345	⊙D19以上																																																																																																											
	径	部位																																																																																																										
⊙重ね継手	D16以下	地中梁																																																																																																										
⊙ガス圧接	D19以上																																																																																																											
2. 監督員事務所の設備・備品 (2.3.1)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>机・いす</th> <th>書棚</th> <th>黒板・白板</th> <th>掛時計</th> <th>温度計</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>組</td> <td>台</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>個</td> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>長靴</th> <th>雨合羽</th> <th>保護帽</th> <th>懐中電灯</th> <th>衣類ロッカー</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>足</td> <td>着</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>台</td> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>消火器</th> <th>掃除具</th> <th>受注者加入電話・FAX</th> <th>インターネット</th> <th>冷暖房機器</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>個</td> <td>個</td> <td>台</td> <td>台</td> <td>台</td> </tr> </table> <p>監督員職員事務所の仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>部位等</th> <th>仕 上 げ</th> </tr> <tr> <td>床</td> <td>合板張り又はビニール床シート張り</td> </tr> <tr> <td>内壁・天井</td> <td>合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り</td> </tr> </table> <p>構内既存の施設 ・ 利用できる ⊙ 利用できない</p> <p>構内既存の施設</p> <p>⊙ 利用できる (・ 有償 ⊙ 無償) ・ 利用できない</p> <p>構内既存の施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用できる (・ 有償 ・ 無償) ⊙ 利用できない <p>本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。</p> <p>内部足場の種別 (参考) ⊙ 脚立 ・ 棚足場 ⊙ (ローリングタワー)</p> <p>外部足場の種別 (参考) ⊙ 手摺先行据置枠組本足場</p> <ul style="list-style-type: none"> その他 () <p>防護シート等による養生 ⊙ 適用する ・ 適用しない</p> <p>設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン (厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。</p> <p>足場 (つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る) の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント (区分が土木又は建築である者) や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者 <p>配置 ⊙ 図示 (図面番号: A-15)</p>	種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計	数量	組	台	個	個	個	種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー	数量	足	着	個	個	台	種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	インターネット	冷暖房機器	数量	個	個	台	台	台	部位等	仕 上 げ	床	合板張り又はビニール床シート張り	内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り	屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り	2. 適用基準	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日)	3. 施工記録	受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。	4. 根拠資料	特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第31条第4項又は第5項 (第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。	5. 試験杭及び試験掘 (4.2.2)	<ul style="list-style-type: none"> 試験杭 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:) 試験掘 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:) 	6. 杭の支持層	支持層の位置、土質 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	7. 水平方向の位置ずれ	() mm以下	8. 杭の載荷試験 (4.2.3)	<p>試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ ()</p> <p>試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。</p> <p>位置、本数 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (kN)</p> <p>報告書 ・ 提出部数 2部</p>	9. 地盤の載荷試験 (4.2.4)	<p>試験方法 ・ 平板載荷 ・ ()</p> <p>試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。</p> <p>位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (kN)</p> <p>報告書 ・ 提出部数 2部</p>	10. 既製コンクリート杭 (4.3.1) (表4.3.1) (4.3.3) (4.3.4) (4.3.5) (4.3.6) (4.3.8)	<ul style="list-style-type: none"> PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種 SC杭 PRC杭 上記以外の建築基準法に基づく杭 (参考表) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長</th> <th>継手数</th> <th>セット数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>先端形状 ・ 開放型 ・ 閉そく型</p> <p>施工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> セメントミルク工法 オーガーの支持層への掘削深さ ・ ()m ・ 図示 (図面番号:) 杭の支持層への根入れ深さ ・ ()m ・ 図示 (図面番号:) 特定埋込杭工法 杭の根入れ深さ ・ ()m ・ 図示 (図面番号:) 根固め液及び杭周固定液の管理試験 ・ 標準仕様書 [4.3.4(6)(a)] ・ () <p>継手 ・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 (工法:)</p> <p>杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない</p>	種別	杭径 (mm)	杭長	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																													12. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1) (4.5.4) (4.5.5) (4.5.6)	<p>施工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> アースドリル工法 リバース工法 オールケーシング工法 鋼管コンクリート杭工法 <p>拡底 ・ 行わない ・ 行う ()</p> <p>杭の根入れ深さ ・ ()m ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>孔壁の超音波測定 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>帯筋の加工及び組立 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>鉄筋の最小かぶり厚さ () mm</p> <p>鉄筋かごの補強</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示 (図面番号:) <p>継手 ・ 重ね継手 ・ ()</p> <p>コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種</p> <p>設計基準強度 () N/mm²</p> <p>セメントの種類 ・ 高炉セメントB種 ・ ()</p> <p>スランプ (cm) ・ 18 ・ ()</p> <p>構造体強度補正值 (S) ・ 3 N/mm² ・ ()</p>	⑬地盤改良 ⊙ (柱状改良) 工法	<ul style="list-style-type: none"> 六価クロム溶出試験 室内配合試験 一軸圧縮試験 	⑭砂及び砂利地業 (4.6.2) (4.6.3)	<p>砂利</p> <p>⊙再生クラッシャーラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石 ・ ()</p> <p>砂</p> <ul style="list-style-type: none"> シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 ・ () <p>施工範囲 ⊙ 図示 (図面番号: S-7)</p> <p>厚さ (mm) ・ 60 ⊙ (100)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕上がりレベルを計測し、記録すること。 	⑮捨コンクリート地業 (4.6.4)	<p>厚さ (mm) ・ 50 ⊙ (50~90)</p> <p>施工範囲 ⊙ 図示 (図面番号: S-8)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕上がりレベルを計測し、記録すること。 	⑯床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5)	<p>施工範囲 ⊙ 図示 (図面番号: S-7)</p> <p>ポリエチレンフィルム厚さ ⊙ 0.15mm以上 ・ ()</p> <p>⊙防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込みは、250mm以上とする。</p>
種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計																																																																																																							
数量	組	台	個	個	個																																																																																																							
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー																																																																																																							
数量	足	着	個	個	台																																																																																																							
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	インターネット	冷暖房機器																																																																																																							
数量	個	個	台	台	台																																																																																																							
部位等	仕 上 げ																																																																																																											
床	合板張り又はビニール床シート張り																																																																																																											
内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り																																																																																																											
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り																																																																																																											
種別	杭径 (mm)	杭長	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																						
③ 土工事	1. 埋戻し及び盛土 (3.2.3) (表3.2.1)	<p>種別 ⊙ A種 ⊙ B種 ・ C種 ・ D種</p>	3. 山留めの撤去 (3.3.3)	<p>鋼矢板等の抜き跡の処理 ・ 砂充填 ・ ()</p> <p>山留め壁等 ・ 撤去 ・ 存置</p>	2. 建設発生土の処理 (3.2.5)	<p>⊙ 自由処分</p> <ul style="list-style-type: none"> 処分地指定 処分地 () 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 8km 																																																																																																						

<p>⑥ コンクリート工事</p> <p>① コンクリートの使用骨材による種類及び強度 (6.2.1) (6.2.2) (6.2.4) (6.10.1) (6.10.2) (6.11.1) (6.11.3) (表6.2.2) (表6.10.1)</p> <p>② コンクリートの種類 (6.2.1) (表6.2.1)</p> <p>③ コンクリートの仕上り (6.2.5) (表6.2.4) (表6.2.5)</p> <p>④ セメント (6.3.1) (表6.3.1)</p> <p>⑤ 骨材 (6.3.1) (6.3.1)</p> <p>⑥ コンクリートの材料 (6.3.1) (6.3.1) (表6.3.2)</p> <p>7. 打継ぎ (6.6.4)</p> <p>⑧ 養生 (6.7.2)</p> <p>⑨ 型枠 (6.6.4) (6.8.1) (6.8.2) (表6.8.1) (6.8.4)</p> <p>10. 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>11. 暑中コンクリート (6.12.2)</p>	<p>普通コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc</th> <th>適用箇所</th> <th>施工時期</th> <th>スラブ</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※構造図による</p> <p>軽量コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc</th> <th>適用箇所</th> <th>種類</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>スラブ</th> </tr> <tr> <td>(N/mm²)</td> <td></td> <td></td> <td>t/m³</td> <td>(cm)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・ 常時土又は水に直接接する部分 図示 (図面番号:)</p> <p>⑦ 鉄骨工事</p> <p>① 施工管理技術者 (7.1.4)</p> <p>② 製作工場 (7.1.3)</p> <p>③ 鋼材 (7.2.1) (表7.2.1)</p> <p>④ 高力ボルト (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2) (7.4.7)</p> <p>⑤ 普通ボルト (7.2.3) (表7.2.3) (7.3.2)</p> <p>6. 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2) (7.4.2) (7.12.5)</p> <p>⑦ アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3) (表7.10.1) (表7.2.3)</p> <p>⑧ 溶接材料 (7.2.5)</p> <p>⑨ ターンバックル (7.2.6)</p> <p>10. デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)</p> <p>11. スタッド (7.2.8)</p> <p>⑫ 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)</p> <p>13. 材料試験等 (7.2.10)</p> <p>⑭ ボルトの孔径 (7.3.8)</p> <p>⑮ 仮組 (7.3.10)</p> <p>⑯ 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)</p> <p>⑰ 溶接部の開先 (7.6.4)</p> <p>⑱ 溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>⑳ 錆止め塗装 (7.8.2) (7.8.4)</p>	設計基準強度 Fc	適用箇所	施工時期	スラブ					設計基準強度 Fc	適用箇所	種類	気乾単位容積質量	スラブ	(N/mm ²)			t/m ³	(cm)						<p>12. マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2) (表6.13.1)</p> <p>適用箇所 図示 (図面番号:)</p> <p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通ポルトランドセメント 中熱ポルトランドセメント 低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 シリカセメント <p>スラブ 15cm ()</p> <p>混和剤の種類 標準仕様書 [6.13.2] (2) (7) ()</p> <p>混和材の種類 標準仕様書 [6.13.2] (2) (4) ()</p> <p>構造体強度補正值 (S) 標準仕様書 [表16.3.1] ()</p> <p>13. 無筋コンクリート (6.14.1)</p> <p>適用箇所 標準仕様書 [6.14.1]</p> <p>設計基準強度 18 (N/mm²) () (N/mm²)</p> <p>スラブ 15cm 18cm</p> <p>14. 流動化コンクリート (6.15.1)</p> <p>適用箇所 図示 (図面番号:)</p> <p>1. 配置する</p> <p>(株) 日本鉄骨評価センター又は (株) 全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場</p> <p>① J ② R ③ M ④ H ⑤ S</p> <p>種類、形状及び寸法 図示 (図面番号: S-10)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> トルシア形高力ボルト (S10T) JIS形高力ボルト2種 (F10T) 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種 (F8T相当) <p>高力ボルトのねじの呼び</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p> <p>すべり試験の試験方法 ()</p> <p>JIS形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合</p> <p>回転量 ()°</p> <p>ボルト及びナットの材料等、ボルトのねじの呼び</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>6. 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2) (7.4.2) (7.12.5)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>種類</p> <p>構造用 SNR400B (SS400)</p> <p>建方用 SS400 ()</p> <p>建方用アンカーボルトの保持及び埋込み</p> <ul style="list-style-type: none"> A種 B種 <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p> <p>標準仕様書 [表7.2.3]</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p>	<p>⑧ 溶接材料 (7.2.5)</p> <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [7.2.5] (1) (2) 以外の溶接材料 () <p>種類及びねじの呼び等</p> <p>図示 (図面番号: S-10)</p> <p>建築用ターンバックル胴 割枠式 ()</p> <p>建築用ターンバックルボルト 羽子板ボルト ()</p> <p>10. デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)</p> <p>材質、形状及び寸法 図示 (図面番号:)</p> <p>溶接方法 図示 (図面番号:)</p> <p>11. スタッド (7.2.8)</p> <p>種類等 図示 (図面番号:)</p> <p>⑫ 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)</p> <p>無収縮モルタルの材料及び割合</p> <p>標準仕様書 [7.2.9] (2) ()</p> <p>13. 材料試験等 (7.2.10)</p> <p>板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> JIS G 0901により行う <p>⑭ ボルトの孔径 (7.3.8)</p> <p>普通ボルトの孔径 (母屋又は胴縁の取付け)</p> <p>ねじの呼び径±10mm ()</p> <p>⑮ 仮組 (7.3.10)</p> <p>行わない 行う</p> <p>仮組を行う範囲 図示 (図面番号:)</p> <p>⑯ 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)</p> <p>溶接作業の技量付加試験</p> <p>行わない 行う</p> <p>⑰ 溶接部の開先 (7.6.4)</p> <p>開先の形状</p> <p>図示 (図面番号: S-11)</p> <p>⑱ 溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>鋼製エンドタブの切除</p> <ul style="list-style-type: none"> 適用及び切断範囲 図示 (図面番号:) <p>切断面の仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [7.6.7 (h) (b)] 図示 (図面番号:) <p>鋼製エンドタブに代わるその他の工法</p> <p>鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方を満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。 製作工場がJ、R、Mグレードの場合は、溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習終了者 (溶接技能者・A級以上)、又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場がH、Sグレードの場合は溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。 <p>板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部</p> <ul style="list-style-type: none"> 低応力高サイクル疲労を受ける部位 図示 (図面番号:) <p>スカラップの形状 図示 (図面番号: S-4)</p> <p>⑲ 溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>試験の種類</p> <p>溶接部の外観試験方法 ()</p> <p>超音波探傷試験 ()</p> <table border="1"> <tr> <th>溶接区分</th> <th>A00L (%)</th> <th>検査水準</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td></td> <td></td> <td>・全数試験</td> </tr> <tr> <td>工場溶接 (第三者)</td> <td>2.5 4.0</td> <td>6</td> <td>・外観検査 全箇所実施する</td> </tr> <tr> <td>工場溶接 (社内)</td> <td></td> <td></td> <td>・全数試験 (外観検査共)</td> </tr> </table> <p>⑳ 錆止め塗装 (7.8.2) (7.8.4)</p> <p>耐火被覆材の接着する面への塗装</p> <p>塗装範囲 図示 (図面番号:)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] ()種 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.2] ()種 	溶接区分	A00L (%)	検査水準	備考	現場溶接			・全数試験	工場溶接 (第三者)	2.5 4.0	6	・外観検査 全箇所実施する	工場溶接 (社内)			・全数試験 (外観検査共)	<p>21. 耐火被覆 (7.9.2) (7.9.3)</p> <p>耐火被覆材の接着する面以外への塗装</p> <p>塗装範囲 図示 (図面番号:)</p> <p>鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] ()種 <table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>工法</th> <th>耐火性能</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>⑳ 軽量形鋼 (7.11.2)</p> <p>接合部 (ボルト接合の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通ボルト接合 () <p>8. コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板</p> <p>1. 補強コンクリートブロック造 (8.2.2) (8.2.3) (8.2.5) (8.2.8) (表8.2.1)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 空洞ブロック16 図示 (図面番号:) <p>正味厚さ、モジュール呼び寸法</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>各部の配筋</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>モルタルの調合</p> <p>標準仕様書 [8.2.3] ()</p> <p>モルタル又はコンクリートの充填範囲</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>2. コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2) (8.3.3) (8.3.4) (8.3.7) (表8.3.1)</p> <p>ブロックの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [表8.3.1] 図示 (図面番号:) <p>正味厚さ、モジュール呼び寸法、ブロックの厚さ</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>モルタルの調合</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 [8.2.3] () <p>化粧</p> <ul style="list-style-type: none"> 有り 無し <p>塀の厚さ H≤2.0m 120mm ()</p> <p>H>2.0m 150mm ()</p> <p>各部の配筋</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>モルタル又はコンクリートの充填範囲</p> <p>図示 (図面番号:)</p> <p>3. ALCパネル (8.4.2) (8.4.3) (8.4.4) (表8.4.2) (8.4.5) (表8.4.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位 荷重 (N/mm²)</th> <th colspan="3">呼び寸法</th> <th rowspan="2">構法</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> </tr> <tr> <th>厚さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>長さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・外壁 パネル</td> <td>()</td> <td>100 ()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・A種 ・B種</td> <td>・()時間 ・無し</td> </tr> <tr> <td>・間仕切 壁パネル</td> <td>()</td> <td>100 ()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・C種 ・E種 ・D種</td> <td>・()時間 ・無し</td> </tr> <tr> <td>・屋根 パネル</td> <td>()</td> <td>100 ()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・F種</td> <td>・()時間 ・無し</td> </tr> <tr> <td>・床 パネル</td> <td>()</td> <td>100 120 150</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・F種</td> <td>・()時間 ・無し</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル幅を300mm以下とする部分 適用あり</p> <p>外壁、屋根及び床パネル構法</p> <p>風圧力に対応した工法 適用あり</p> <p>パネル短縮小口相互の伸縮目地幅 (mm) ()</p> <p>出隅、入隅等の取合い部の伸縮目地幅 (mm) ()</p> <p>伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する (材料:)</p> <p>4. 押出成形セメント板 (8.5.2) (8.5.3) (8.5.4) (表8.5.1) (8.5.5) (表8.5.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>表面形状及び原料区分</th> <th>板厚 (mm)</th> <th>働き幅 (mm)</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>・外壁 パネル</td> <td>・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td>・間仕切 壁パネル</td> <td>・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>・B種 ・C種</td> </tr> </table> <p>パネル幅を300mm以下とする部分 適用あり</p> <p>パネル相互の目地幅 (mm)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長辺 8以上、短辺 15以上 () <p>出隅、入隅の接合部の伸縮調整目地幅 (mm) 15 ()</p> <p>目地及び隙間の処理 ()</p> <p>外壁パネル構法</p> <p>風圧力に対応した工法 適用あり</p> <p>間仕切壁パネル構法</p> <p>パネルに欠き込みを行う場合</p> <ul style="list-style-type: none"> パネル開口の限度 図示 (図面番号:) 	部位	種類	材料	工法	耐火性能						区分	単位 荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	・外壁 パネル	()	100 ()	()	()	・A種 ・B種	・()時間 ・無し	・間仕切 壁パネル	()	100 ()	()	()	・C種 ・E種 ・D種	・()時間 ・無し	・屋根 パネル	()	100 ()	()	()	・F種	・()時間 ・無し	・床 パネル	()	100 120 150	()	()	・F種	・()時間 ・無し	種類	表面形状及び原料区分	板厚 (mm)	働き幅 (mm)	工法	・外壁 パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	()	()	・A種 ・B種	・間仕切 壁パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	()	()	・B種 ・C種
	設計基準強度 Fc	適用箇所	施工時期	スラブ																																																																																																						
設計基準強度 Fc	適用箇所	種類	気乾単位容積質量	スラブ																																																																																																						
(N/mm ²)			t/m ³	(cm)																																																																																																						
溶接区分	A00L (%)	検査水準	備考																																																																																																							
現場溶接			・全数試験																																																																																																							
工場溶接 (第三者)	2.5 4.0	6	・外観検査 全箇所実施する																																																																																																							
工場溶接 (社内)			・全数試験 (外観検査共)																																																																																																							
部位	種類	材料	工法	耐火性能																																																																																																						
区分	単位 荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能																																																																																																				
		厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)																																																																																																						
・外壁 パネル	()	100 ()	()	()	・A種 ・B種	・()時間 ・無し																																																																																																				
・間仕切 壁パネル	()	100 ()	()	()	・C種 ・E種 ・D種	・()時間 ・無し																																																																																																				
・屋根 パネル	()	100 ()	()	()	・F種	・()時間 ・無し																																																																																																				
・床 パネル	()	100 120 150	()	()	・F種	・()時間 ・無し																																																																																																				
種類	表面形状及び原料区分	板厚 (mm)	働き幅 (mm)	工法																																																																																																						
・外壁 パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	()	()	・A種 ・B種																																																																																																						
・間仕切 壁パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	()	()	・B種 ・C種																																																																																																						

1. アスファルト防水 (表9.2.3) ~ (表9.2.8) (9.2.2) (9.2.3)	種別	施工箇所
	改質アスファルトルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] 図示() 厚さ・標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] 図示() 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] 図示() 厚さ・標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] 図示() 絶縁用シート ・ポリエチレンフィルム(厚さ 0.15mm以上) ・フラットヤーンクロス(70g/m ²) 押え金物 ・アルミ製 L30×15×2.0 図示(図面番号:) 断熱材 ・屋根保護防水断熱工法 種類() 厚さ() mm ・屋根露出防水断熱工法 種類() 厚さ() mm (表9.2.3) 屋根保護防水 ~ (表9.2.6) 立ち上がり部の保護コンクリート 図示(図面番号:) 乾式保護材 使用する 立ち上がり部保護れんが JIS R 1250 () (表9.2.7) 脱気装置 ・設置数量 図示(図面番号:) 種類() (表9.2.7) 屋根露出防水における仕上塗料 (表9.2.8) 図示(図面番号:) 種類() 使用量() (表9.2.9) 屋内防水密着工法における保護層 ・図示(図面番号:) E-1の工程3 行う 行わない (9.2.4) 防水層の下部モルタル塗り ・図示(図面番号:) 立ち上がりのコンクリート打放し仕上げの種別 種類・B種 () (9.2.4) 屋根露出防水絶縁断熱工法 ルーフトレン回り及び立ち上がり部周辺断熱材の張りじまい位置 ・図示(図面番号:) (9.2.5) 保護コンクリートの厚さ こて仕上げ 水 下 80mm以上 () 床タイル張り 水 下 60mm以上 () 立ち上がり部の保護方法 ・乾式保護材 べんが押え ・コンクリート押え ・モルタル押え(屋内等) () 屋上排水溝 ・図示(図面番号:)	
2. 改質アスファルトシート防水 (9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1) ~ (表9.3.3)	種別	施工箇所
	改質アスファルトシート 種類・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] 図示() 厚さ・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] 図示() 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート 種類・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] 図示() 押え金物の材質、形状、寸法 ・アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm) () 厚さ・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] 図示() 仕上塗料 ・図示(図面番号:) 種類() 使用量() 脱気装置 ・設置数量 図示(図面番号:) 種類() 断熱材 ・屋根露出防水絶縁断熱工法 種類() 厚さ() mm 防湿用シートの設置 有り 無し	

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2) (9.4.3) (9.4.4) (表9.4.1) (表9.4.2) (表9.4.3)	種別	施工箇所
	ルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] 図示() 厚さ・標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] 図示() 絶縁用シート ・発泡ポリエチレンシート () 固定金具 材質、寸法形状() ・図示(図面番号:) 断熱材 種類、厚さ ・機械的固定工法 図示(図面番号:) ・接着工法 (図面番号:) 仕上塗料 ・図示(図面番号:) 種類() 使用量() 防湿用シートの設置 有り 無し S-M2又はS1-M2で立上りを接着工法 立ち上がり面のシート厚さ 1.5mm () mm 屋内保護密着工法 モルタル塗り厚さ () mm 立ち上がり部の保護モルタル塗り厚さ 7mm以下 () mm 目地処理 PC下地 図示(図面番号:) 増張り(S-F1、S1-F1) PC入隅部 図示(図面番号:) 機械的固定工法 風圧力に対応した工法 図示(図面番号:)	
4. 塗膜防水 (9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2)	施工箇所	種別
	脱気装置(X-1) ・設置数量 図示(図面番号:) 種類() 防水層の工程数及び各工程の使用量(Y-1、Y-2) ・製造所の仕様による () 保護層(Y-2) 図示(図面番号:) 仕上塗料 ・図示(図面番号:) 種類() 使用量() 適用部位 図示(図面番号:) 防水層の種類 C-UI C-UP (9.6.1) (9.6.3) 壁及び天井部の仕上げ 図示(図面番号:) (9.6.4) 図示(図面番号:) (表9.6.1) 下地処理 標準仕様書[9.6.4](2) () (表9.6.2)	
5. ケイ酸質系塗布防水 (9.6.1) (9.6.3) (9.6.4) (表9.6.1) (表9.6.2)	種別	施工箇所
	標準仕様書[表9.7.1]による 窓廻り、シャッター廻り、ドア廻り 10×15 MS-2 接着性試験 ・簡易接着性試験 引張接着性試験	
10. 石工事	1. 共通 (10.1.3) (10.1.5)	割付 図示(図面番号:) 粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ () 清掃における床面ワックス 使用する
	2. 天然石 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)	使用部位 種類(名称) 等級 寸法(mm) 表面仕上げ 工法 形状 床 2等 粗磨き () 壁 1等 水磨き () ジェットバーナー仕上面 手加工あり 機械加工バフ仕上あり

3. テラゾ (10.2.1) (表10.2.2)	テラゾタイル 使用部位 種石の種類 種石の大きさ 寸法による区分 表面仕上 ・大理石 1.5~12mm 300型 400型
	テラゾブロック 使用部位 種石の種類 種石の大きさ 形状 仕上げ面 寸法(mm) 表面仕上 ・大理石 1.5~12mm 平もの 片面 両面
4. その他の材料 (10.2.3)	取付用モルタル 図示(図面番号:) 目地用モルタル 図示(図面番号:) 石裏面処理材 図示(図面番号:) 裏打ち処理材 図示(図面番号:) ドレンパイプ 図示(図面番号:) 充填材料 図示(図面番号:)
	5. 外壁湿式工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3)
6. 内壁空積工法 (10.2.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3)	受け金物の材質、形状、寸法 図示(図面番号:) アンカーの材質及び寸法 SS400 M12 () あと施工アンカーの材質及び寸法 () 石材の厚さ 20mm以上 () 下地ごしらえ あと施工アンカー横筋流し工法 あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅(mm) 6以上 () 伸縮調整目地 位置 6mごと 図示(図面番号:) シーリング材の目地寸法 幅、深さとも10mm以上 図示(図面番号:)
	7. 乾式工法 (10.2.2) (10.5.2) (10.5.3)

8. 床及び階段の石張り (10.3.3) (10.6.2) (10.6.3)	石材の厚さ () 石裏面処理 適用する 目地 一般目地 目地幅(mm) 屋内4mm以上、屋外3~6mm ・図示(図面番号:) 伸縮調整目地 位置 標準仕様書[10.6.2](5)(4)(a) 図示(図面番号:) シーリング材の目地寸法 幅、深さとも10mm以上 図示(図面番号:)	
	9. アーチ、上げ裏等の石張り (10.2.2) (10.3.3) (10.7.1) (10.7.2)	取付け金物 標準仕様書[10.2.2](3) () 吊金物及び化粧吊りボルト 図示() 吊金物 ステンレス(SUS304) 径6mm長さ80mm(加工物) 吊りボルト ステンレス(SUS304) M10 化粧ナット付き アンカーの材質及び寸法 SS304 M10 () あと施工アンカーの材質及び寸法 () 取付工法 外壁湿式工法 内壁空積工法 乾式工法 石材の厚さ () 石裏面処理 適用する 裏打ち処理 適用する 目地 一般目地 目地幅(mm) 6以上 () 伸縮調整目地 位置 図示(図面番号:) シーリング材の目地寸法 幅、深さとも10mm以上 図示(図面番号:)
10. 笠木、甲板等 (10.2.2) (10.3.3) (10.5.3) (10.7.1) (10.7.3)	取付け金物 標準仕様書[10.2.2](3) () アンカーの材質及び寸法 SS304 M10 () あと施工アンカーの材質及び寸法 () 取付工法 外壁湿式工法 内壁空積工法 乾式工法 石材の厚さ () 石裏面処理 適用する 取付け代(乾式工法の場合)(mm) 標準仕様書[10.5.3](2) () 石裏の補強用モルタル(乾式工法の場合) 適用する 図示(図面番号:) 目地 一般目地 目地幅(mm) () 伸縮調整目地(外壁湿式工法の場合) 位置 図示(図面番号:) シーリング材の目地寸法 幅、深さとも10mm以上 図示(図面番号:)	
	11. 隔て板 (10.7.4)	石材の厚さ 40mm ()
11. タイル工事	1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)	位置 標準仕様書[表11.1.1] 図示(図面番号:)
	2. タイル張り (表11.2.3) (11.2.2) (11.2.3) (11.3.2) (11.3.4) (表11.3.2)	タイルの種類・工法 施工箇所 工法 種類 形状寸法 耐滑り性 うわすり 役物 標準・特注色の別 耐凍害性の有無 ・役物 () ・試験張りを行う ・見本焼きを行う ・既モルタル調査 () (11.2.7) セメントモルタル塗り又は有機系接着剤あと張り工事 (11.3.7) コンクリート素地面の処理 適用箇所 図示(図面番号:) 目荒し工法 MCR工法 有機系接着剤あと張り工事 シーリング材 打継、ひび割れ誘発目地 PU-2 () 伸縮、その他目地 MS-2 ()

12 木工事

1. 木材 (12.1.4) 見え掛り部の表面仕上げ
機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種
(表12.1.1) 適用箇所 ()
(表12.1.2) 手加工 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種
(12.2.1) 木材の含水率
(12.4.1) 部材名称 種別
(12.5.1) 下地材 ・ A種 ・ B種
(12.6.1) 造作材 ・ A種 ・ B種
(12.7.1) 樹種 ・ 図示 (図面番号:)
(表12.2.1)

部材名称	種別
下地材	・ A種 ・ B種
造作材	・ A種 ・ B種

2. 製材 (12.2.1) (2) (7) 「製材の日本農林規格」による製材

樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質	県産材
下地用 針葉樹製材 (:)	・ ()				
造作用 針葉樹製材 (:)	・ ()				
広葉樹製材 (:)	・ ()	・ 10% 以下			

(12.2.1) (2) (4) 「製材の日本農林規格」以外の製材
(表12.2.2) 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率
・ 図示 (図面番号:)
造作材の材面の品質 ・ A種 ・ ()
樹種

部位	樹種	県産材

3. 集成材等 (12.2.1) 造作用集成材
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

品名・機種・寸法 見付け材面数	品質	化粧薄板厚さ
造作用集成材 ・ 図示 (図面番号:)	・ ()	
化粧ばり造作用集成材 ・ 図示 (図面番号:)	・ ()	
化粧ばり構造用集成材 ・ 図示 (図面番号:)		

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材
樹種、寸法、化粧薄板の厚さ及び含水率
・ 図示 (図面番号:)

4. 単板積層材 (12.2.1) 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材
品名、寸法、表面の品質及び防虫処理
・ 図示 (図面番号:)
「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理
・ 図示 (図面番号:)

5. 直交集成材 (12.2.1) 「直交集成材の日本農林規格」による直交集成材
品名、曲げ強度(強度等級)、種別、接着性能(使用環境)、樹種、寸法
・ 図示 (図面番号:)

品名・品目	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫・保存処理等	厚さ

構造用合板の強度等級
・ 図示 (図面番号:)
特殊加工化粧合板の化粧加工方法
・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 ・ ()

7. 接合具等 (12.2.2) パーティクルボード
表裏面の状態、曲げ強さ、耐水性、難燃性による区分、厚さ等
・ 図示 (図面番号:)
ミディアムデンシティーファーバーボード (MDF)
表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性による区分、厚さ等
・ 図示 (図面番号:)

8. 防腐・防蟻 (12.2.2) 7. 接合具等
(表12.2.3) 造材の化粧面の釘打ち
・ 隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ つぶし頭釘打ち ・ 釘頭現し
(表12.2.3) 諸金物の形状、寸法、材質
・ 図示 (図面番号:)
～(表12.2.5)

8. 防腐・防蟻 (12.3.1) 防腐・防蟻処理
薬剤加圧注入
適用部材、保存処理性能区分 ・ 図示 (図面番号:)
薬剤の塗布等
処理方法 ・ 標準仕様書[12.3.1] (4) (b) ・ ()
(12.3.2) 附属書A (規定) に基づく表面処理用木材保存剤による処理
薬剤の種類、適用部材 ・ 図示 (図面番号:)
薬剤の接着剤への混入 ・ ()
合板等の加圧注入 ・ ()
防虫処理 ・ ()

1. 長尺金属板葺 (13.2.2) 葺 (13.2.3) (表13.2.1)

屋根葺形式	材種	厚さ (mm)	下葺の種類	備考
	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板	・ 0.4	・ アスファルトルーフィング940	

風圧力及び積雪荷重に対応した工法
・ 図示 (図面番号:)
雪止め ・ 図示 (図面番号:)

緊結方法	板厚 (mm)	山の高さ (mm)	山のピッチ (mm)	耐力区分
・ 重ね形	・ 0.8 ・ 0.6	・ 90 ・ (88)	・ (200)	・ (4種)
・ はぜ締め形		材種		軒先面戸板
		・ 塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合板めっき鋼板 ・ ()		・ あり ・ なし

2. 折板葺 (13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1)

3. 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)

4. とい (13.5.2) (表13.5.1) (表13.5.2) (13.5.3) (表13.5.5)

1. ステンレス (14.2.1) 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ ()
2. アルミニウム (14.2.2) 表面処理の種類
(表14.2.1) ・ AB-1 ・ AB-2 ・ AC-1 ・ AC-2 ・ BA-1
・ BA-2 ・ BB-1 ・ BB-2 ・ BC-1 ・ BC-2
常温乾燥形の塗装
陽極酸化被膜の着色方法 ・ 二次電解着色 ・ ()
陽極酸化被膜の色合い等 ・ ()

3. 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2) 亜鉛めっきの種類
・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種

4. 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2) 野縁などの種類
屋内 ・ 19形 ・ ()
屋外 ・ 25形 ・ ()
(表14.4.1) 屋外の野縁受等の間隔 ・ 図示 (図面番号:)
(14.4.3) 吊りボルトの補強方法 (@900mm超) ・ 図示 (図面番号:)
(表14.4.2) 吊りボルトの水平補強、斜め補強
(14.4.4) ・ 1.5≦天井ふところ≦3.0m ・ 標準仕様書[14.4.4] (8) ・ 図示 (図面番号:)
・ 天井ふところ>3.0m 図示 (図面番号:)
・ 耐震天井 図示 (図面番号:)
・ 耐風圧の補強 図示 (図面番号:)

5. 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) (表14.5.1) (14.5.4) スタッド、ランナーの種類
・ 標準仕様書[表14.5.1] ・ 図示 (図面番号:)
スタッドの高さ5m超
・ 図示 (図面番号:)
出入口、開口部の補強 ・ 標準仕様書[14.5.4] (4) ・ ()

6. 金属成形板張り (14.6.2) (14.6.3)

施工箇所	種別	形状	表面処理
	・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼	・ スパンドレル形 ・ パネル形	

取付け用下地 ・ 図示 (図面番号:)
長尺ものにおける伸縮調整継手
・ 設ける 図示 (図面番号:)

7. アルミニウム製笠木 (14.7.2) (表14.7.1) (14.7.3) (14.7.4) 部材の種類
・ 250形 ・ 300形 ・ 350形
表面処理 ()
固定方法 ・ 図示 (図面番号:)
風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

8. 手すり (14.8.2)

材種	表面処理の種類	施工箇所
アルミニウム	・ 標準仕様書[表14.2.1]の種類(種) ・ ()	スロープ・階段
鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種類(種) ・ ()	
ステンレス	・ HL程度 ・ ()	

9. タラップ (14.8.3)

材種	表面処理の種類	施工箇所
鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種類(種)	
ステンレス	・ ()	

10. 天井見切縁 材種 ・ アルミニウム合金製 ・ 塩化ビニル製

11. 点検口

取付箇所	材種	寸法	形式
・ 天井	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	

14 金属工事

15 左官工事

1. ラス系下地 (15.2.4) 通気工法 ・ 二層下地 ・ 単層下地
直張り工法 ・ ラスマルタル下地 ・ ラスシートモルタル下地
ラス及び補強用平ラス

素材による区分	種類	質量 (kg/m ²)
・ ()	・ ()	・ ()

ラスシート

山高	山ピッチ (mm)	質量 (kg)	溶接ピッチによる区分
・ ()	・ ()	・ ()	・ ()

外張断熱工法 ・ 図示 (図面番号:)
耐力壁、防火構造等の指定 ・ 図示 (図面番号:)
ステーブルの形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)
換気口部の措置 ・ 標準仕様書(木造)[11.4.3] ・ ()

2. せっこうボード (15.2.5) せっこうボード、せっこうラスボードの種類、厚さ
・ 図示 (図面番号:) ・ ()
木質系セメント板の種類、厚さ
・ 図示 (図面番号:) ・ ()

3. こまい下地 (15.2.6) 耐力壁の指定 ・ 図面 (図面番号:)
木ずり用小幅板の樹種 ・ 図示 (図面番号:)

4. モルタル塗り (15.3.2) (15.3.5) 材料 ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する 図示 (図面番号:)
床の目地 ・ 図示 (図面番号:)
下地モルタル、下地調整塗材の接着剤試験(外壁タイル張り等)
・ 実施する

5. セルフレベリング (15.5.2) (表15.5.1) 種類 ・ せっこう系 ・ セメント系

6. 仕上塗材仕上 (15.6.2) (表15.6.1)

種類	呼び名	仕上形状	工法
薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状	・ 吹付け
	・ 内装薄塗材E	・ 着色骨材砂壁状 ・ 砂壁状ジュラク	
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ スタッコ状 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	・ 吹付け
	・ 外装厚塗材Si	・ スタッコ状 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし	・ 吹付け
複層仕上塗材	・ 複層塗材E	・ 複層塗材RE	・ ローラー
	・ 防水型複層塗材E	・ 防水型複層塗材RE	
軽量骨材仕上塗材	・ 吹付け軽量塗材	・ 砂壁状	・ 吹付け
	・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	・ こて

内装薄塗材、内装厚塗材(吸放湿性を有するもの)
・ JIS A 6909 調湿形
複層仕上塗材の耐候性 ・ 耐候形3種 ・ ()
外装厚塗材Cの上塗材
・ セメントスタッコ以外の場合 材所要量(kg/m²)

左官工事	<p>(表15.6.2) 複層仕上塗材の上塗材の種類</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>樹脂種類</th> <th>溶媒種類</th> <th>外観</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">・アクリル系</td> <td>・溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無 ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・弱溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td>・水系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・シリカ系</td> <td>・水系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td>・溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無 ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・弱溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ポリウレタン系</td> <td>・溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無 ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・弱溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td>・水系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・アクリルシリコン系</td> <td>・溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無 ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・弱溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td>・水系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ふっ素系</td> <td>・溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無 ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・弱溶剤系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> <tr> <td>・水系</td> <td>・艶有 ・艶無</td> </tr> </table>	樹脂種類	溶媒種類	外観	・アクリル系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無	・水系	・艶有 ・艶無	・シリカ系	・水系	・艶有 ・艶無	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無	・ポリウレタン系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無	・水系	・艶有 ・艶無	・アクリルシリコン系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無	・水系	・艶有 ・艶無	・ふっ素系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無	・水系	・艶有 ・艶無	<p>5. 網戸等 (16.2.3)</p> <p>形式 ・可動式 ・固定式</p> <p>防虫網</p> <p>網の材質 ・合成樹脂 ・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ステンレス (SUS316) ・ ()</p> <p>線径 ・0.25mm以上 ・ ()</p> <p>網目 ・16メッシュ ・18メッシュ ・ ()</p> <p>防鳥網</p> <p>網の材質 ・ステンレス (SUS304) ・ ()</p> <p>線径 ・1.5mm ・ ()</p> <p>網目寸法 ・15メッシュ ・ ()</p>	<p>(表16.7.3) フラッシュ戸の形状</p> <p>(16.7.4) 表面板の厚さ ・標準仕様書[表16.7.6] ・ ()</p> <p>(16.8.2) 引戸の召合わせ ・いろいろ付き 図示 (図面番号:)</p> <p>(表16.8.4) かまち戸 かまち、鏡板の樹種 ・図示 (図面番号:)</p> <p>(表16.8.5) ふすま 種別 ・I型 ・II型</p> <p>水切り板、ぜん板等 ・図示 (図面番号:)</p> <p>建具周りの止水処理 (外部に面するもののみ) 線の仕上げ ・図示 (図面番号:)</p> <p>枠及びくづりの材料 ・図示 (図面番号:)</p> <p>各木製建具の見込み寸法 ・標準仕様書[表16.7.7] ・図示 (図面番号:)</p> <p>戸車、レールの外径等 ・標準仕様書[表16.8.5] ・ ()</p>	<p>18. ガラスブロック積み (16.14.5)</p> <p>表面形状、寸法、厚さ ・図示 (図面番号:)</p> <p>壁用金属枠、補強材 ・図示 (図面番号:)</p> <p>力骨の材質等 ・SUS304、φ5.5はしご形状複筋、単筋 ・ ()</p> <p>化粧目地モルタルの色 ・ ()</p> <p>シーリング材の種類 ・ ()</p> <p>化粧カバーの材質、形状等 ・図示 (図面番号:)</p> <p>風圧力に対応した工法 ・図示 (図面番号:)</p> <p>アンカー等の留付け間隔 (木下地の場合) ・図示 (図面番号:)</p> <p>目地幅、伸縮調整目地 ・標準仕様書[16.14.5] (2) (ウ) ・ ()</p>
	樹脂種類	溶媒種類	外観																																							
・アクリル系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック																																								
	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無																																								
	・水系	・艶有 ・艶無																																								
・シリカ系	・水系	・艶有 ・艶無																																								
	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック																																								
	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無																																								
・ポリウレタン系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック																																								
	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無																																								
	・水系	・艶有 ・艶無																																								
・アクリルシリコン系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック																																								
	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無																																								
	・水系	・艶有 ・艶無																																								
・ふっ素系	・溶剤系	・艶有 ・艶無 ・メタリック																																								
	・弱溶剤系	・艶有 ・艶無																																								
	・水系	・艶有 ・艶無																																								
<p>(15.6.4) ALGパネルの内壁目地 ・V形目地付き ・ ()</p> <p>7. マステック塗材塗り (15.7.2) (表15.7.1)</p> <p>7. マステック塗材塗り (15.7.2) (表15.7.1)</p> <p>8. セッコウ プラスター塗り (15.8.2) (15.8.3)</p> <p>下塗り、中塗り ・既調合プラスター ・現場調合プラスター</p> <p>上塗り ・既調合プラスター ・しっくい塗り</p> <p>10. しっくい塗り (15.10.1) (15.10.2) (15.10.3) (表15.10.1) (表15.10.2)</p> <p>下地 ・木ずり ・こまい土壁塗り ・せっこうラスボード ・せっこうボード ・ ()</p> <p>材料 ・現場調合材料 標準仕様書[15.10.2] (1) (7) ・既調合材料 標準仕様書[15.10.2] (1) (4) しっくい塗材の種類等 ・ ()</p> <p>調合及び各層の塗厚</p> <p>木ずり下地 ・標準仕様書[表15.10.1] ・ ()</p> <p>こまい土壁下地 ・標準仕様書[表15.10.2] ・ ()</p> <p>その他の下地 ・ ()</p> <p>11. こまい壁塗り (15.11.2) (15.11.3) (15.11.4) (15.11.5) (表15.11.2) (表15.11.8) (表15.11.9)</p> <p>のりの種類</p> <p>土壁用 ・ふのり ・つのもた ・ぎんなんそう ・粉末海藻 ・ ()</p> <p>砂壁用 ・ふのり ・つのもた ・こんにゃくのり ・にかわ ・合成高分子系混和剤 ・ ()</p> <p>色土の種類 土物仕上げ ・ ()</p> <p>大津仕上げ ・ ()</p> <p>色砂の種類 ・ ()</p> <p>下塗りの調合 ・標準仕様書[表15.11.2] ・ ()</p> <p>塗厚 ・標準仕様書[表15.11.8] ・ ()</p> <p>耐力壁の指定 ・図示 (図面番号:)</p> <p>工程種別 ・A種 ・B種</p> <p>12. ロックウール吹付け (15.12.3)</p> <p>仕上げ吹付け厚さ () mm</p>	<p>6. 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (表16.3.1) ~ (表16.3.4)</p> <p>外部建具の性能等級等</p> <p>コンクリート系下地、鉄骨下地</p> <p>・A種 ・B種 ・C種 ・ ()</p> <p>木下地</p> <p>・D種 ・E種 ・ ()</p> <p>外部建具の遮音性能等級</p> <p>・T-A種 ・T-B種 ・ ()</p> <p>外部建具の断熱性能等級</p> <p>・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 ・ ()</p> <p>ガラス ・複層ガラス ・ ()</p> <p>建具枠見込み寸法 ・図示 (図面番号:)</p> <p>表面色 ・標準色 ・特注色</p> <p>水切り板 ぜん板 ・図示 (図面番号:)</p> <p>建具周りの止水処理 (外部に面するもののみ) 製造所の仕様による ・ ()</p> <p>7. 鋼製建具 (16.4.2) (表16.4.1) (表16.2.1) (16.4.4) (表16.4.2)</p> <p>簡易気密型ドアセット ・図示 (図面番号:)</p> <p>外部建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6</p> <p>防音ドア、防音サッシの遮音性 ・ (等級)</p> <p>断熱ドア、断熱サッシの断熱性 ・ (等級)</p> <p>耐震ドアの面内変形追随性 ・ (等級)</p> <p>鋼板類の厚さ ・ [表16.4.2] ・図示 (図面番号:)</p> <p>H>2400超 又は W>950超 ・図示 (図面番号:)</p> <p>8. 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (16.5.4) (表16.5.1)</p> <p>簡易気密型ドアセット ・図示 (図面番号:)</p> <p>外部建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6</p> <p>防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級)</p> <p>断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級)</p> <p>耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級)</p> <p>ステンレス鋼板 ・SUS304 ・ ()</p> <p>表面仕上げ ・HL ・鏡面仕上げ</p> <p>曲げ加工 ・普通曲げ ・角出し曲げ</p> <p>9. ステンレス製建具 (16.6.2) (16.6.3) (16.6.4) (16.6.5) (表16.4.1)</p> <p>簡易気密型ドアセット ・図示 (図面番号:)</p> <p>外部建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6</p> <p>防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級)</p> <p>断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級)</p> <p>耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級)</p> <p>ステンレス鋼板 ・SUS304 ・ ()</p> <p>表面仕上げ ・HL ・鏡面仕上げ</p> <p>曲げ加工 ・普通曲げ ・角出し曲げ</p> <p>10. 木製建具 (16.7.2) (16.7.3) (表16.7.1) (表16.7.6) (表16.7.7)</p> <p>建具材の含水率 ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>フラッシュ戸、戸ぶすまの合板</p> <p>種類、材面の品質 ・図示 (図面番号:)</p> <p>接着の程度 ・1類 (水掛り)、2類 (その他) ・ ()</p>	<p>(表16.8.1) キーボックス ・要 <input checked="" type="radio"/> 不要</p> <p>(16.8.3) 金物の種類、見え掛り部等の材質等</p> <p>(16.8.4) <input checked="" type="radio"/> 標準仕様書[表16.8.1] ・図示 (図面番号:)</p> <p>(表16.8.2) (表16.8.3) (表16.8.4)</p> <p>丁番の枚数、大きさ</p> <p>金属製建具 <input checked="" type="radio"/> 標準仕様書[表16.8.2] ・ ()</p> <p>樹脂製建具 ・標準仕様書[表16.8.3] ・ ()</p> <p>木製建具 ・標準仕様書[表16.8.4] ・ ()</p> <p>レバーハンドル、クレセント等の取付け位置</p> <p><input checked="" type="radio"/> 図示 (図面番号: A-14)</p> <p>12. 自動ドア開閉装置 (16.9.2) (表16.9.1) (表16.9.2) (表16.9.3) (表16.9.3) (表16.9.4)</p> <p>駆動装置の性能値</p> <p>多機能トイレ出入口以外 ・標準仕様書[表16.9.1] ・ ()</p> <p>多機能トイレ出入口 ・標準仕様書[表16.9.2] ・ ()</p> <p>検出装置の性能</p> <p>・標準仕様書[表16.9.3] ・ ()</p> <p>戸の開閉方法 ・図示 (図面番号:)</p> <p>引き戸用検出装置の種類 ・ ()</p> <p>凍結防止装置 ・行う ・行わない</p> <p>13. 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>性能値</p> <p>・標準仕様書 [表16.10.1] ・ ()</p> <p>14. 重量シャッター (16.11.2) (表16.11.1) (16.11.3)</p> <p>シャッターの種類 ・図示 (図面番号:)</p> <p>開閉方式 ・図示 (図面番号:)</p> <p>管理用シャッター、外壁用防火シャッター</p> <p>・耐風圧強度 (Pa 以上)</p> <p>保護装置の設置箇所 ・図示 (図面番号:)</p> <p>管理用シャッターのシャッターケース ・図示 (図面番号:)</p> <p>鋼板の種類 ・図示 (図面番号:)</p> <p>・めっき付着量 ・Z12 ・F12 ・ ()</p> <p>15. 軽量シャッター (16.12.2) (表16.12.1) (16.12.3) (16.12.4)</p> <p>開閉方式 <input checked="" type="radio"/> 図示 (図面番号: A-14)</p> <p>・耐風圧強度 (392 Pa 以上)</p> <p>保護装置の設置箇所 ・図示 (図面番号:)</p> <p>スラットの材質、めっき付着量</p> <p><input checked="" type="radio"/> JIS G 3312 <input checked="" type="radio"/> Z06 ・F06 ・ ()</p> <p>・ JIS G 3322 ・AZ90 ・ ()</p> <p>スラットの形状</p> <p><input checked="" type="radio"/> インターロッキング形 ・オーバーラッピング形</p>	<p>17. カーテンウォール工事</p> <p>1. 種類 (17.1.1) (17.1.3)</p> <p>2. 性能等 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)</p> <p>耐風圧性 ()</p> <p>耐震性 ()</p> <p>水密性 ()</p> <p>気密性 ()</p> <p>耐火性 ()</p> <p>耐温度差性 ()</p> <p>遮音性 ()</p> <p>断熱性 ()</p> <p>性能の確認・判定方法 ()</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>断熱材 ()</p> <p>3. メタルカーテンウォール (17.2.2) (17.2.3) (表17.2.1) (17.2.5) (17.2.6) (表17.2.2) (表17.2.3)</p> <p>カーテンウォールの材料</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>材料</th> <th>規格等</th> <th>見え掛り部の仕上げ</th> <th>映像調整</th> </tr> <tr> <td>・アルミニウム製</td> <td>・標準仕様書[16.2.3]</td> <td>・A-1</td> <td>・行う</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・A-2</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>製品の寸法許容差 ・標準仕様書[表17.2.1]</p> <p>ガラス溝の寸法、形状等 ・カーテンウォール製作所の仕様による</p> <p>取付け</p> <p>躯体付け金物取付け位置の寸法許容差</p> <p>・標準仕様書[表17.2.2] ・ ()</p> <p>カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差</p> <p>・標準仕様書[表17.2.3] ・ ()</p> <p>ガラスの取付け ・構造用ガスケット (図示 (図面番号:))</p> <p>4. PCカーテンウォール (17.3.2) (17.3.3) (17.3.4) (17.3.5) (17.3.6) (表17.3.1) (表17.3.2)</p> <p>カーテンウォールの材料</p> <p>コンクリートの種類及び品質 ・図示 (図面番号:)</p> <p>鉄筋 ・SD295A ・ ()</p> <p>補強鉄線の径、網目寸法 ・図示 (図面番号:)</p> <p>耐火目地材 ・ ()</p> <p>配筋 ・図示 (図面番号:)</p> <p>先付け材料 ・仕上げ材 () ・建具枠 ()</p> <p>・ゴンドラ用ガイドレール () ・ ()</p> <p>製品の寸法許容差等 ・標準仕様書[17.3.3]による</p> <p>表面仕上げ材 ・磁器質タイル</p> <p>石材 (・花こう岩 ・大理石 ・ ())</p> <p>取付け</p> <p>カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差</p> <p>・標準仕様書[表17.3.2] ・ ()</p> <p>ガラスの取付け ・構造用ガスケット (図示 (図面番号:))</p>	材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整	・アルミニウム製	・標準仕様書[16.2.3]	・A-1	・行う	・ ()	・ ()	・A-2	・ ()																											
材料	規格等	見え掛り部の仕上げ		映像調整																																						
・アルミニウム製	・標準仕様書[16.2.3]	・A-1	・行う																																							
・ ()	・ ()	・A-2	・ ()																																							
<p>1. 防火戸 (16.1.3)</p> <p>防火戸の指定 ・図示 (図面番号:)</p> <p>ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの</p> <p>・図示 (図面番号:)</p> <p>2. 見本の製作等 (16.1.4)</p> <p>建具見本の製作 ・実施する</p> <p>特殊な建具の仮組 ・実施する</p> <p>3. 防犯建物部品 (16.1.6)</p> <p>防犯建物部品 ・図示 (図面番号:)</p> <p>4. アルミ製建具 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) (表16.2.2) (表16.2.2) (表16.2.5)</p> <p>外部建具の性能等級等</p> <p>コンクリート系下地、鉄骨下地</p> <p><input checked="" type="radio"/> A種 ・B種 ・C種 ・ ()</p> <p>木下地</p> <p>・D種 ・E種 ・ ()</p> <p>表面処理 種別 <input checked="" type="radio"/> (BB-1) <input checked="" type="radio"/> 標準色 ・特注色</p> <p>内部建具</p> <p>表面処理 種別 ・ () ・標準色 ・特注色</p>	<p>16. オーバーヘッドドア (16.13.2) (16.13.3)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>セクション材料</th> <th>開閉方式</th> <th>収納形式</th> <th>ガイドレール</th> </tr> <tr> <td>・スチールタイプ</td> <td>・バランス式</td> <td>・スタンダード形</td> <td>・溶融亜鉛</td> </tr> <tr> <td>・アルミニウムタイプ</td> <td>・チェーン式</td> <td>・ローヘッド形</td> <td>めっき鋼板</td> </tr> <tr> <td>・ファイバーグラスタイプ</td> <td>・電動式</td> <td>・ハイリフト形</td> <td>・ステンレス</td> </tr> </table> <p>耐風圧性能の区分 JIS A 4715 ・ ()</p> <p>保護装置の設置箇所 ・図示 (図面番号:)</p> <p>17. ガラス (16.14.2) (16.14.3) (16.14.4)</p> <p>板ガラスの種類、厚さ、特性による種類等 <input checked="" type="radio"/> 図示 (図面番号: A-14)</p> <p>留め材 <input checked="" type="radio"/> シーリング ・ガスケット ()</p> <p>ガラス溝の寸法、形状等</p> <p><input checked="" type="radio"/> 製造所の仕様による ・図示 (図面番号:)</p> <p>熱線反射ガラスの映像調整 ・実施する</p>	セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール	・スチールタイプ	・バランス式	・スタンダード形	・溶融亜鉛	・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	めっき鋼板	・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	・ステンレス	<p>18. 塗装工事</p> <p>1. 材料 (18.1.4)</p> <p>2. 施工一般 (18.2.2) ~ (18.14.2)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">下地の種類</th> <th rowspan="2">素地ごしらえ</th> <th rowspan="2">錆止め塗料の種類</th> </tr> <tr> <td>SOP</td> <td>・A種 <input checked="" type="radio"/> B種</td> <td>鉄骨外部梁</td> <td>鉄鋼面</td> <td>・A種 ・B種 <input checked="" type="radio"/> C種</td> <td>A種</td> </tr> <tr> <td>EP</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> <td>ボード面</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> </tr> </table>	種類	種別	施工箇所	下地の種類	素地ごしらえ	錆止め塗料の種類	SOP	・A種 <input checked="" type="radio"/> B種	鉄骨外部梁	鉄鋼面	・A種 ・B種 <input checked="" type="radio"/> C種	A種	EP	・A種 ・B種		ボード面	・A種 ・B種							
セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール																																							
・スチールタイプ	・バランス式	・スタンダード形	・溶融亜鉛																																							
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	めっき鋼板																																							
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	・ステンレス																																							
種類	種別	施工箇所	下地の種類	素地ごしらえ	錆止め塗料の種類																																					
						SOP	・A種 <input checked="" type="radio"/> B種	鉄骨外部梁	鉄鋼面	・A種 ・B種 <input checked="" type="radio"/> C種	A種																															
EP	・A種 ・B種		ボード面	・A種 ・B種																																						

18 塗 装 工 事	3. 耐候性塗料 塗り (DP) (18. 7. 2) (表18. 7. 1) (18. 7. 3) (18. 7. 4)	<table border="1"> <tr> <th>下地の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>上塗り等級</th> <th>コンクリート、ECP面における種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ 1級 ・ 2級 ・ 3級</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> </table>	下地の種類	施工箇所	上塗り等級	コンクリート、ECP面における種別			・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	・ A種 ・ B種 ・ C種																					
	下地の種類	施工箇所	上塗り等級	コンクリート、ECP面における種別																											
		・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	・ A種 ・ B種 ・ C種																												
4. オイルステイン塗り (18. 12. 2)	塗料 ()																														
19 内 装 工 事	1. ビニル床シート 張り (19. 2. 2) (表19. 2. 1)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>色柄</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>継目</th> </tr> <tr> <td>・ FS ・ ()</td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ 2.0 ・ ()</td> <td>・ 溶接 ・ 突付け</td> </tr> </table> <p>接着剤の種類、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 (図面番号:)</p>	種類	色柄	厚さ (mm)	継目	・ FS ・ ()	・ 無地 ・ 柄物	・ 2.0 ・ ()	・ 溶接 ・ 突付け																					
	種類	色柄	厚さ (mm)	継目																											
	・ FS ・ ()	・ 無地 ・ 柄物	・ 2.0 ・ ()	・ 溶接 ・ 突付け																											
	2. ビニル床タイル 張り (19. 2. 2) (表19. 2. 1)	<table border="1"> <tr> <th>寸法・色合</th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 300×300 ()</td> <td>・ コンポジションビニル床タイル (KT)</td> <td>・ 半硬質 ・ 2.0</td> </tr> <tr> <td>・ 450×450 ()</td> <td>・ コンポジションビニル床タイル (KT)</td> <td>・ 軟質 ・ ()</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ ホモジニアスビニルタイル</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>接着剤の種類、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 (図面番号:)</p>	寸法・色合	種類	厚さ (mm)	・ 300×300 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	・ 半硬質 ・ 2.0	・ 450×450 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	・ 軟質 ・ ()	・ ホモジニアスビニルタイル		・ ()																	
	寸法・色合	種類	厚さ (mm)																												
	・ 300×300 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	・ 半硬質 ・ 2.0																												
	・ 450×450 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	・ 軟質 ・ ()																												
	・ ホモジニアスビニルタイル		・ ()																												
	3. 特殊機能床材 (19. 2. 2) (表19. 2. 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯電防止ビニルシート・床タイル 寸法 (mm) 厚さ (mm) 種類 () ・ 視覚障害者用床タイル 種類 (・ ビニル床タイル ()) 形状 (・ 300×300 ()) ・ 耐動荷重性床シート 種類 () 寸法 () 厚さ (mm) ・ ゴム床タイル 色柄 () 種類 () 寸法 () 厚さ (mm) <p>接着剤の種類、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 (図面番号:) ・ 防滑り性床シート・床タイル 種類 () 寸法 () 厚さ ()</p>																													
	4. ビニル幅木 (19. 2. 2)	種類 (図面番号:) 高さ (図面番号:) ・ 60mm 厚さ (図面番号:) ・ 1.5mm以上																													
5. 施工 (19. 2. 3)	下地 ・ モルタル ・ セルフレリング ・ 木造 ・ () 目地処理方法 ・ 突付け ・ 熱溶接工法																														
6. カーペット敷き (19. 3. 2) (表19. 3. 1) (表19. 3. 2)	織りじゅうたん <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>色柄</th> <th>パイル形状</th> <th>パイル長・寸法・総厚</th> <th>織り方</th> </tr> <tr> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ 無地 ・ 柄物 (標準品)</td> <td>・ ループ ・ カット</td> <td>・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>色柄</th> <th>パイル形状</th> <th>パイル長・寸法・総厚</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>・ タブレット カーペット</td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ ループ ・ カット</td> <td>・ パイル長 ・ 5~7mm ・ 4~6mm</td> <td>・ グリッパ ・ 全面接着</td> </tr> <tr> <td>・ ニードル パンチ カーペット</td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td></td> <td>・ 総厚さ ・ ()</td> <td>・ 全面接着</td> </tr> <tr> <td>・ タイル カーペット</td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ ループ ・ カット</td> <td>・ 総厚さ、サイズ ・ 6.5mm ・ 500角</td> <td>・ 全面接着</td> </tr> </table> <p>・ 帯電性(人体帯電電圧の値3kV以下) タイルカーペットの敷き方(全面接着工法) 平場 ・ 市松敷き ・ 模様流し (図面番号:) 階段部分 ・ 市松敷き ・ 模様流し (図面番号:) 下敷き材 ・ 第2種2号、呼び厚さ8mm ・ 図示(図面番号:) 見切り、押え金物 ・ 材質 () ・ 種類 () ・ 形状(図面番号:) 織りじゅうたんの接合方法 ・ ヒートボンド工法 ()</p>	種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	織り方	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 無地 ・ 柄物 (標準品)	・ ループ ・ カット	・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット		種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	工法	・ タブレット カーペット	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	・ パイル長 ・ 5~7mm ・ 4~6mm	・ グリッパ ・ 全面接着	・ ニードル パンチ カーペット	・ 無地 ・ 柄物		・ 総厚さ ・ ()	・ 全面接着	・ タイル カーペット	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	・ 総厚さ、サイズ ・ 6.5mm ・ 500角	・ 全面接着
種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	織り方																											
・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 無地 ・ 柄物 (標準品)	・ ループ ・ カット	・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット																												
種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	工法																											
・ タブレット カーペット	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	・ パイル長 ・ 5~7mm ・ 4~6mm	・ グリッパ ・ 全面接着																											
・ ニードル パンチ カーペット	・ 無地 ・ 柄物		・ 総厚さ ・ ()	・ 全面接着																											
・ タイル カーペット	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	・ 総厚さ、サイズ ・ 6.5mm ・ 500角	・ 全面接着																											
7. 合成樹脂塗床 (19. 4. 3) (表19. 4. 4) (表19. 4. 5) ~(表19. 4. 8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弾性ウレタン塗床材 (JISK 5970) 仕上げ ・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ ・ エポキシ樹脂塗床材 (JISK 5970) 工法、仕上げ ・ 薄膜流しのペ工法 (・ 平滑 ・ 防滑) ・ 厚膜流しのペ工法 (・ 平滑 ・ 防滑) ・ 樹脂モルタル工法 (・ 平滑 ・ 防滑) ・ 塗膜型塗床工法 (平滑) 																														
8. フローリング 張り (19. 5. 2) (19. 5. 3) (19. 5. 4) (19. 5. 5) (19. 5. 6) (表19. 5. 2) (表19. 5. 4)	<p>材料 ・ 単層フローリング ・ フローリングボード(1等) ・ フローリングブロック(1等) ・ 複合フローリング</p> <p>・ 釘留め工法</p> <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>種別</th> <th>樹種</th> </tr> <tr> <td>・ フローリングボード (根太張用)</td> <td></td> <td>・ なら ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 複合フローリング (根太張用)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ なら ・ ()</td> </tr> </table> <p>・ 接着工法</p> <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>樹種</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>大きさ (mm)</th> <th>表面緩衝材</th> </tr> <tr> <td>・ フローリングボード (直張用)</td> <td>・ なら ・ ()</td> <td></td> <td></td> <td>合成樹脂発泡シート</td> </tr> <tr> <td>・ フローリングブロック (直張用)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 複合フローリング (直張用)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>現場塗装 仕上げ ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (・ A種 ・ B種) ・ オイルステイン塗りのうえワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り ・ ()</p>	材料	種別	樹種	・ フローリングボード (根太張用)		・ なら ・ ()	・ 複合フローリング (根太張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら ・ ()	材料	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	表面緩衝材	・ フローリングボード (直張用)	・ なら ・ ()			合成樹脂発泡シート	・ フローリングブロック (直張用)					・ 複合フローリング (直張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種				
材料	種別	樹種																													
・ フローリングボード (根太張用)		・ なら ・ ()																													
・ 複合フローリング (根太張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら ・ ()																													
材料	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	表面緩衝材																											
・ フローリングボード (直張用)	・ なら ・ ()			合成樹脂発泡シート																											
・ フローリングブロック (直張用)																															
・ 複合フローリング (直張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種																														
9. 畳敷き (19. 6. 2) (表19. 6. 1)	種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ D種の畳床 KT-(I ・ II ・ III ・ K ・ N)																														
10. セッコウボード、 その他のボード 及び合板張り (19. 7. 2) (表19. 7. 1) (19. 7. 3) (表19. 7. 3) (表19. 7. 5)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種別</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ セッコウボード</td> <td>壁</td> <td>・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(不燃)</td> </tr> <tr> <td>天井</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 化粧セッコウボード</td> <td>・ トラバーチン模様</td> <td>・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・ 木目模様</td> <td>・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ロックウール化粧 吸音板</td> <td>・ 普通</td> <td>・ 9 ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 立体模様</td> <td>・ 9 ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ けい酸カルシウム板</td> <td>・ タイプ II 0.8FK</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>合板張り ・ 普通合板 表面の樹種名 ・ 生地そのまま (透明塗料塗り)ラワン (不透明塗料塗り)しな () 板面の品質 () 厚さ (mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) () 防虫処理 () ・ 天然化粧合板 化粧板の樹種名 () 厚さ (mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) () 防虫処理 () ・ 特殊加工合板 化粧加工の方法 ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 () 表面性能 () 厚さ (mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) () 防虫処理 ()</p>	種類	種別	厚さ (mm)	・ セッコウボード	壁	・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(不燃)	天井		・ 化粧セッコウボード	・ トラバーチン模様	・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)	・ 木目模様	・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)	・ ロックウール化粧 吸音板	・ 普通	・ 9 ・ ()	・ 立体模様	・ 9 ・ ()	・ けい酸カルシウム板	・ タイプ II 0.8FK	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()						
種類	種別	厚さ (mm)																													
・ セッコウボード	壁	・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(不燃)																													
	天井																														
・ 化粧セッコウボード	・ トラバーチン模様	・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)																													
	・ 木目模様	・ 9.5(不燃) ・ 9.5(準不燃)																													
・ ロックウール化粧 吸音板	・ 普通	・ 9 ・ ()																													
	・ 立体模様	・ 9 ・ ()																													
・ けい酸カルシウム板	・ タイプ II 0.8FK	・ ()																													
・ ()	・ ()	・ ()																													
20 ユニ ット 及 び そ の 他 工 事	1. フリーアクセス フロア (20. 2. 2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>所定荷重</th> <th>高さ (mm)</th> <th>床仕上材及び厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm</td> <td>・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm</td> <td>・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()</td> </tr> </table> <p>試験方法 20. 2. 2(2)(4)(a) ~ (d) 寸法精度 20. 2. 2(2)(4)(a) ~ (c)</p>	施工箇所	所定荷重	高さ (mm)	床仕上材及び厚さ (mm)	備考				・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm	・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()				・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm	・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()														
	施工箇所	所定荷重	高さ (mm)	床仕上材及び厚さ (mm)	備考																										
				・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm	・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()																										
				・ タイルカーペット ・ 6.5mm ・ () ・ ビニル床タイル ()mm	・ 帯電防止 ・ 漏えい抵抗 ・ ()																										
	2. 可動間仕切 (20. 2. 3)	組立て方式 ・ スタッド式 ・ パネル式 ・ スタッドパネル式 寸法及び形状 (図面番号:) 表面材の材質及び仕上げ (図面番号:) 遮音性 ・ 高遮音																													
3. 移動間仕切 (20. 2. 4)	操作方法 ・ 手動式 ・ 電動式 表面材の材質及び仕上げ (図面番号:) 遮音性 ・ 高遮音 ハンガーレールの取付け下地の補強 ・ 標準仕様書[20. 2. 4](3)(4) (図面番号:) パネルをランナーに取り付ける部品 ・ 標準仕様書[20. 2. 4](3)(5) (図面番号:) ハンガーレール ・ 標準仕様書[20. 2. 4](3)(6) (図面番号:) ランナー ・ 標準仕様書[20. 2. 4](3)(7) (図面番号:) ハンガーレールの固定方法 ・ 溶接 ・ あと施工アンカー (材質: 、寸法:)																														
4. トイレブース (20. 2. 5)	表面仕上 ・ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ・ 幅木 (図面番号:) 扉小口の材質 ・ ステンレス製 ・ アルミ製																														
5. 階段滑り止め (20. 2. 6)	・ ステンレスSUS304製 ビニルタイヤ入り(両端フラットエンド付き) ・ () 寸法 ・ 約35mm (図面番号:) 工法 ・ 接着工法 ・ 埋込み工法																														
21 排 水 工 事	①排水管 (21. 2. 1) (表21. 2. 1)	排水管用材料 <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○ 硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>VP</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材種	管の種類	呼び径	備考	○ 硬質ポリ塩化ビニル管	VP																							
	材種	管の種類	呼び径	備考																											
	○ 硬質ポリ塩化ビニル管	VP																													
②排水樹等 (21. 2. 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水樹 種類及び寸法 (図面番号:) ・ 適用荷重 () ・ 排水溝 種類及び寸法 (図面番号:) ・ ふた/グレーチングの種類 <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインパーピッチ</th> <th>ホル固定</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	用途	適用荷重	メインパーピッチ	ホル固定																									
材質	用途	適用荷重	メインパーピッチ	ホル固定																											
6. 黒板及び ホワイトボード (20. 2. 8)	黒板の種類 ・ 焼付け () 黒板の色 ・ 緑 () 厚さ ・ 5mm (mm)																														
7. 鏡 (20. 2. 14)																															
8. 表示 (20. 2. 10)	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>厚さ</th> <th>寸法</th> <th>印刷等の種類</th> <th>取付方法</th> </tr> <tr> <td>・ 室名札 ・ ()</td> <td>・ アクリル ・ ()</td> <td>・ 5mm</td> <td>・ ()</td> <td>・ シルク スクリーン印刷 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 案内板 ・ ()</td> <td>・ アクリル ・ ()</td> <td>・ 5mm</td> <td>・ ()</td> <td>・ シルク スクリーン印刷 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>・ 衝突防止表示 (図面番号:) ・ 非常用進入口表示 (図面番号:) 適用安全使用温度 (°C)</p>	区分	材質	厚さ	寸法	印刷等の種類	取付方法	・ 室名札 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()	・ 案内板 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()												
区分	材質	厚さ	寸法	印刷等の種類	取付方法																										
・ 室名札 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()																										
・ 案内板 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()																										
9. 煙突 ライニング (20. 2. 11)																															
10. ブラインド (20. 2. 12)	<table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>スラット</th> <th>閉開方式</th> <th>スラットの 成形幅 (mm)</th> <th>ヘッドボックス・ ボトムレールの種類</th> </tr> <tr> <td>・ 横形 ブラインド</td> <td>・ アルミニウム 合金 ・ ()</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()</td> <td>・ 25 ・ ()</td> <td>・ 鋼製 ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形 ブラインド</td> <td>・ アルミニウム 合金 ・ ()</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()</td> <td>・ 80 ・ 100 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>操作方法 ・ スプリング式 ・ コード式 ・ 電動式 寸法及び材種 (図面番号:)</p>	形式	スラット	閉開方式	スラットの 成形幅 (mm)	ヘッドボックス・ ボトムレールの種類	・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()	・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 80 ・ 100 ・ ()	・ ()															
形式	スラット	閉開方式	スラットの 成形幅 (mm)	ヘッドボックス・ ボトムレールの種類																											
・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()																											
・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 80 ・ 100 ・ ()	・ ()																											
11. ロール スクリーン (20. 2. 13)																															
12. カーテン及び カーテンレール (20. 2. 14)	カーテンの形式等 <table border="1"> <tr> <th>きれ地</th> <th>ひだの種類</th> <th>形式</th> <th>閉開操作</th> </tr> <tr> <td>・ ドレープ ・ レース ・ 図示()</td> <td>・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ</td> <td>・ 片引き ・ 引分け ・ ()</td> <td>・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動</td> </tr> <tr> <td>・ 遮幕 (遮光()級)</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>カーテンレール ・ アルミ製 ・ ステンレス製 強さによる区分 ・ 10-90 () 形状 ・ シングル ・ ダブル 断面形状 ・ 角形 ・ C形 ・ D形</p>	きれ地	ひだの種類	形式	閉開操作	・ ドレープ ・ レース ・ 図示()	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ	・ 片引き ・ 引分け ・ ()	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ 遮幕 (遮光()級)	・ ()	・ ()	・ ()																		
きれ地	ひだの種類	形式	閉開操作																												
・ ドレープ ・ レース ・ 図示()	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ	・ 片引き ・ 引分け ・ ()	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動																												
・ 遮幕 (遮光()級)	・ ()	・ ()	・ ()																												
13. プレキャスト コンクリート工事 (20. 3. 2) (20. 3. 3) (20. 3. 4)	補強鉄線の径 ・ 3.2mm () 補強鉄線の網目寸法 () 設計基準強度F _c (図面番号:) 配筋 (図面番号:) 取付方法 (図面番号:)																														
14. 間知石 間知ブロック積 積み方 (20. 4. 2) (20. 4. 3)	材種 () 種類及び質量区分 (図面番号:) 積み方 ・ 谷積み ・ 布積み 目塗り () 伸縮調整目地 ・ 材種 () ・ 厚さ (mm)																														

設計概要

工事名称	(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事	敷地面積	652.13㎡
建築場所	津市久居明神町 地内	建築面積	97.5㎡
用途地域	市街化調整地域	床面積	1階床面積97.5㎡
防火指定	指定なし (法22条地域)	延床面積	97.5㎡
主要用途	倉庫		
構造	鉄骨造、平家建	工事範囲	建築工事、電気設備工事

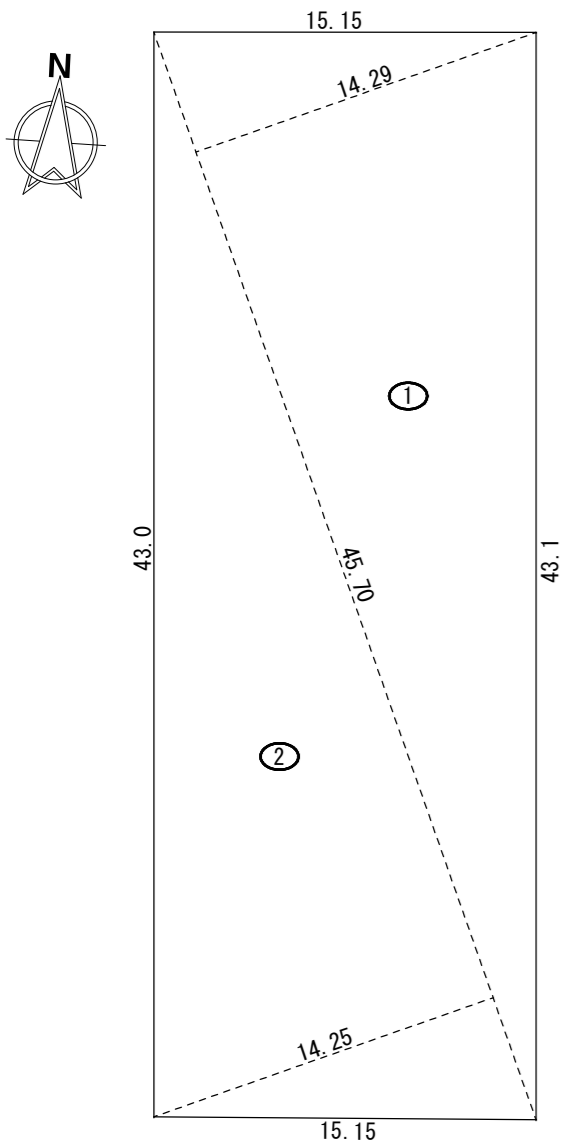
外部仕上表

巾 木	コンクリート打放シ H=500	雨 樋	軒樋:塩ビ120U (折板用カバー) ステンレス受け金物@1000以内 縦樋:VP管100φ (カバー) 摺り金物 ステンレス製@1100内外
外 壁	カラーガルバリウム角波鋼板t=0.4	外部犬走り (シャッター前)	土間コンクリート金鍍押t150 鉄筋D10@200縦横共
屋 根	折板屋根: カラーガルバリウム鋼板t=0.6 H=88 (タイフレム)	軒 裏	折板屋根表し 鉄骨部SOP塗 (錆止メ共)
建 具	7.5ミッチ (鉄骨用シルバー) 軽量スプリングシャッター (スラットt=0.8カラー鋼板) 三方枠: カラー鋼板 W169t1.5見付t30		

内部仕上表

階	室 名	床		巾 木		腰		壁		天 井		廻縁	備 考
		下地	仕 上	仕 上	H	下地	仕 上	下地	仕 上	天井高			
1 階	倉庫	砕石t100	土間コンクリート金鍍押t150 鉄筋D10@200縦横共	布基礎立上り表し	300	カラーガルバリウム角波鋼板t=0.4表し 鉄骨部 (錆止メ)		カラーガルバリウム角波鋼板t=0.4表し 鉄骨部 (錆止メ)	折板屋根表し カラーガルバリウム鋼板t=0.6 H=88 鉄骨部 (錆止メ)	5480			ブレンパドール PL005-6 ブレンパドール用1ヒールM: I-250×125×10錆止メ共 チェーンロック500kg (トリ付) 揚程4.0m チェーンロック1ヒールM用: I-250×125×10錆止メ共

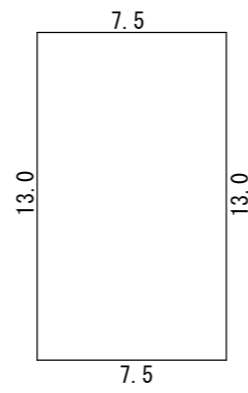
- [注意事項]
- * 使用建築材料は全てノンアスベスト商品とする。
 - * 使用建築材料は全てクロルピロソスの使用しない商品とする。
 - * 危険物の保管は無し。



敷地求積図 S=1:300

敷地面積 求積表

番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	45.70	14.29	653.0530	326.52650
2	45.70	14.25	651.2250	325.61250
合 計				652.13900
敷地面積				652.13 m ²



延べ面積・建築面積 求積表

室 名	記号	計 算 式	㎡
建築面積	①	7.5×13=97.5	97.5㎡
床面積	①	7.5×13=97.5	97.5㎡
延べ面積	①	7.5×13=97.5	97.5㎡

建物求積図 S=1:300

<p>■ 消防法による有窓階のチェック (SS-1、AD-1から道路まで幅員1m以上確保)</p>			
延べ面積	必要開口面積(1/30)	有効開口面積	判定
倉庫	97.5×1/30=3.25	SS-1軽量スプリングシャッター+AD-17ミミドア (片開き) 3×2.7+0.8×2.0=9.7 3.25<9.7	有窓
<p>■ 消防設備 用途: 倉庫 (14)項 収容人員: 5人 (作業時)</p>			
<p>・消火器ABC10型 =1本</p>			
<p>■ その他</p>			

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:300

drawing title
仕上表、敷地求積図、建物求積図

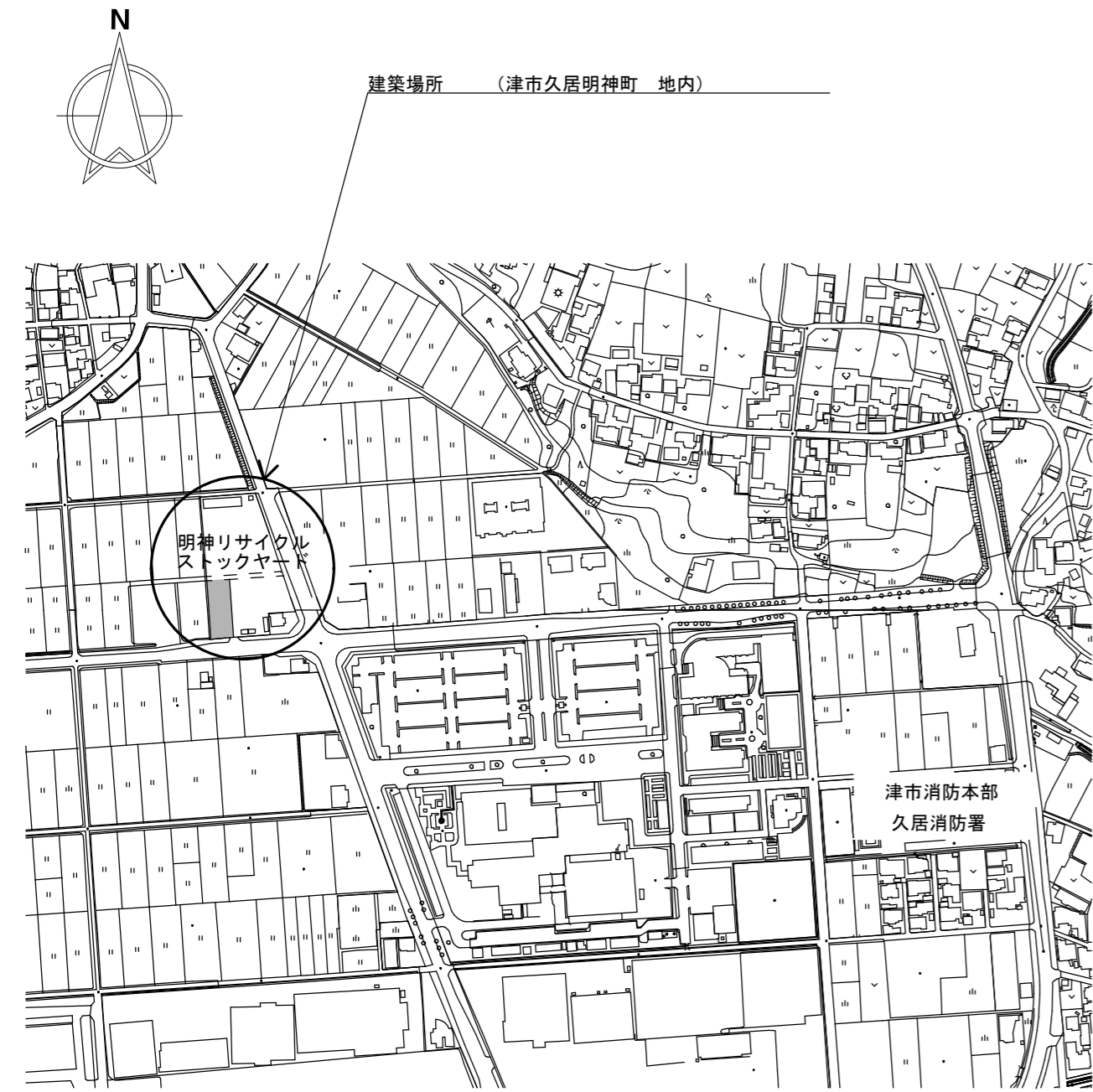
project title
(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

Kisho
Architectural
Design Office

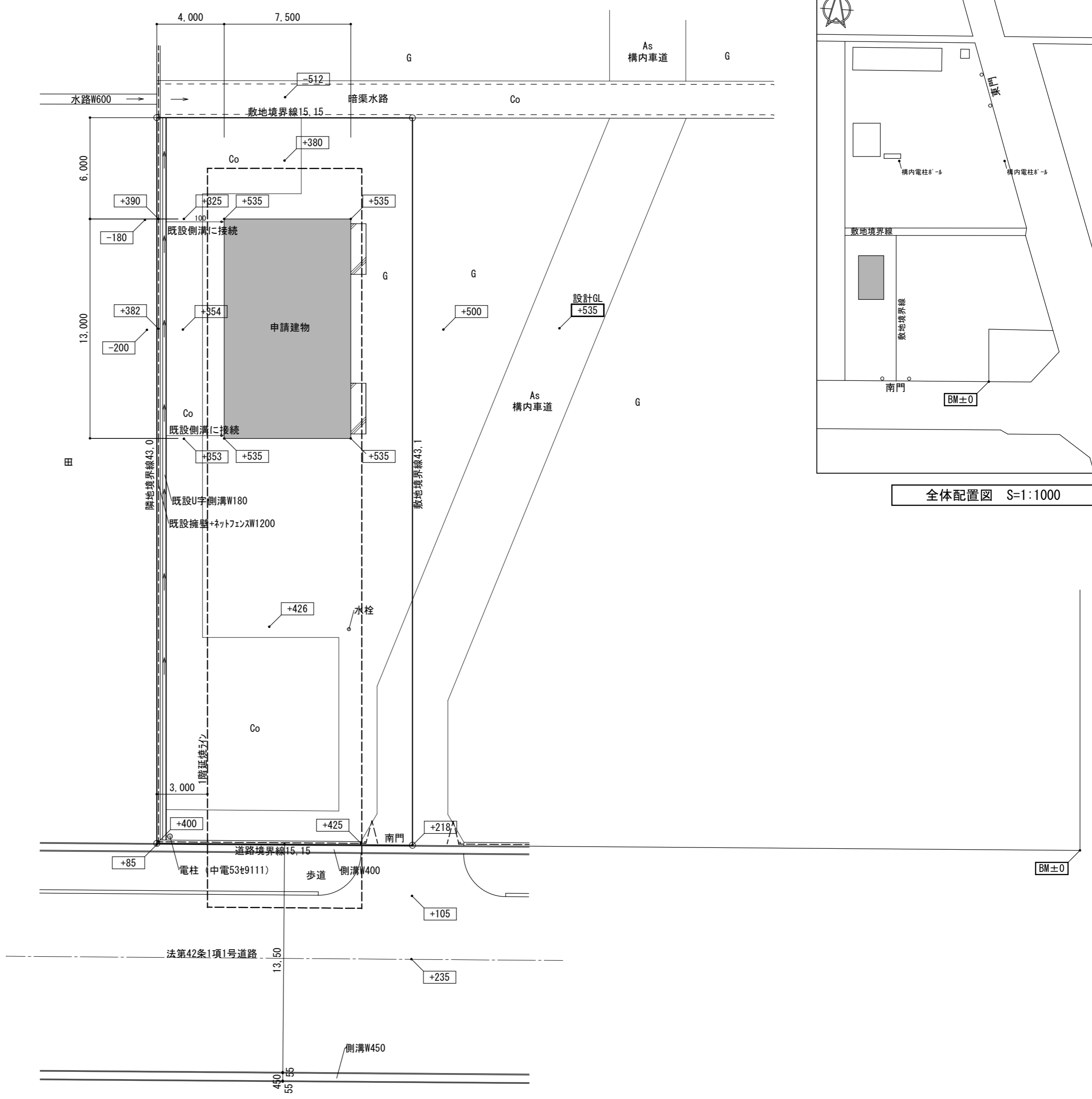
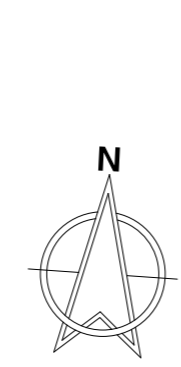
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no. sheet no.

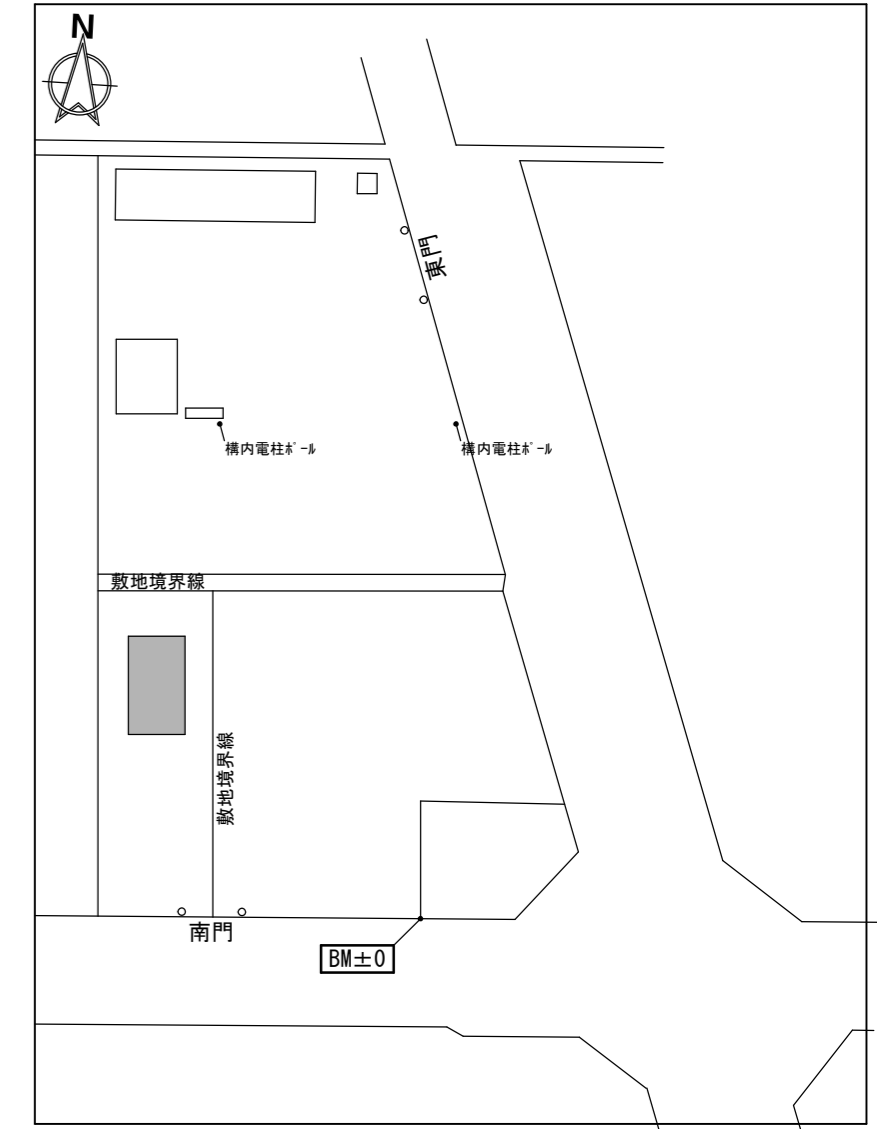
A-8
原図: A2



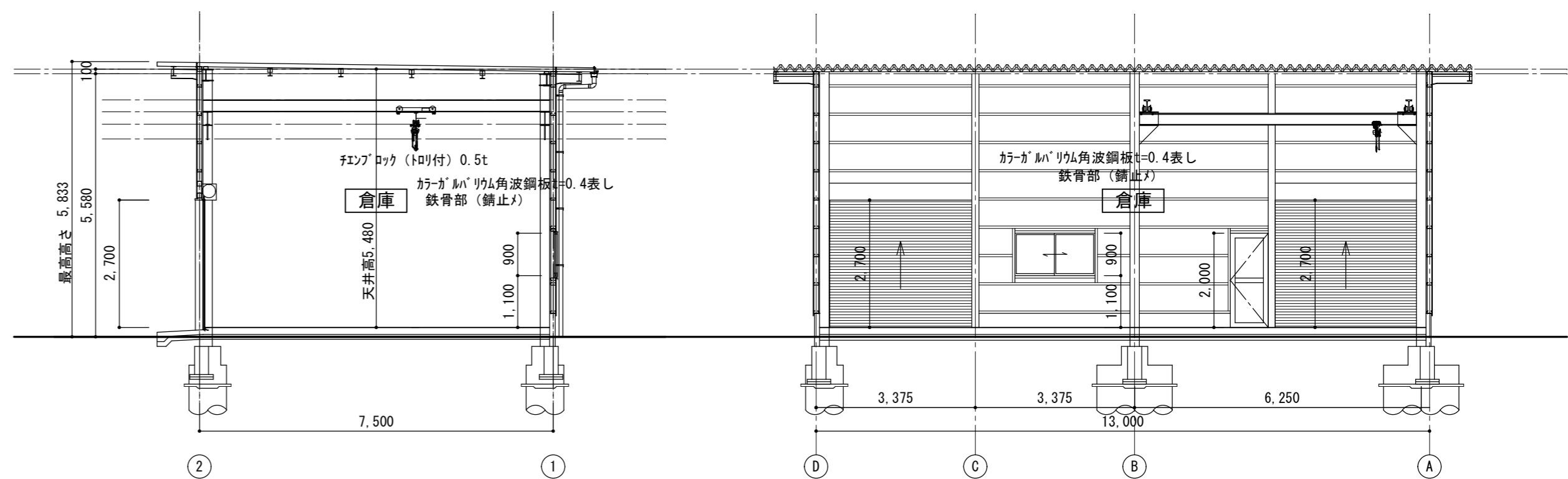
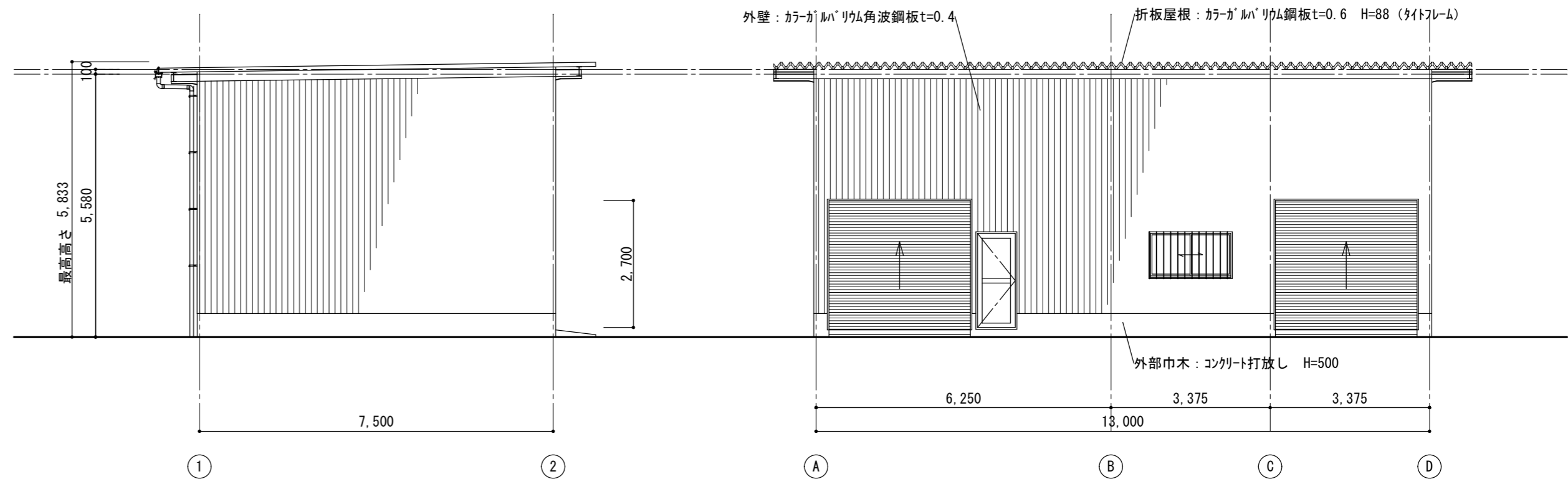
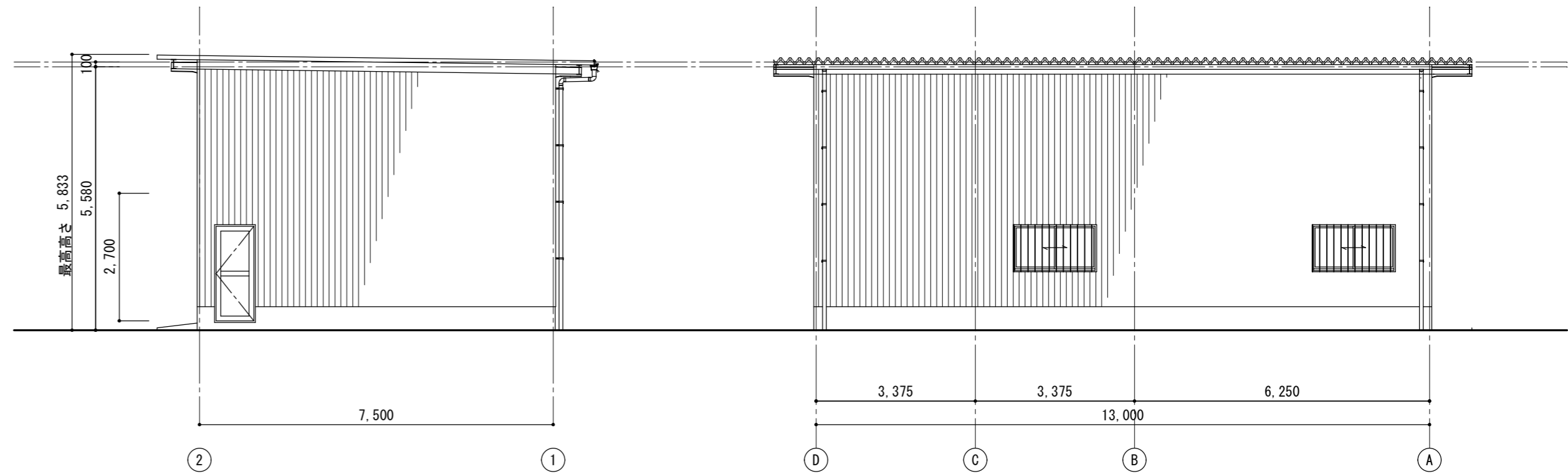
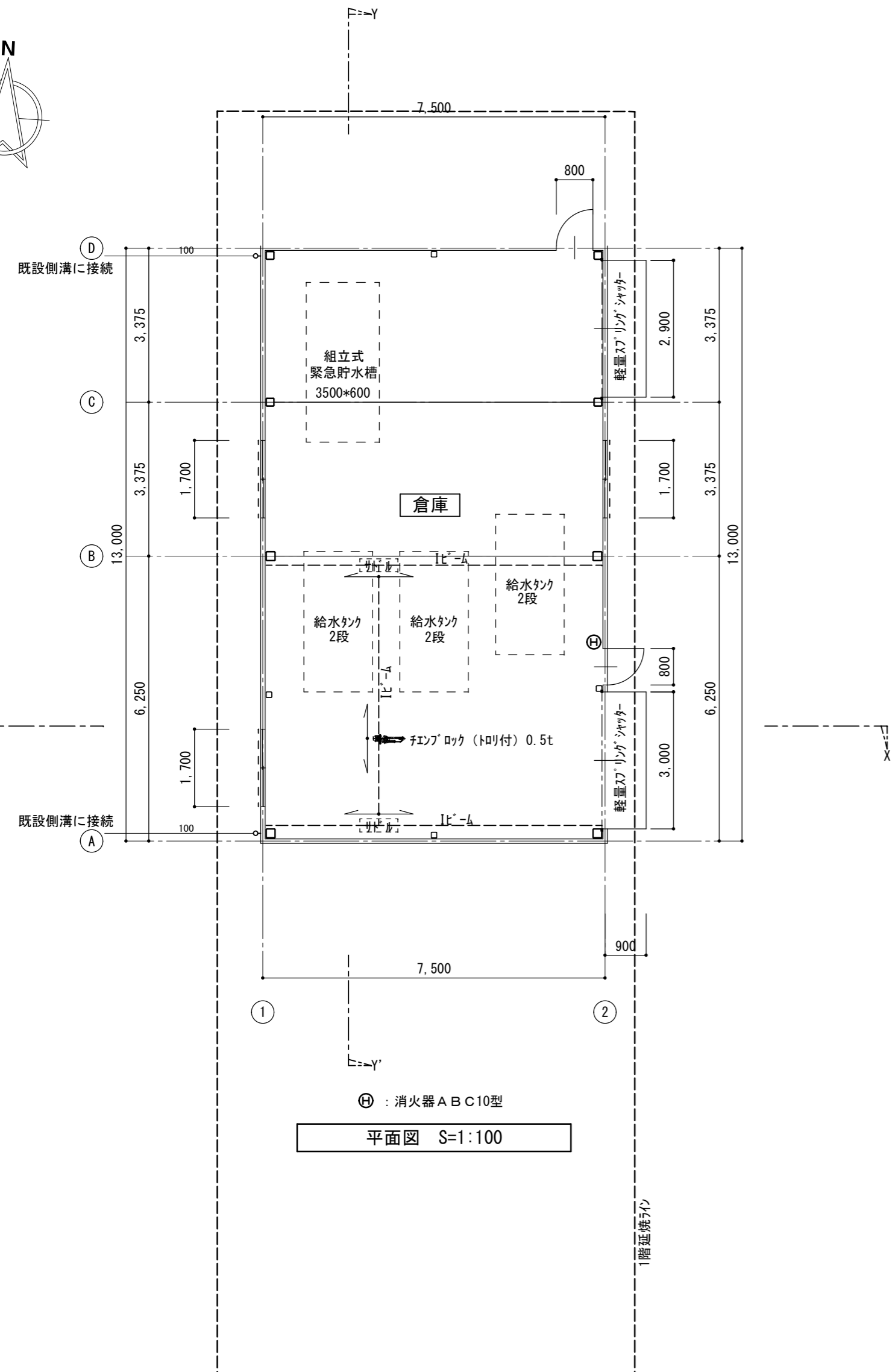
附近見取図



配置図 S=1:200



全体配置図 S=1:1000



memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:100

drawing title
平面図、立面図、断面図

project title
(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

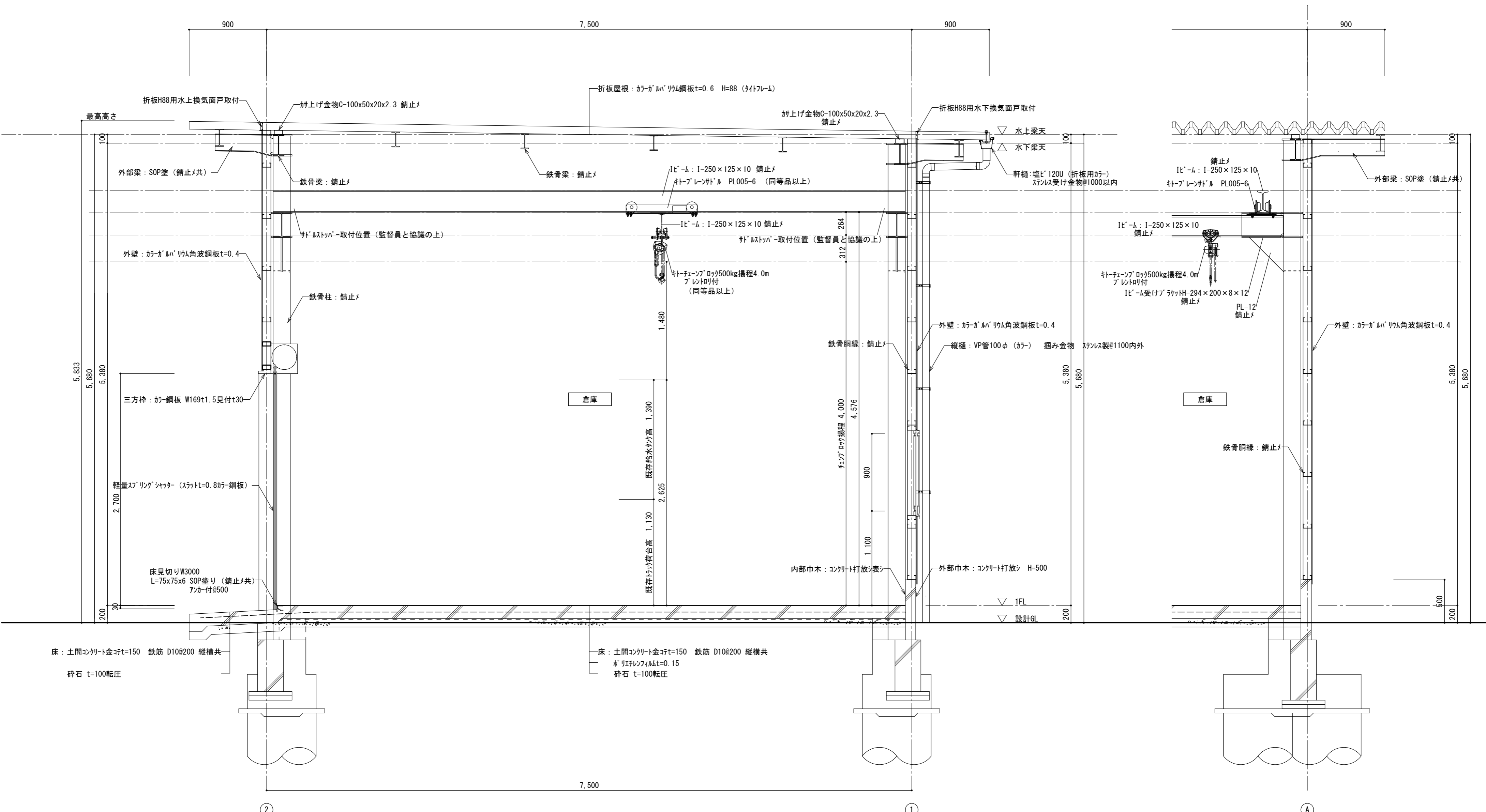
Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

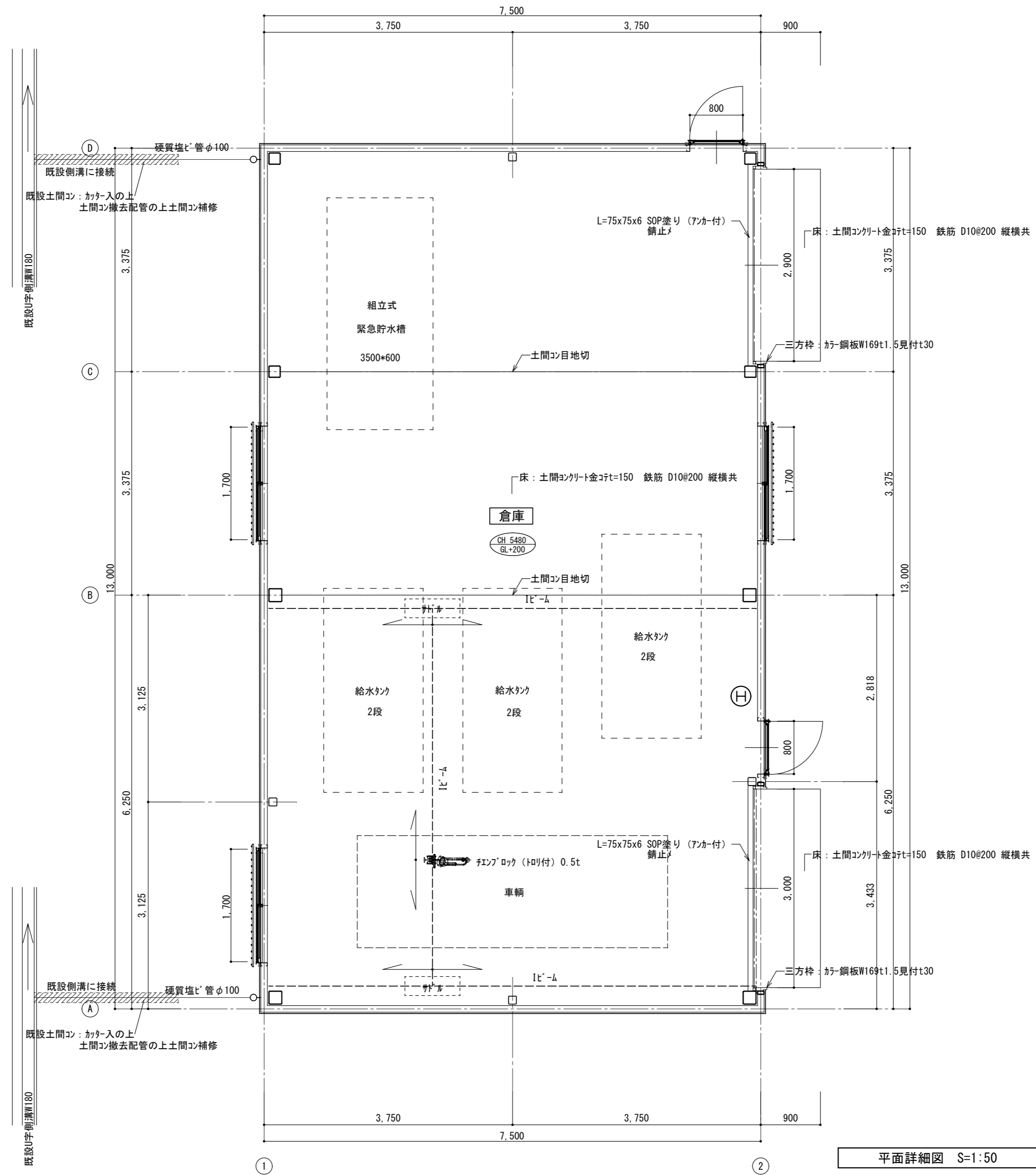
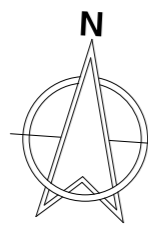
sheet no.

A-10
原図: A2

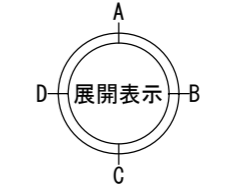


矩計図 S=1:30

(注) フレンダール PL005-6
 フレンダール用Iビーム: I-250 x 125 x 10 錆止メ共
 チェーンブロック用Iビーム: I-250 x 125 x 10 錆止メ共
 チェーンブロック500kg揚程4.0m

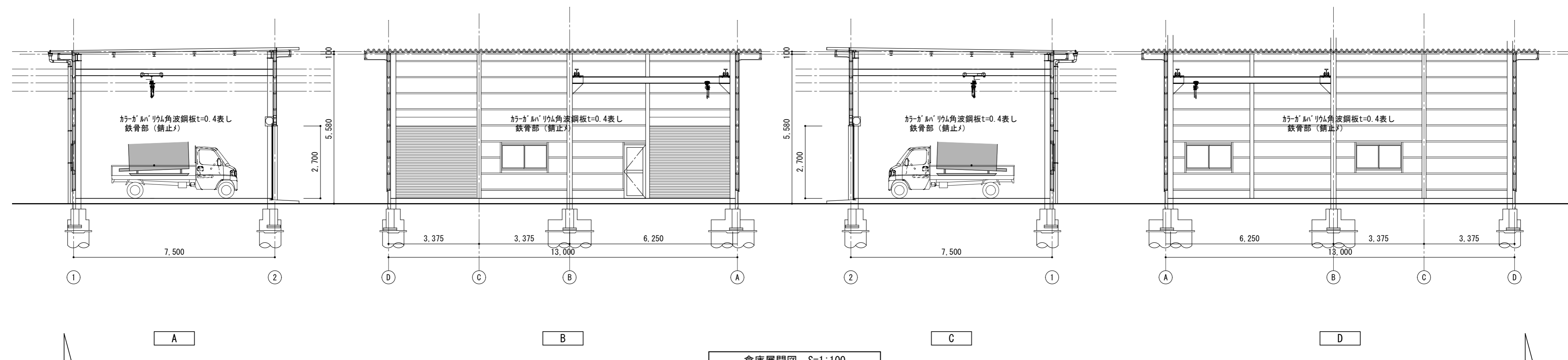


平面詳細図 S=1:50

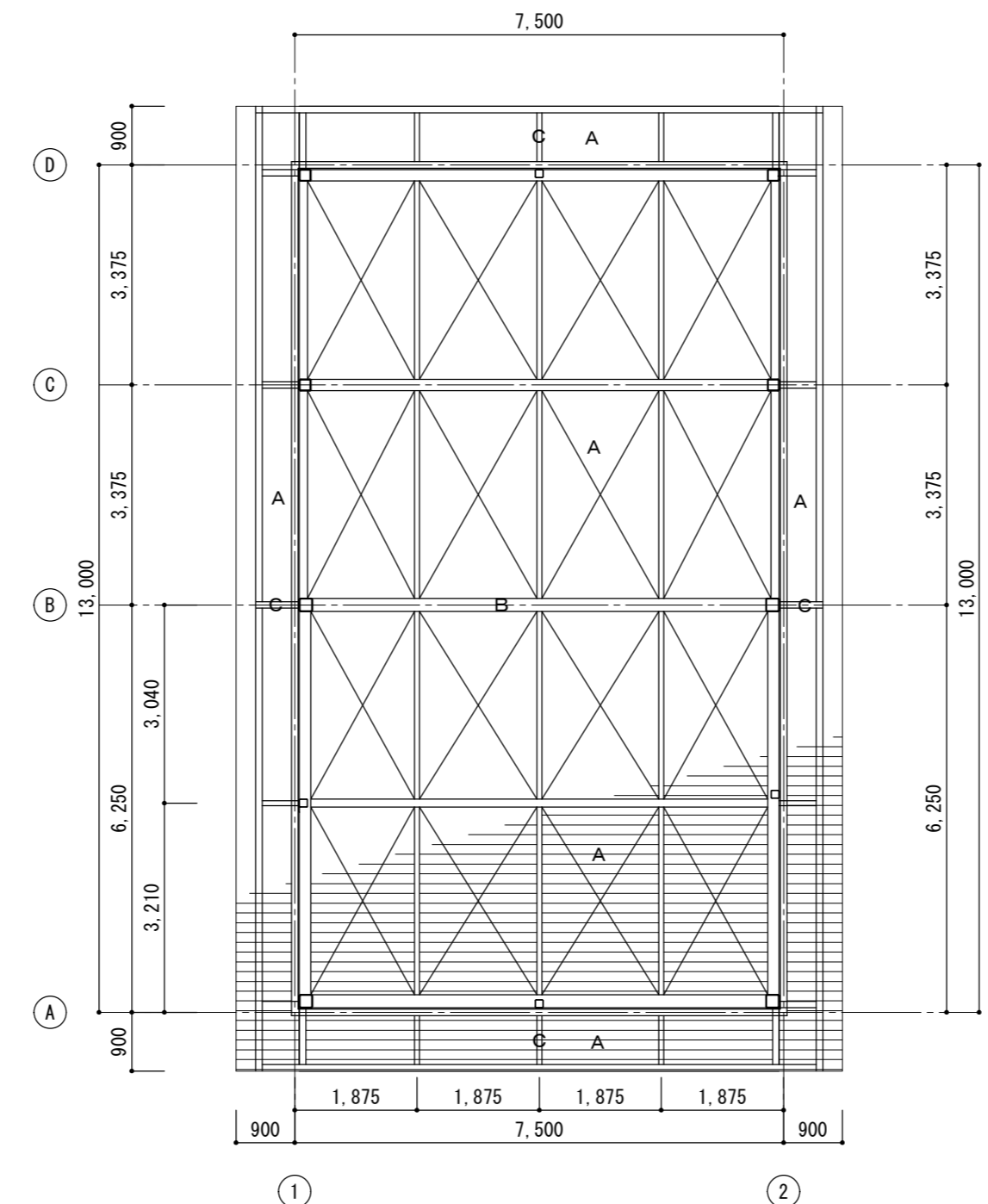
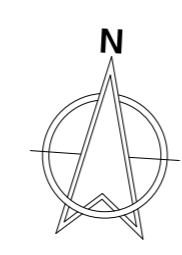


Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

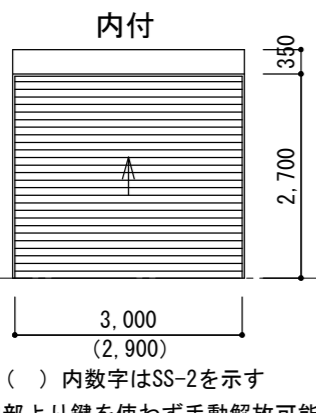
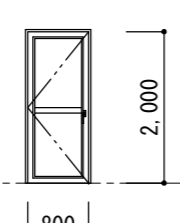
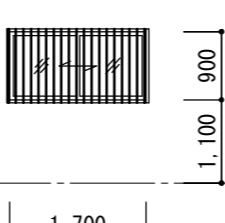


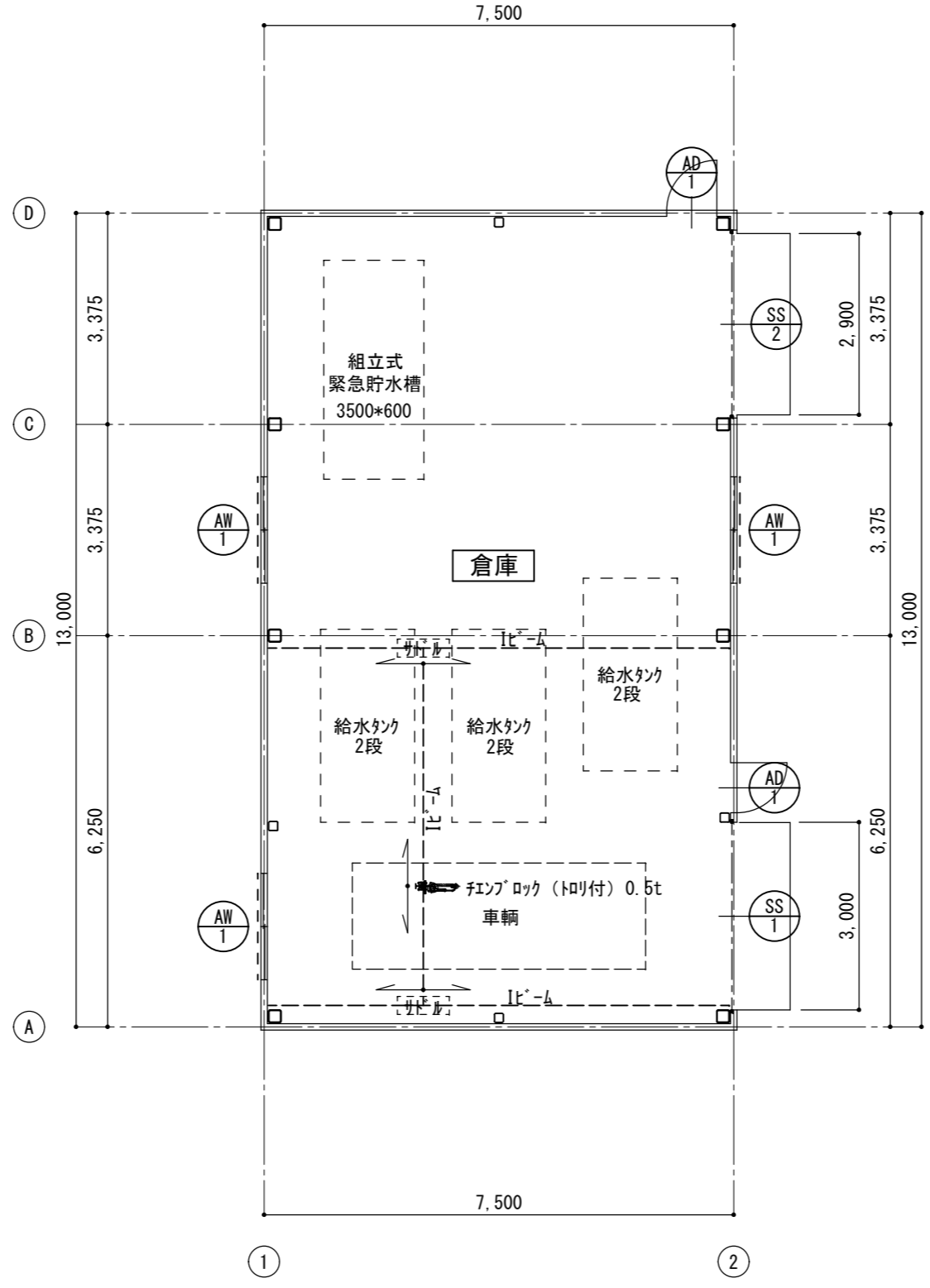
倉庫展開図 S=1:100



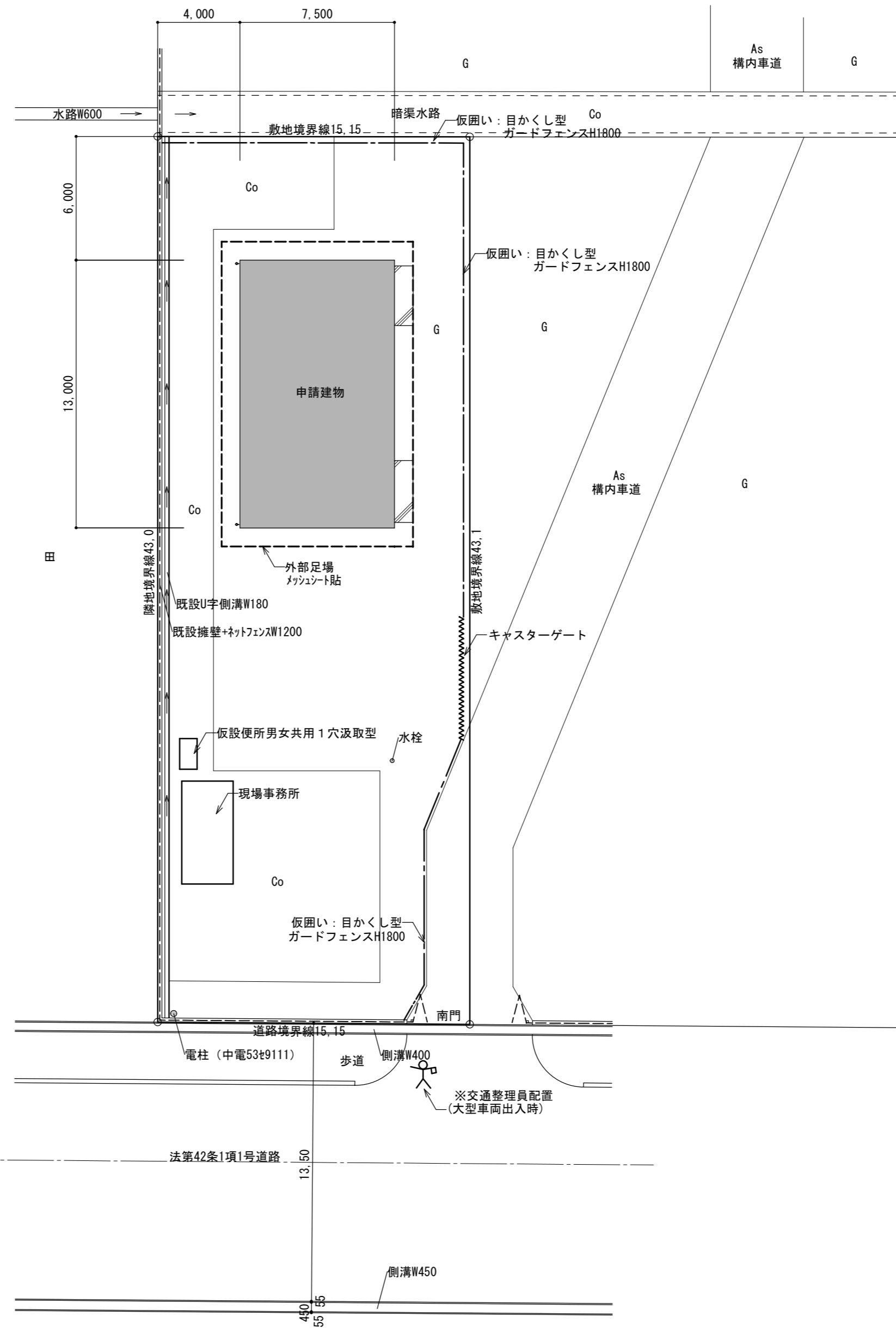
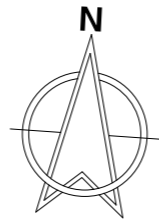
天井仕上表	
A	折板屋根表し
B	鉄骨軸組表し 錆止め
C	鉄骨軸組表し 錆止めの上SOP塗

天井伏図 S=1:100

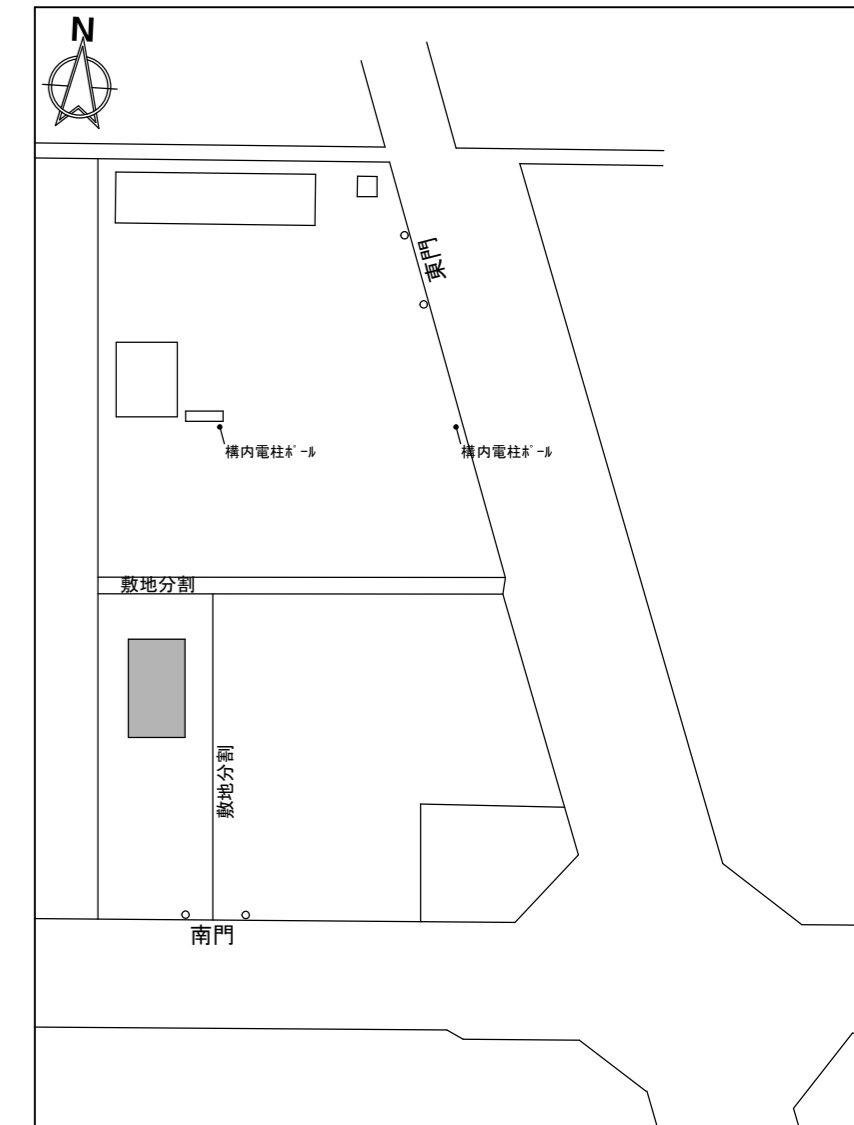
記号・数量	SS 1	x	1	SS 2	x	1	AD 1	x	2	鉄骨用外付サッシ	AW 1	x	3	鉄骨用外付サッシ		
形状																
場所	倉庫		倉庫		倉庫											
形式	軽量スフリングシャッター		7öミ扉ドア (片開き)		7öミ引違窓											
見込	39		70		70											
材質・仕上	カー鋼板 スラット=0.8mm		アルミルバー		アルミルバー											
硝子			アルミハネ t3		型板ガラス t=4											
金物	ガイドレール 三方枠: カー鋼板 W169t1.5見付t30		握り玉、ドアコナー、旗丁番 その他一式		クレセント、アングルビス、7öミ水切 他一式 面格子付											
備考																



建具表キープラン S=1:100



配置図 S=1:200



全体配置図 S=1:1000

仮設計画 凡例	
———	仮囲い：目かくし型 ガードフェンスH1800
---	外部足場 メッシュシート貼
~~~~~	キャストゲートW6000

memo

check  
client  
architect  
contractor

scale  
S=1:200、1000

drawing title  
仮設計画図

project title  
(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

Kisho  
Architectural  
Design Office

一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士：山田 賢治

drawing no.

sheet no.

A-15  
原図：A2



構造設計特記仕様書

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称
(2) 工事種別
(3) 構造種別
(4) 階数
(5) 主要用途
(6) 屋上付属物
(7) 特別な荷重
(8) 付帯工事
(9) 増築計画
(10) 構造計算ルート

2. 使用構造材料

Table with columns for use location, type, design strength, material strength, and notes. Includes items like concrete, rebar, and mortar.

Table for cement types and grades, including strength and setting time specifications.

Table for rebar specifications, including types, diameters, and grades.

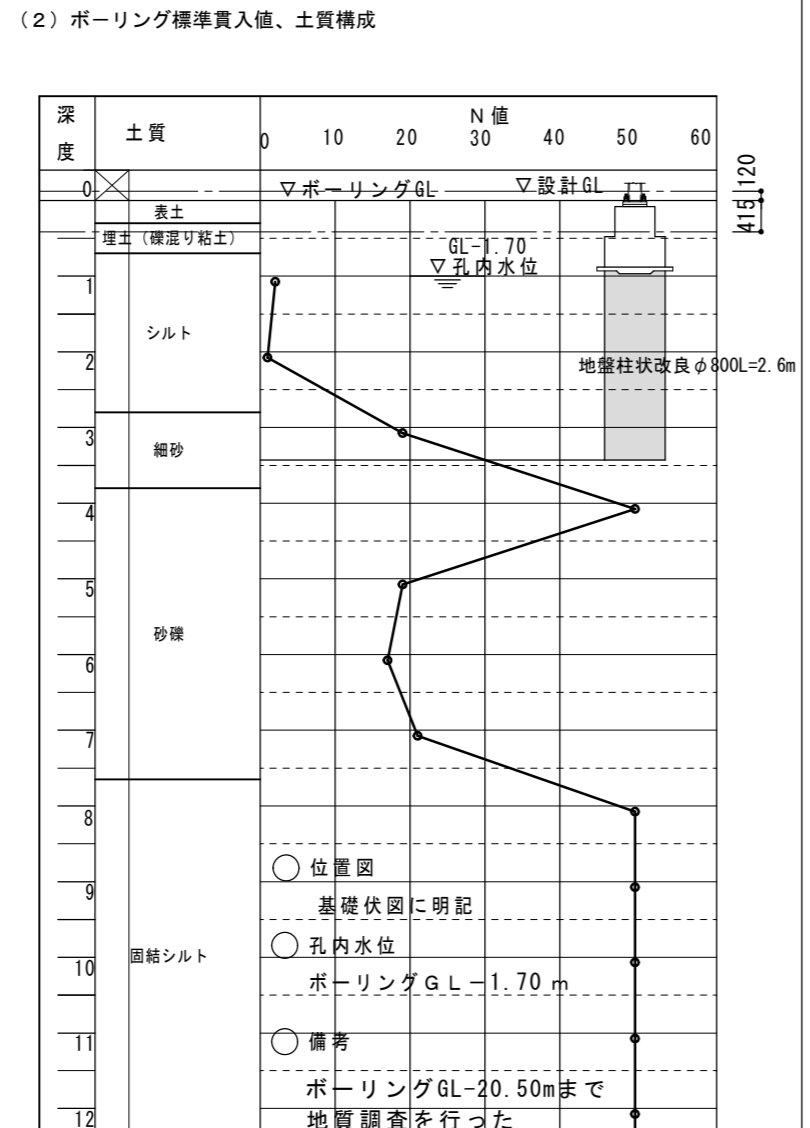
Table for reinforcement materials like steel plate and mesh, including grades and types.

Table for bolt specifications, including grades and types used in the structure.

Table for floor and ceiling construction materials and methods.

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料と調査計画
(2) ボーリング標準貫入値、土質構成



4. 地業工事

- (1) 直接基礎
(2) 杭基礎

Table detailing foundation types (direct, pile) and their construction methods.

Table for pile specifications, including diameter, length, and material details.

5. 鉄筋コンクリート工事

本標準仕様及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が30N/mm²以下に適用する

- (1) コンクリート
(2) 鉄筋
(3) 型枠

Table for formwork specifications, including materials and construction methods.

Table for rebar specifications, including grades and types.

Table for concrete work specifications, including placement and curing methods.

- Notes for concrete and rebar work, including safety and quality control instructions.

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は特記又は指示のない限り下記による
(2) 工事監督者の求めにより承認を必要とするもの
(3) 工事監督者が必要に応じ行う検査項目
(4) 接合部の溶接は下記によること
(5) 接合部の検査
(6) 防錆塗料および防錆仕様

Table for joint inspection specifications, including welding and testing procedures.

Table for rust prevention specifications, including materials and application methods.

Table for steel plate specifications, including grades and types.

- Notes for steel work, including safety and quality control instructions.

7. 設備関係

- (7) 施工
(8) 耐火被覆の材料

Table for equipment specifications, including piping, ventilation, and fire protection details.

8. その他

- Notes for other equipment and materials, including safety and quality control instructions.

# 地盤柱状改良工事特記仕様書

## 1. 工事概要

本事業は柱状地盤改良による地盤改良工であり、その工法概要はスラリー状のセメント系固化材を機械的に地中で混合攪拌し、所定の強度を持った円柱状の改良体を造成するものである。なお、技術基準は「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」日本建築センター発行による。

## 2. 特記概要

- 1、本工事の施工業者は、本工法の施工技術に精通したものである。
- 2、改良の径、掘削深度（改良長+空掘長）、本数、配置等は設計図による。
- 3、改良の設計基準強度は  $F_c = 750 \text{ KN/m}^2$  とする。

## 3. 一般事項

- 1、改良の径、長さ、本数、位置及び固化材の配合等は、土質や地盤状況により変更することがある。
- 2、柱状改良数量表

設計基準強度 $F_c = 750 \text{ KN/m}^2$					
改良径	平均掘削長 設計GL計	平均改良長 アソビ含む	平均空掘長 設計GL計	改良本数	
φ800mm	3.60m/本	2.60m/本	1.00m/本	12本	
合 計					12本

※改良長は支持層により調整する。

- 3、工事に先立ち、施工計画書を提出する。

施工計画書は次の事項を明記する。

- ①工事内容（改良径・改良長・空掘長・改良本数・設計基準強度）
- ②施工方法
- ③施工機械器具
- ④配合管理（使用固化材・配合量・注入量等）
- ⑤施工管理
- ⑥品質管理

## 4. 施 工

- 1、施工前に、GL-2.0m附近の黒灰色の腐植土を良質土と置換える。
- 2、固化材液のてん充方法は、掘削時てん充方法とする。
- 3、本工法により排出される土は、場内処理とする。
- 4、施工に対して異常が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。
- 5、掘進・引上げは2サイクル（ダブル攪拌）の攪拌方式とする。

## 5. 施工機器

- 1、スラリー状のセメント系固化材と現状土を確実に混合攪拌する事が出来、未改良土の共回り現象を防止する攪拌装置を装備した施工機械とする。
- 2、改良機本体は、施工時のデータを記録できる装置（施工管理用計測器）を装備したもので、自走式とする。
- 3、セメントミルク作成用の混合プラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

## 6. 固化材液の配合及び使用量

- 1、固化材液に使用する固化材は、高有機質土用t1系固化材とする。
- 2、配合試験は300kg/m³・350kg/m³・400kg/m³の計9検体とする。
- 3、配合強度は下記の式より求める。

$$X_f = a_t \times F_c$$

$$X_f : \text{配合強度 (KN/m}^2, \text{N/mm}^2)$$

$a_t$  : 割増し係数 (8.品質管理抜き取り個所数Nより)

$$F_c : \text{設計基準強度 (KN/m}^2, \text{N/mm}^2)$$

## 4. 固化材液の配合

対象土は、ボーリングNo.1 孔口-2.5m附近のシルト層とする。

試験により添加量の変更があった場合、再見積りにて精算するものとする。

固化材添加量 :  $\lambda = 350 \text{ Kg/m}^3$

固化材液濃度 :  $W/C = 60 \sim 100 \%$  (土質により調整する)

※配合試験結果より、添加量を最終決定する事。

配合試験は、添加量3パターン（計9検体）とする。

## 5. 六価クロム溶出試験

- ・所定強度を満足する供試体から六価クロム溶出量を測定し、環境庁告示第46号による環境基準値 (0.05mg/l₂) 以下であることを確認する。

## 7. 施工管理

- 1、施工過程における管理方法は次のとおりとする。

- ・鉛直度：改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計にて確認

- ・固化材液の作液

水の計量：水量計で計測を行う。

固化材の計量：1ton練りミキサーによりton袋にて確認

- ・掘進深度：改良機本体に設置された深度計で計測する。

- 2、支持層の確認：改良機本体に設置されたトク計で計測する。

ジャッキアップを行う。

- 3、試験掘削：オーガーにより計画深度まで掘下げ資料土を採取し

調査資料（ $\sigma$ - $\tau$ 資料）と同等か確認する。

試料土にてpH測定を行う。

## 4. 改良天端処理

改良体頭部の位置を所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホー等で改良体頭部を削り取って天端処理を行う。

ただし、深基礎等、現場状況により改良天端処理が不可能な場合は、根切り工掘削時に改良体を損傷しないように改良体頭部を削り取る事。

## 8. 品質管理

- 1、改良土の一軸圧縮強度試験

- ・圧縮試験は第三者で行うものとする。

- ・改良12本中1カ所、各6本ずつ採取

(材令7日と28日にそれぞれ3本)

検査手法は品質のバラつきを想定する場合の検査手法Aにより行う。

$$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

$$= F_c + k_a \cdot \{ F_c \cdot V_d / (1 - 1.3 V_d) \}$$

$X_N$  : Nヶ所の一軸圧縮強さの平均値 (KN/m², N/mm²)

$X_L$  : 合格判定値 (KN/m², N/mm²)

$F_c$  : 設計基準強度 (KN/m², N/mm²)

$k_a$  : 合格判定係数

$\sigma_d$  : 設計で想定したコア強度の標準偏差値 (KN/m², N/mm²)

$$\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$$

$V_d$  : 想定した強度の変動係数

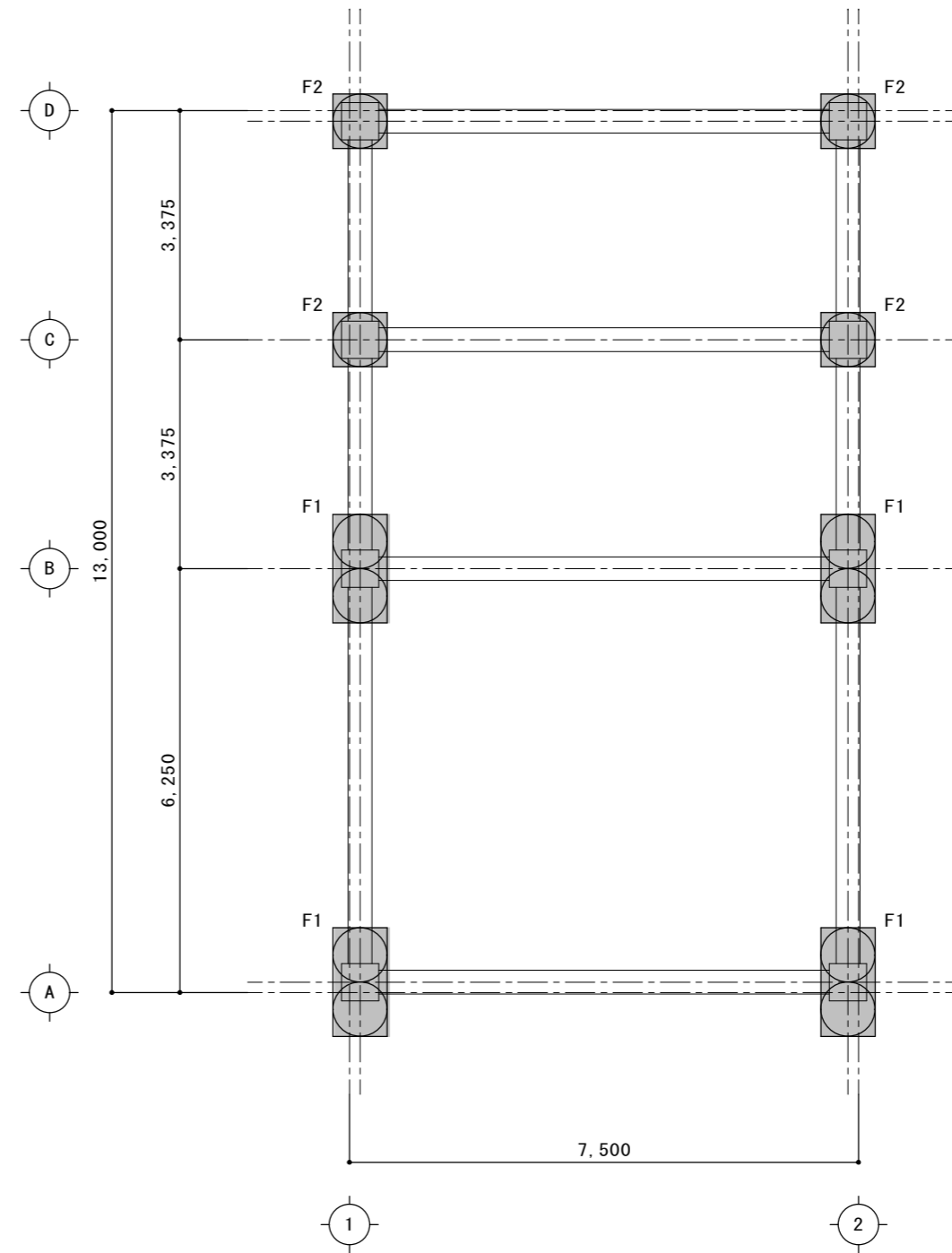
$q_{ud}$  : 想定した現場平均一軸圧縮強さ (KN/m², N/mm²)

採取ヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 $k_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

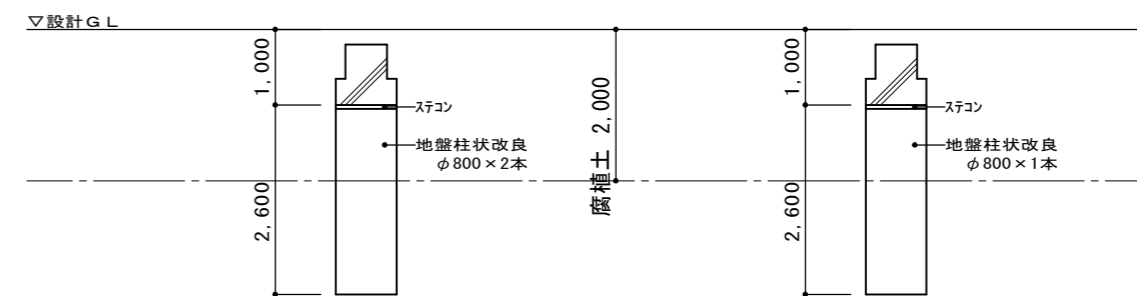
## 9. 報 告

工事後、次の項目について報告書をまとめ、2部を監督員にすみやかに提出する。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ①改良体伏図及び施工番号 | ⑤一軸圧縮強度試験結果 |
| ②改良施工日       | ⑥施工記録データ    |
| ③掘削深度及び改良長   | ⑦施工記録写真     |
| ④固化材使用量及び注入量 | ⑧合格判定結果     |



地盤柱状改良 φ800  
地盤柱状改良伏図 1/100



長期地耐力 150KN/m²  
地盤柱状改良断面図 1/100

※支持層の変化により改良長の長短が生じる事があります。

memo

check  
client  
architect  
contractor

scale

S=1:100

drawing title

地盤柱状改良工事特記仕様書

project title

(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

Kisho  
Architectural  
Design Office

一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

S-2  
原図: A2

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図

## 1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書」最新年度版に準ずる。住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。
- 記号
  - d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値
  - d0...異形棒鋼の最大径
  - D...部材の成
  - R...直径
  - φ...間隔
  - r...半径
  - Q...中心線
  - 10部材の内寸距離
  - h0...部材間の内法高さ
  - ST...あばら筋
  - HOOP...帯筋
  - S.HOOP...補強帯筋
  - φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

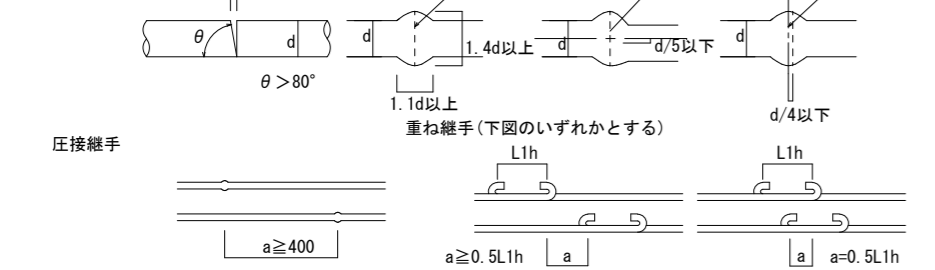
### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まひ角度90°はスラブ、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形および部材のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ、L配筋の先端
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内寸法R	SD295A・SD295B・SD345: D16以上R≥3d (D19以上)R≥4d SD390: R≥5d (90°未満は特記による)			

### (2) 鉄筋の重ね継ぎ手の長さ(表1)

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fe(N/mm ² )	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		L1	L1h	L1h	L1h
SD295A SD295B	18	45d	35d	45d	35d
	21	40d	30d	40d	30d
	24, 27	35d	25d	35d	25d
SD345	18	50d	35d	50d	35d
	21	45d	30d	45d	30d
	24, 27	40d	30d	40d	30d

### ガス圧接形状

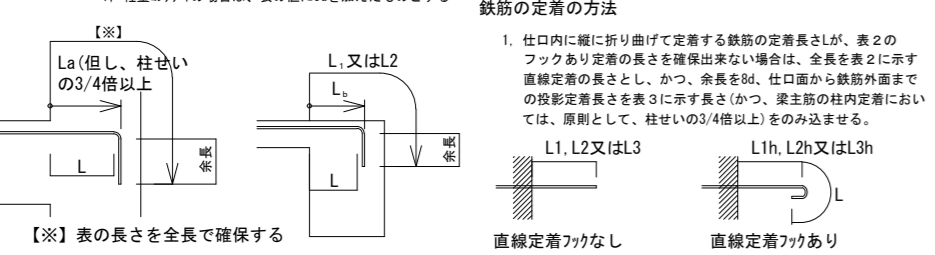


### (3) 鉄筋の定着の長さ(表2)

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fe(N/mm ² )	フックなし			フックあり			La	Lb
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h		
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	35d	30d	10d	20d	15d
	21	40d	35d	20d	30d	25d	10d	15d	15d
	24, 27	35d	30d	20d	25d	20d	10d	15d	15d
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	10d	20d	20d
	21	45d	35d	20d	30d	25d	10d	20d	20d
	24, 27	40d	35d	20d	30d	25d	10d	20d	15d

### 定着

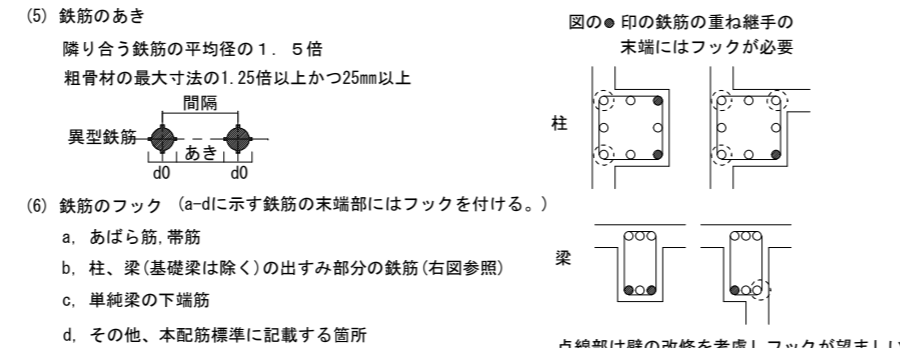
- L1, L1h, L2, L2h以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- L2, L2h: 割断面のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- L3: 小梁及び35°の下端筋の直線定着の長さ。但し、基礎耐圧35°及びこれを受ける小梁は除く。
- L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
- 本標準図のフックは、定着の長さに含まない。又、中間部での折曲げは行わない
- 柱に打ち付ける鉄筋の引張り鉄筋の定着長さは特記による。特記が無ければ、40d(重量コナリ-の場合は50d)と表の定着長さのうちの大きい値とする(壁式構造も同様とする。)
- 重量コナリ-の場合は、表の値に5dを加えたものとする



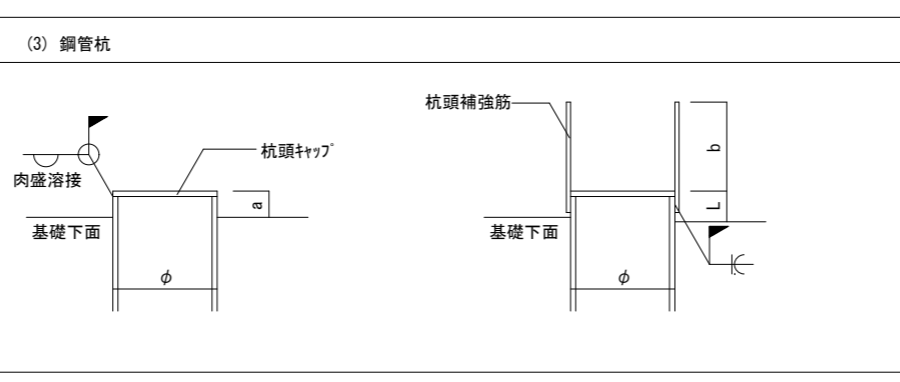
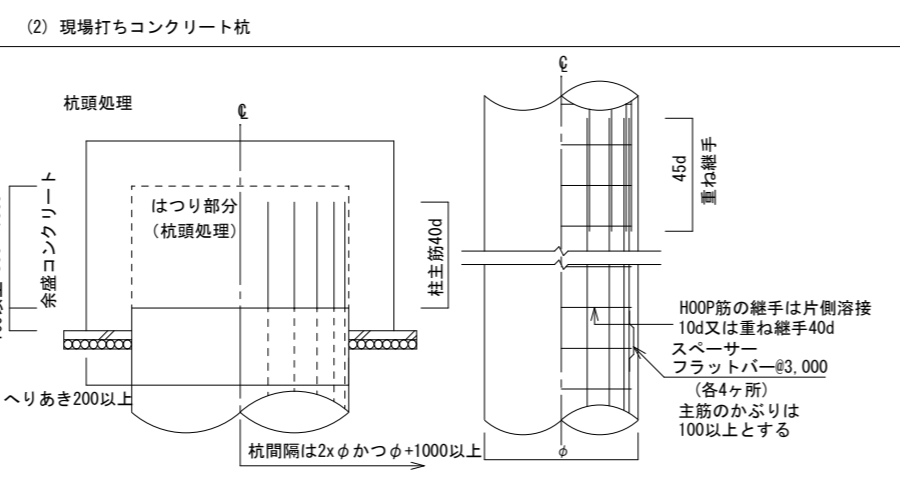
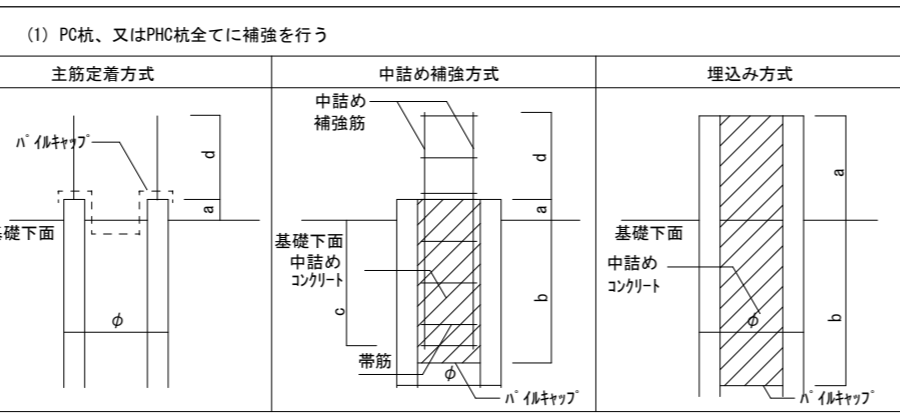
### (4) かぶり厚さ(単位: mm)

部	設計かぶり厚さ		最小かぶり厚さ(mm)
	土に接しない部分	土に接する部分	
土に接しない部分	屋根スラブ	屋外	30
	床スラブ	屋外	40(1)
土に接する部分	耐力壁	屋外	40(1)
	柱	屋外	50(2)
土に接する部分	基礎・耐力スラブ	屋外	40(2)(30)
	基礎・耐力スラブ	屋内	50(3)
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	屋内	40
	基礎・耐力スラブ	屋内	50
土に接する部分	基礎・耐力スラブ	屋内	70
	基礎・耐力スラブ	屋内	60

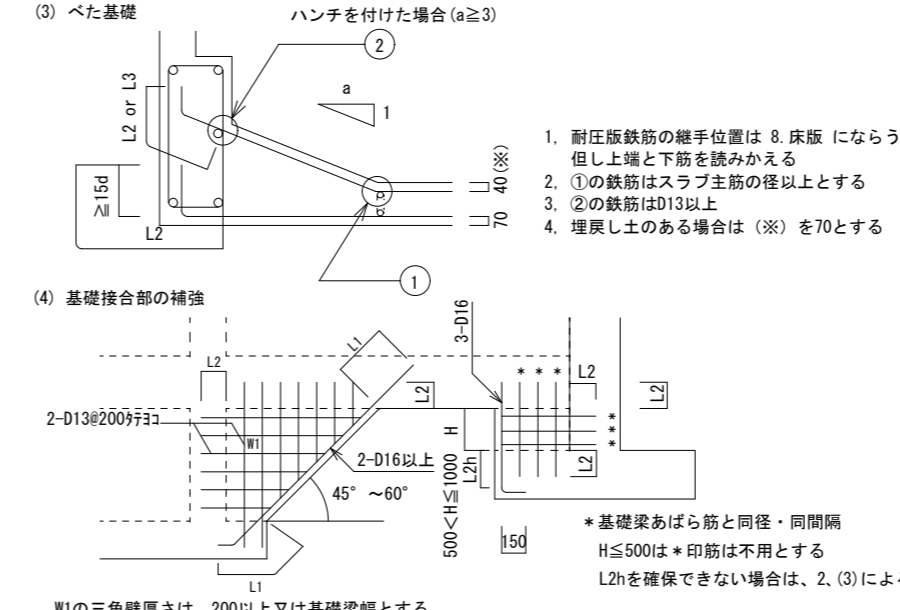
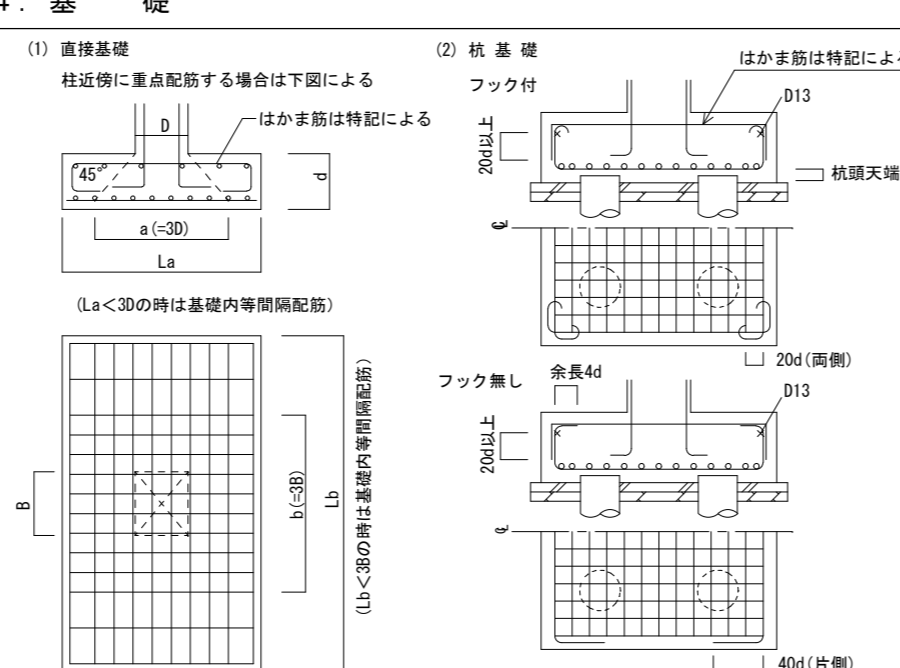
- 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
- 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- コンクリートの品質及び施工法に拘り、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- ( )内は仕上げがある場合。
- 鉄筋加工時の破り厚さは、設計かぶり厚さを採用し、最小かぶり厚さを下回ることはないようにする



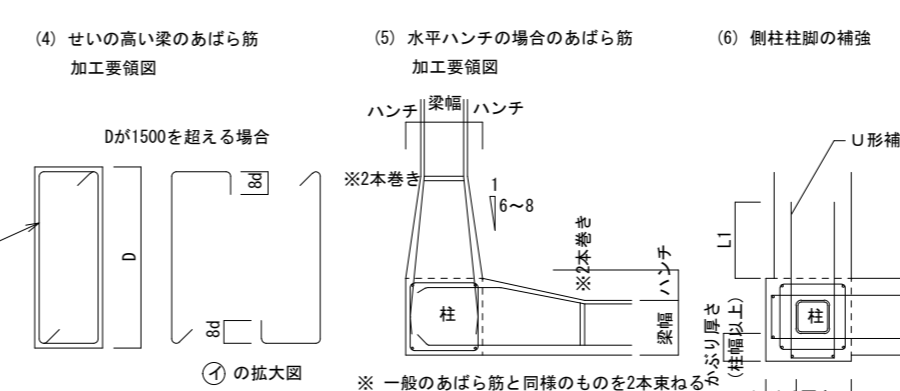
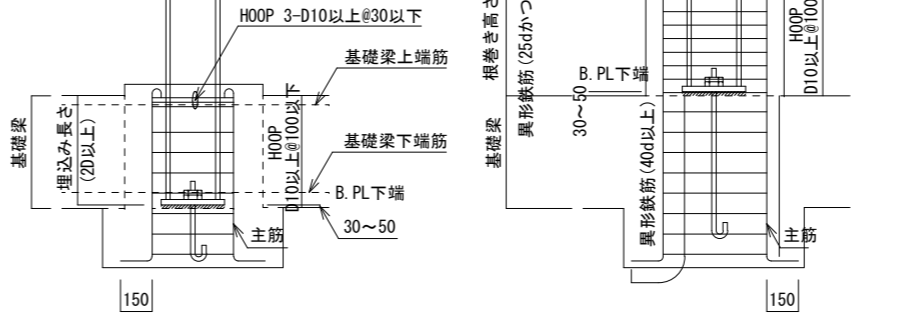
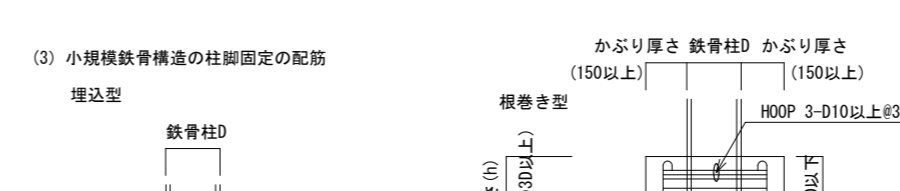
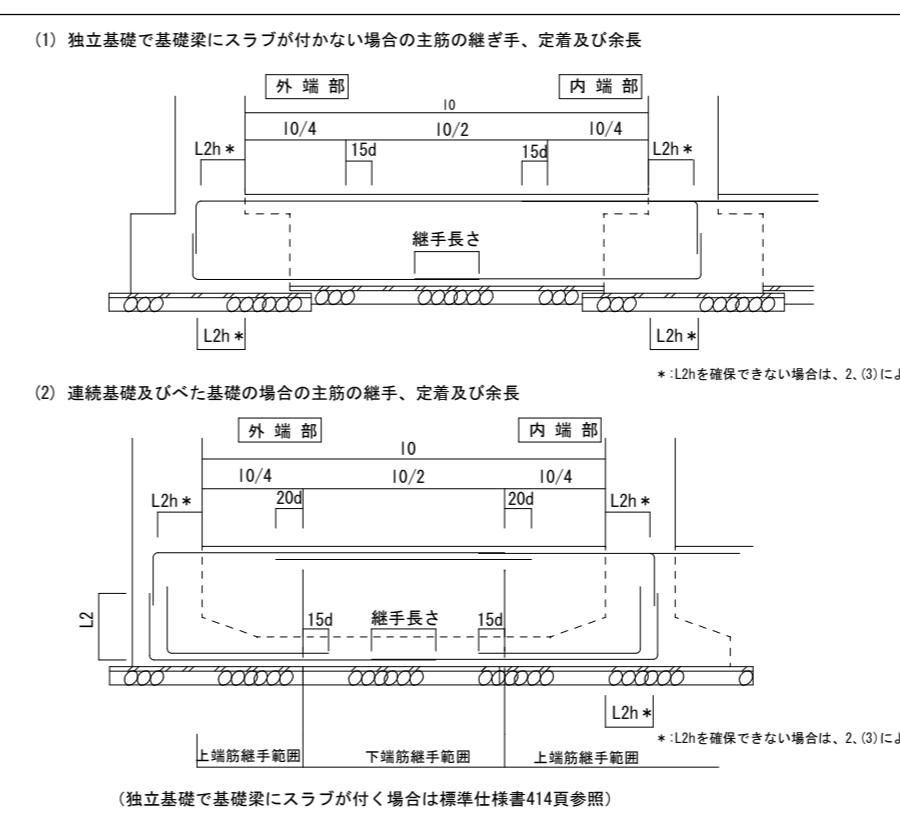
## 3. 杭 (採用する杭種別を明記し、詳細および下記寸法 a~d は設計図書の特記による。)



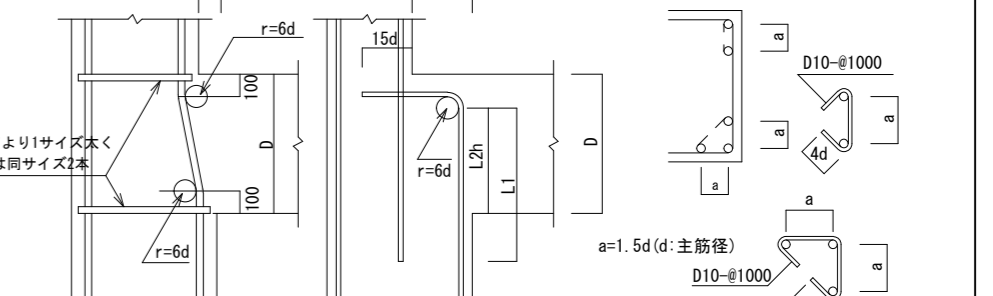
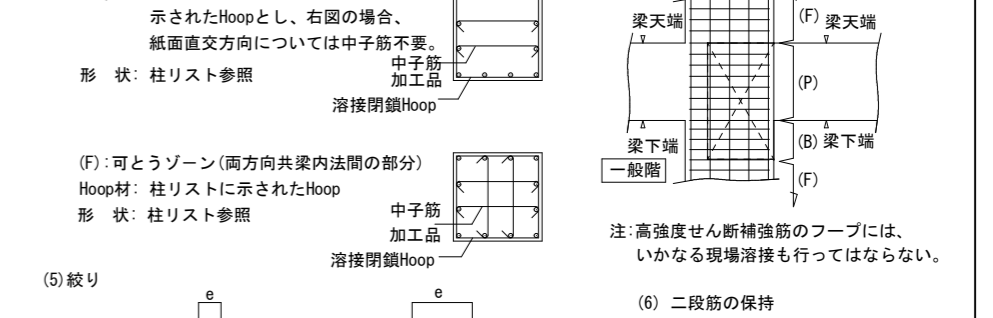
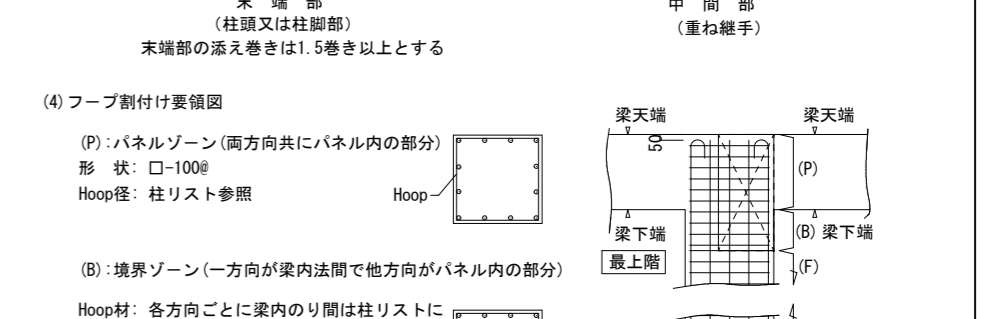
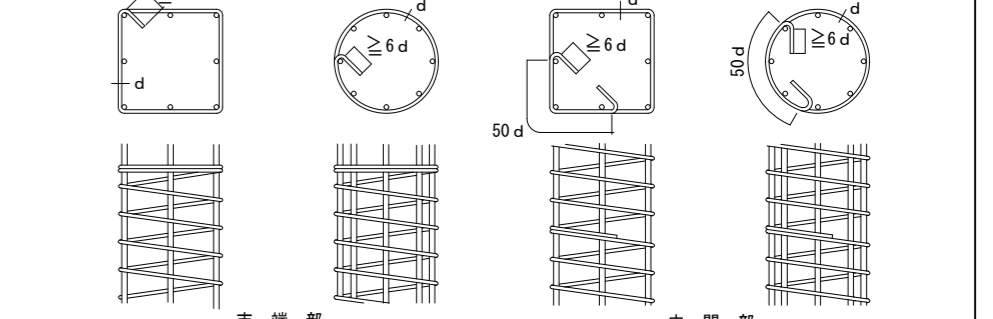
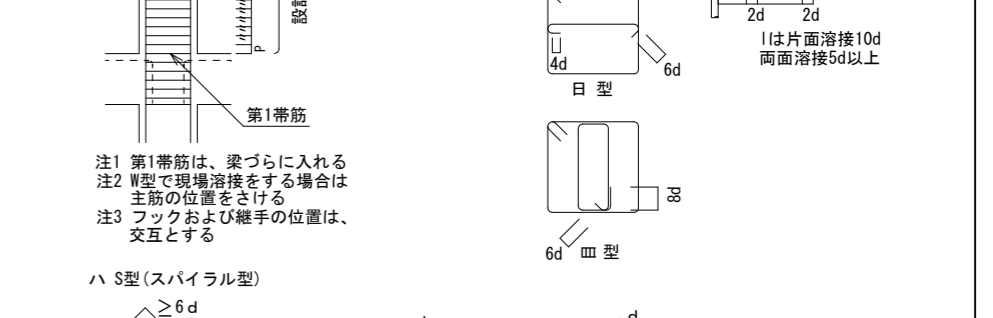
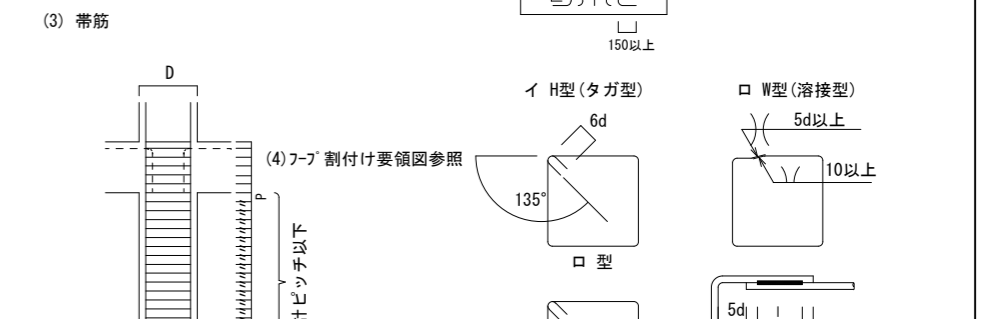
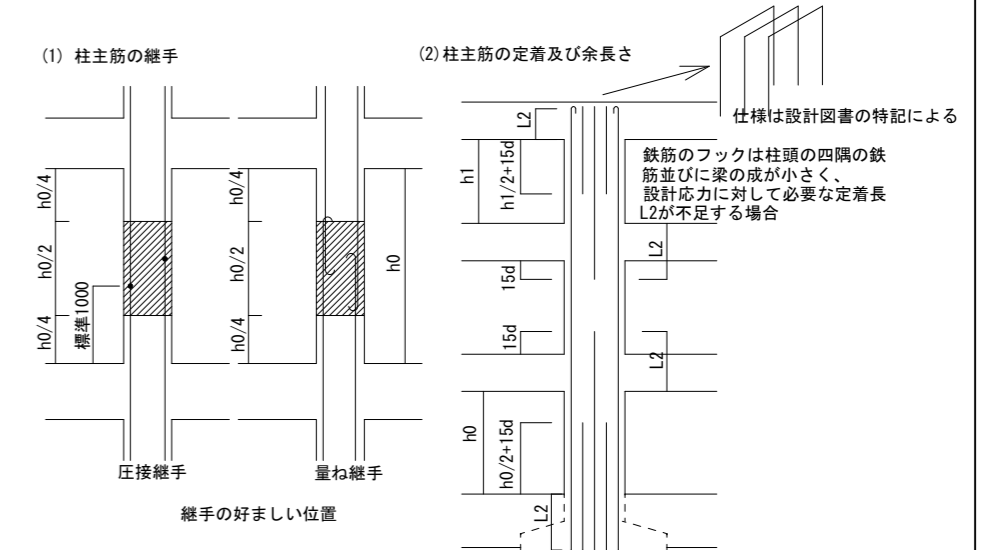
## 4. 基礎



## 5. 基礎梁 (梁主筋カットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。)



## 6. 柱

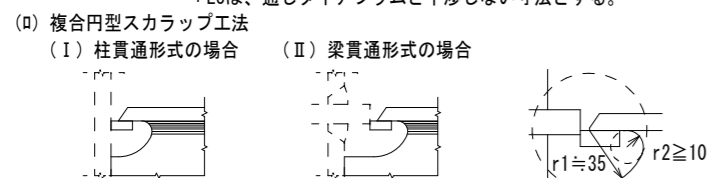
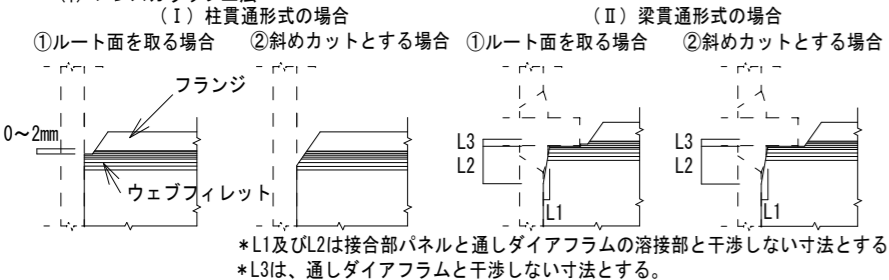


# 鉄骨構造標準図 (1)

## 1. 一般事項

適用範囲：構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書」最新年度版に準ずる。本標準図の仕様等は一般凡例を示し、個々の条件により設計者判断で対応する。本標準図は国土交通大臣認定のRグレードの適用範囲程度の規模の一般的な建物に適用する。(参考：Rグレード規模範囲 5階建て以下 [延べ床面積3,000㎡以内、高さ20m以下] 使用板厚の制限に注意)

- (1) 材料  
使用構造材料は構造設計仕様による。
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立ち「鉄骨工事施工要領書」、「工作図」等を提出し工事監理者の承認を得る事。
- (b) 鉄骨の製作精度  
告示1464号(鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件)  
日本建築学会JASS6及び鉄骨精度測定度指針による。
- (c) 歪みの矯正は、材質を損なわないように、常温加圧もしくは加熱(点状加熱、線状加熱)で矯正する。加熱で矯正する場合はJASS6による。
- (d) スクラップ加工  
複合円形スクラップ加工は専用スクラップカッターによるものとし、加工が困難なサイズのH形鋼についてはノンスクラップ工法を採用する事。スクラップの加工はつぎのいずれかによる。

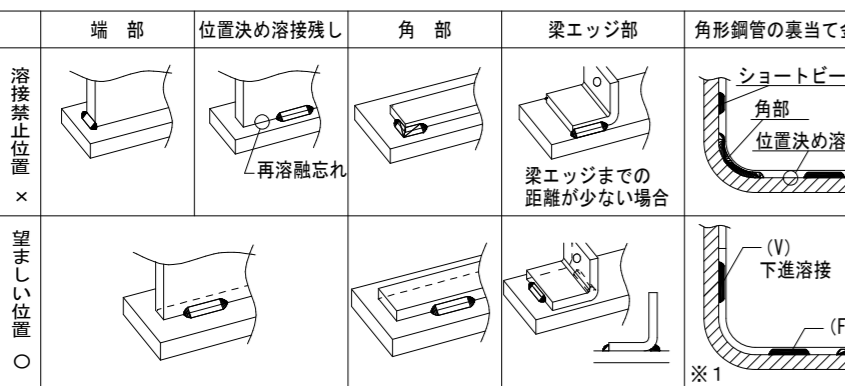


(e) 孔あけ加工  
高力ボルト・ボルト及びアンカーボルトの公称径に対する孔径

ボルトの種類	孔径 d	公称径 d1	備考
高力ボルト	d1+2.0	d1<27	
	d1+3.0	27≤d1	
ボルト	d1+0.5		母屋・鋼線等軽微な部分は除く
アンカーボルト	d1+5.0		

## (2) 組み立て溶接

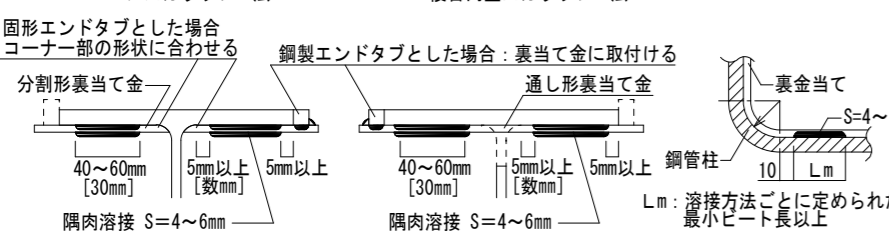
- (a) 溶接技能者  
組立て溶接に従事する溶接技能者は、JIS Z 3801またはJIS Z 3841の少なくとも基本となる級(下向き溶接)の試験に合格した有資格者とする。
- (b) 組立て溶接ビード長さ
- | 板厚  | 組立て溶接の最小ビード長さ (mm) |
|-----|--------------------|
| t≤6 | 30                 |
| 6<t | 40                 |
- (c) 裏あて金 鋼製エンドタブ  
(i) 裏あて金  
材質は母材と同質材料とし厚さは9mm以上とする。裏あて金の長さは、鋼製エンドタブ・固形エンドタブ側面から5mm程度突出する長さを標準とする。裏あて金は母材に密着させ、健全なルート部の溶け込みが得られるようにする。
- (d) 鋼製エンドタブ  
鋼製エンドタブを用いる場合、鋼製エンドタブの長さLeは、MCで35mm程度、GC、NGCで40mmかつフランジ板厚tfの2倍程度とする。
- (e) 組立て溶接位置  
組立て溶接は溶接の始末端・隅角部など、強度上・工作上問題となり易い箇所は避ける。組立て溶接の前に施される位置決めのための点付け溶接は組立て溶接のビード内に施し、組立て溶接の際に十分に再溶融させ、母材表面に残さない事。



※1：組立て溶接は下向き溶接又は立向き溶接とする。

裏あて金、エンドタブの組立溶接位置  
裏あて金を用いた柱梁接合部の裏あて金の組立溶接。  
下図 [ ]内はフランジ幅が125mm未満の場合を示す。

(I) H型鋼仕口部 ノンスクラップ工法 (II) H型鋼仕口部 複合円形スクラップ工法 (III) 角形鋼管柱仕口部



## 2. 溶接標準図

(1) 隅肉溶接 隅肉溶接は必ず奇数パス溶接とすること (注) S: 脚長 (単位 mm)

t	6	9	12	14	16
S	6	7	9	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする  
・tはt1, t2の小なる方とする  
・余量は(4mmかつ0.4S)以下とする  
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 異形隅肉溶接 (注) S: 脚長 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

t	19	22	25	28	32
S	11	13	15	17	19

・tはt1, t2の小なる方とする

(3) 完全溶込み溶接(T継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

3≤t≤6mm	3≤t≤6mm	3≤t≤6mm	3≤t≤6mm
$f \leq 7$ $h = t/5$	$f \leq 7$ $h = t/5$	$f \leq 7$ $h = t/5$	$f \leq 7$ $h = t/5$

(裏はつり後溶接)

(4) 完全溶込み溶接(平継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

3≤t≤6mm	3≤t≤6mm	3≤t≤6mm	3≤t≤6mm
$f \leq 3$	$f \leq 3$	$f \leq 3$	$f \leq 3$

(裏はつり後溶接)

(5) 完全溶込み溶接(角形鋼管柱現場継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

$\theta \geq 32.5^\circ$   $G \geq 5$  (工場加工) (現場施工)  $\theta \geq 42.5^\circ$   $R$  平滑仕上げ

(6) 板厚が異なる場合の完全溶込み溶接 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

(1) クレーンカーター等 (低応力高サイクル疲労を受ける場合等) 傾斜加工  
(2) a>10mm又はt2/4 (高サイクル疲労を受ける場合以外) 削り面 2.5 受ける場合等  
(3) a≤10mmかつt2/4 (高サイクル疲労を受ける場合以外) 溶接表面はなめらかに

(裏はつり後溶接)  $\theta=0 \sim 2$

## 3. 角形鋼管柱-H形鋼梁接合部標準図

(1) ダイアフラム

通しダイアフラムはSM490C、内ダイアフラムは接続する梁フランジの強度以上のものを使用する事。

通しダイアフラムの寸法  
・出寸法 e (tc<28mm)  
e=25mm (tc≥28mm)  
・板厚 td≥tf+6mm  
・裏あて金FB-9×25

柱材内面と裏あて金の隙間の許容差  
1mm以内

内ダイアプレート取付要領図  
10mm R止まり R止まり 溶接禁止域 10mm

内ダイアフラム (接続する梁フランジの強度以上のもの)  
・内ダイアフラムは柱角のR止まりから10mmの範囲に取付させないこと  
・内ダイアフラムは水平に取付ける事

内ダイアフラム納りが可能な梁幅と柱幅の関係

梁幅	柱幅	200	250	300	350	400	450~
100	9mm以下						
125	9mm以下						
150	9mm以下						
175	9mm以下						
200	9mm以下						
250	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可
300	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

表内の「00mm以下」は、柱材の板厚制限を示す。当表で「不可」あるいは柱材板厚制限を超える組み合わせの場合は通しダイアフラム納まりとするか、梁端ハッチ処理とする。  
※ 内ダイアフラムをノンスクラップとする場合は、R止まりまで寄せることができる。

(2) 角形鋼管柱の溶接施工禁止範囲

左図ハッチ部分には、デッキコンクリートのせき板、脚縁用ネココース、サッシ枠等、一切の溶接を行ってはならない。

※ ホットコラムを使用する場合は、R部付近にも溶接可能

(3) 登り梁仕口部 (天端ダイアフラムを傾斜取合いとする場合)

(上端ダイアフラム) (下端フランジ裏ハツリ処理) (下端フランジ裏あて金処理)

S≥1.5×min(tc, tdf) 注意：頂部ダイアフラムの上に取付く部材があるなど、頂部ダイアフラムと柱の間で引張り応力が生ずる場合は完全溶込み溶接とする必要がある。

内ダイアフラム必要厚さは原則として tdf≥tf/sinθ+2mm

鉄骨構造標準図(2)

4. 小梁接合部

(1) ガセットプレートの形状

(a) 小梁下端フランジ切欠無し (b) 小梁下端フランジ片側切欠きあり

- ・(a)タイプの形状を標準とし、接合ボルト配列や受け梁と小梁の段差等によって無理な形状となる場合に(b)タイプを採用する。
- ・接合ボルトの仕様は特記による。
- ・ガセットプレート厚さは9mm以上かつ小梁のウェブ厚さ以上とする。
- ・ガセットプレート、スチフナープレートの鋼材は母材同等以上の強度のものとする。

(2) ガセットプレート、バックスチフナープレートの溶接

(返し溶接しない場合) (返し溶接する場合)

- ・いずれの場合も受け梁フランジ面の溶接終端は外端部に置かず、スイッチバックしてクレーター処理する事。

(3) 受け梁よりも小梁の方が高い位置になる場合

(a) 段差が少ない場合(小梁せいの1/3程度まで)

(b) 段差が大きい場合

(4) 柱面など、直交する部材面に取合う場合

ガセットプレートの溶接ビードが小梁ウェブと干渉しない程度の離間距離を確保する。ボルト接合面は平滑に仕上げる事。

(5) 小梁の横方向にも荷重を受ける場合

(6) 小梁が受け梁に対して鋭角に取合う場合

$\theta=45^\circ \sim 90^\circ$  の場合  $\theta=45^\circ$  より鋭角な場合

(ブラケット) 小梁間材

5. 片持ち小梁の接合部

(1) 片持ち小梁と受け梁のサイズが同じ場合

(2) 片持ち小梁よりも受け梁の方が大きい場合

(3) 片持ち小梁下端フランジに生じる引張力が小さい軽微な片持ち小梁の場合

注: 使用の可否は監理者に確認する事。

6. 大梁の座屈止め

(1) ガセットPLを利用して下端フランジを拘束する場合

(2) 大梁との段差が大きい場合

(3) 上端フランジを床で拘束する場合

- ・補剛する梁のせい $h$ が500mm未満の場合に限る。
- ・接合ボルトの仕様は特記による。

7. 水平ブレース接合部

(1) 水平ブレースの取付位置

・水平ブレースの軸心は取合う梁交点に一致させる事が望ましい。交点に一致させる事が困難な場合は監理者と協議の上決定する事。

・水平ブレースのガセットプレートは受け梁側に取付ける事を原則とする。

(2) 水平ブレースの取付高さ

・大梁フランジ側面には溶接しない事。(大梁ブラケット内)

(3) 水平ブレースのガセットプレートの溶接

(4) アングルブレース交差部

・水平ブレースのガセットプレートを受け梁ウェブ面に取合わせる場合は、小梁のガセットプレートまたはスチフナープレートにも取合わせ、そちら側にも必要な溶接が出来る幅を確保する事。

8. 胴縁

(1) 一般部

・壁材または壁下地目地部胴縁はダブルとする。(リップ付き軽量形鋼の場合)

主構造体と干渉しない高さ

(小径角形鋼管の場合) (一般部) (ジョイント部)

(2) 他胴縁との取合い

・設計図に特記なき場合、接合はPL-4.5以上、1-M12(中ボルト)以上とする。

・既製品の接合ベースを使用する場合は板厚4.5mm以上のものを使用する事。

・構造耐力・剛性上支障が無く、緩み止め処置を施す場合に限り接合ボルトは1本で良い。

・接合ボルトを1本とする場合、部材の回転を伴うような接合とはならない。

(3) コーナー部

(4) コンクリート取合い部

Ad: アンカーボルト直径

(5) 梁継手に掛かる部分の納まり

(6) 吊ボルトを使用する場合の納まり

9. 母屋

(1) 一般部

・屋根葺き材下地目地部母屋はダブルとする。(リップ付き軽量形鋼の場合)

主構造体と干渉しない高さ

(小径角形鋼管の場合) (一般部) (ジョイント部)

(2) 梁継手に掛かる部分の納まり

(梁継手ボルトと干渉が想定される場合) (母屋、受け母屋の強度に余力がある場合) 上端フランジ接合ボルトの本締めが容易

・設計図に特記がなく、緩勾配屋根の場合の接合はPL-4.5、2-M12(中ボルト)とする。

・また、急勾配屋根の場合の接合はPL-6、2-M12(中ボルト)とする。

・上記条件を満たす場合は既製の接合ベースを使用してよい。

10. 合成床版

せき板は柱に溶接しない

せき板取止め(必要な場合)

コンクリートせき板 PL-1.6(曲げ加工)

せき板とデッキプレート山間には点付け溶接可。

・せき板はL形に曲げた鉄板とし梁上に挟き溶接で固定する。但し、デッキプレートの上に溶接などで固定する事が可能な場合は直板でもよい。

・せき板の取止め鉄筋はデッキプレート山間に固定し、梁端フランジへの点付け溶接は禁止。

・柱まわりのせき板は折り曲げ加工柱に溶接固定は禁止。

11. 梁貫通孔補強

・既製品(大径認定品)を使用してもよい。

・梁貫通孔位置は設計者及び工事監理者と協議の上決定する事。

・梁貫通孔の位置は梁端部(スパンの1/10以内かつ2D以内)の範囲は避ける事。但し、既製品使用の場合は認定条件に従うものとする。

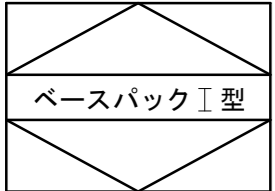
補強プレート厚(tp)は下式による。

$$tp \geq (\phi + 2ts) \cdot tw / (H - 2t_f - 140 - \phi - 2ts)$$

ts: 鋼管スリーブ厚  
t_f: フランジ厚  
tw: ウェブ厚

- ・L1は、3φまたは、L2のうち小さい方とする。
- ・補強プレートが10mm以上となる場合は必要厚さの1/2の補強プレートウェブ面に溶接する。
- ・補強プレートは、丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき50mmについては、設計者と協議の上 施工性を考慮して小さくすることができる。
- ・特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径(φ)はH/2以下とし、各孔の間隔は2.0φ以上とする。
- ・スリーブは梁成の中央1/2の範囲とする。

・貫通孔部分は、必要に応じて鋼管スリーブを取り付ける。



# 角形鋼管

F値295N/mm²以下  
□-150×150 ~ □-300×300 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-16」(平成28年9月16日付)

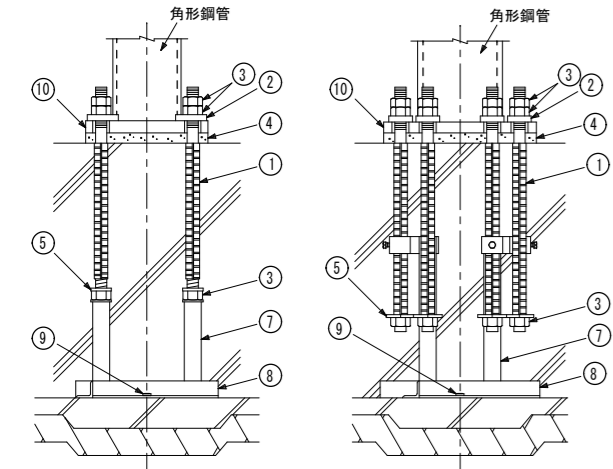
# ベースバック柱脚工法 設計 標準図

●ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

参考図

## 1. 工法概要

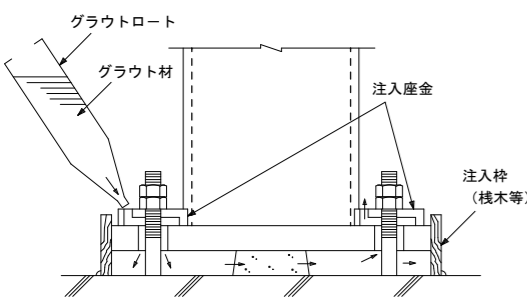
### 1.1 構成部材



- ① アンカーボルト
- ② 注入座金
- ③ Mナット
- ④ ベースバックグラウト(グラウト材)
- ⑤ 定着座金
- ⑥ テンプレート
- ⑦ フレームポスト
- ⑧ フレームベース
- ⑨ ステコンアンカー
- ⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースバック構成部品として供給される。  
(注)上記⑥～⑩は現場状況により仕様異なる場合がある。

### 1.2 柱脚の定着方法概要



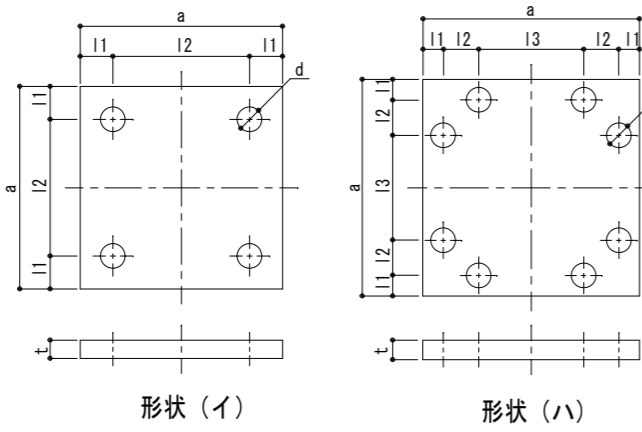
## 2. 柱

F値(N/mm ² )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TSC295	

## 3. 構成部材・寸法

### 3.1 ベースプレート

●材質  
SN490B 【JIS G 3136】



### 3.3 Mナット

呼び	A	B	(e)	単位 mm
M27	22	41	47	
M30	24	46	53	
M33	26	50	58	
M36	29	55	64	
M39	31	60	69	

### 3.4 定着座金

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質	単位 mm
M27	55	9	28	SS400	
M30	55	9	31		
M33	60	9	34		
M36	65	12	37		
M39	80	12	40		

### ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質	単位 mm
M30	55	168	9	32	SS400	
M33	60	173	9	35		
M36	65	178	9	38		

### 3.5 注入座金

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d	単位 mm
PM27	M27	32	42	101	18	28	
PM30	M30	32	42	101	18	31	
PM33	M33	35	45	110	18	34	
PM36	M36	35	45	110	18	37	
PM39	M39	38	48	118	18	40	

### 3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

#### i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び	異形部呼び名	L ^{注1)}	X	b ^{注1)}	単位 mm	基準強度(N/mm ² )
M27	D29	650	45	128	490	
M30	D32	695	45	133	490	
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490	
M36	D38	770	60	130	490	
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490	

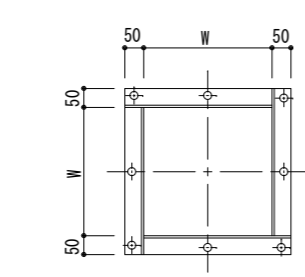
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

#### ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

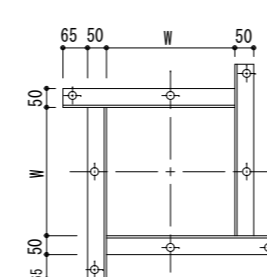
呼び	異形部呼び名	L	X	単位 mm	基準強度(N/mm ² )
M30	D32	695	45	490	
M33	D35	720	45	490	
M36	D38	770	60	490	

### 3.6 フレームベース

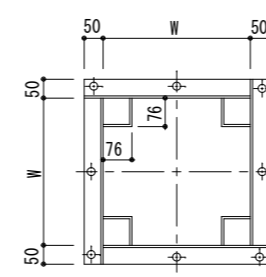
#### i) Aタイプ



#### ii) Cタイプ

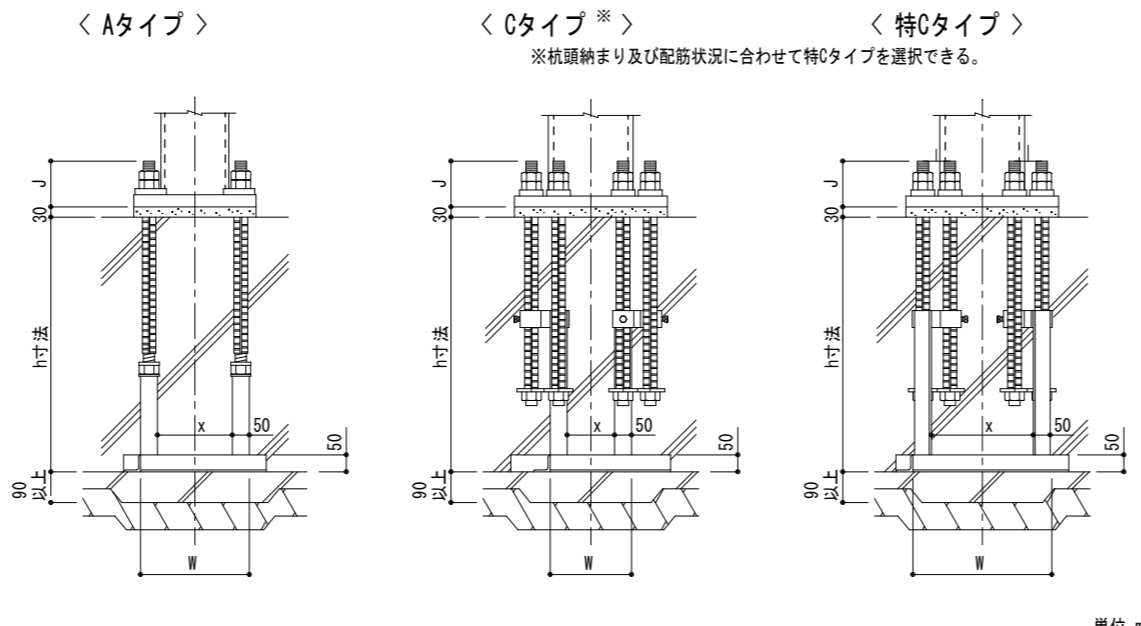


#### iii) 特Cタイプ



### 3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

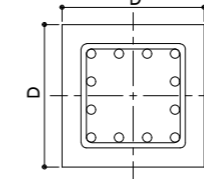
●ベースバックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。



## 4. コンクリート柱型

### 4.1 形状・材質

●形状  
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースバック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。

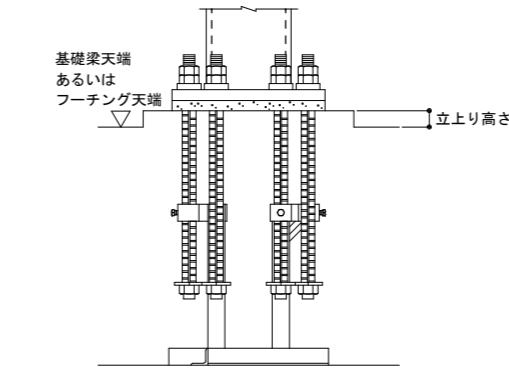


●コンクリート  
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋  
SD295 (D13, D16)  
SD345 (D19, D22)

### 4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。  
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



## 5. 工場製作 (溶接)

### ■組立

●ベースプレートの中心線(カガ線)に柱材軸心を合わせる。

### ■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 (mm)	ルート間隔S(mm)		ルート間隔R(mm)		開先角度α(°)	溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差		
被覆アーク溶接	ガスシールドアーク溶接	6~	7	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-2.5,+0 (-5,+0) 下向き
		9	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		
被覆アーク溶接	ガスシールドアーク溶接	6~	6	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-2.5,+0 (-5,+0) 下向き
		7	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		

許容差・記号+0は制限無しを示す。  
・2段階きは「鉄骨検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

### ■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5°C以上のベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)		
		t<32	32≤t<40	40≤t≤50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 °C	50 °C
	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

## 6. 工事場施工

### 6.1 基礎工事

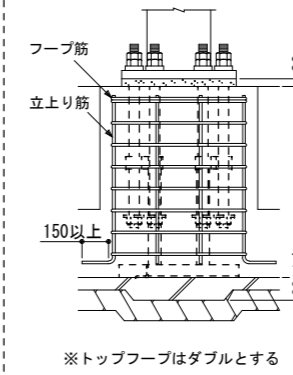
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

### 6.2 アンカーボルト据付け

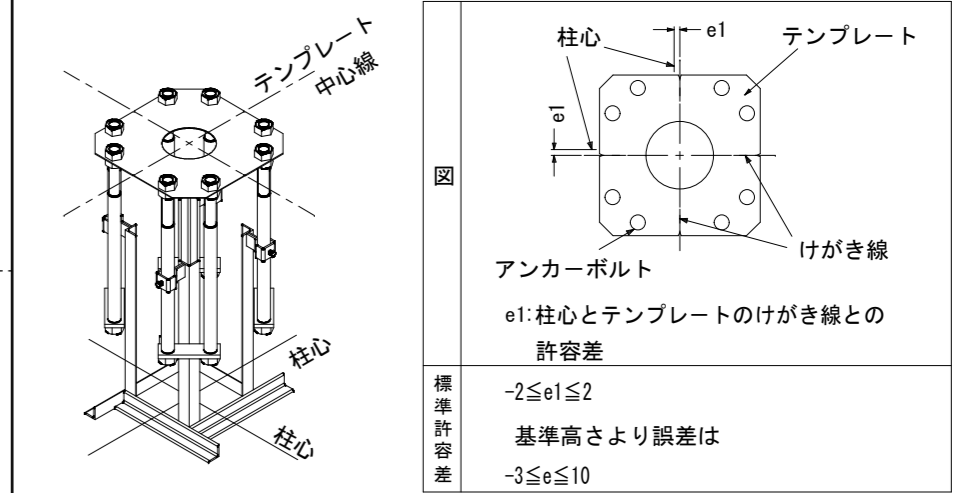
●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



※トップフープはダブルとする



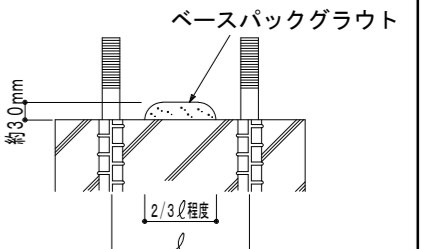
### 6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

### 6.4 建方

●レベルモルタルはベースバックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



### 6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

### 6.6 ベースバックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

## 7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースバックグラウトの注入は、ベースバック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースバック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

memo

check  
client  
architect  
contractor

scale

drawing title

project title

ベースバック柱脚標準図

(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

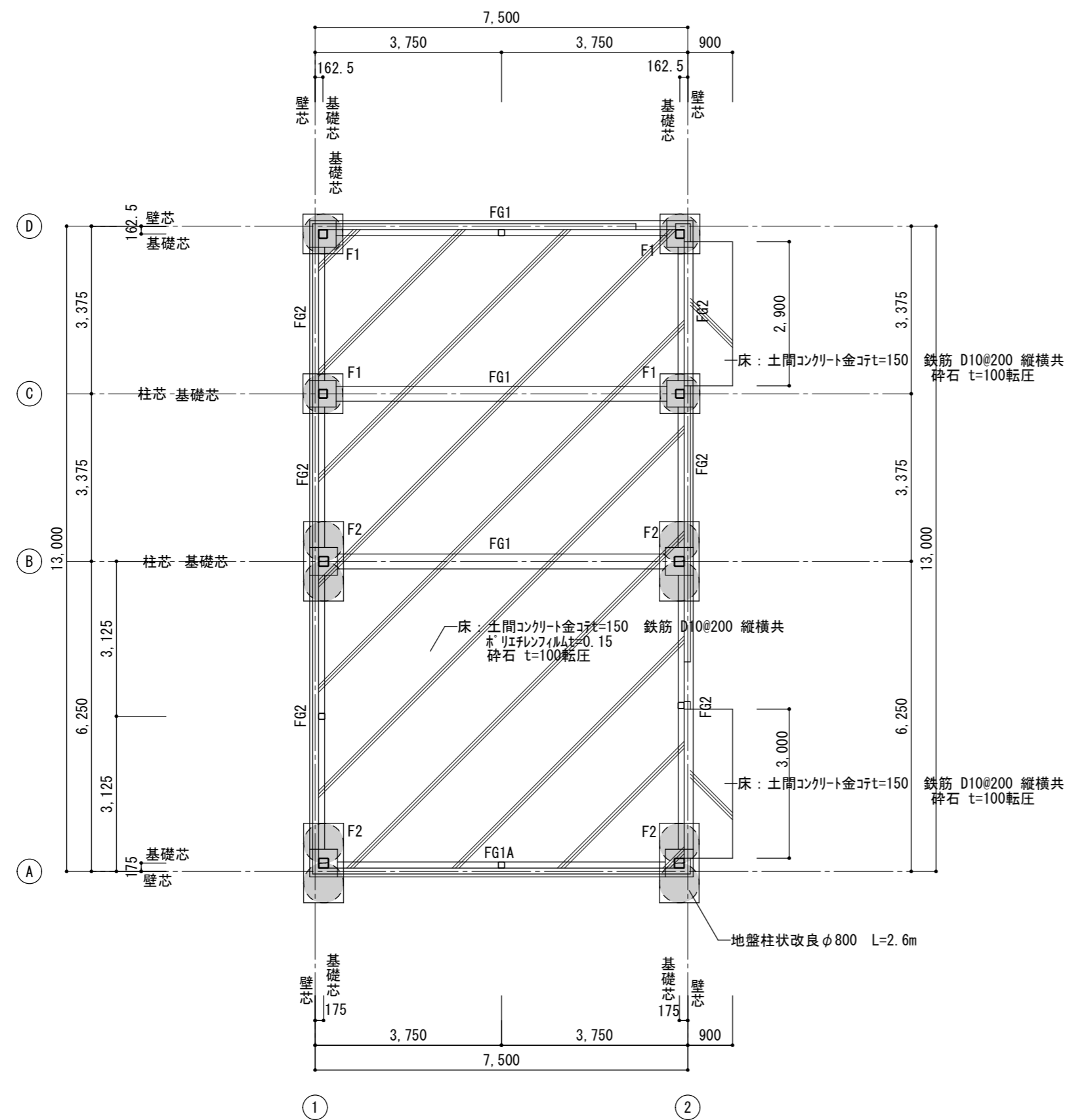


一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

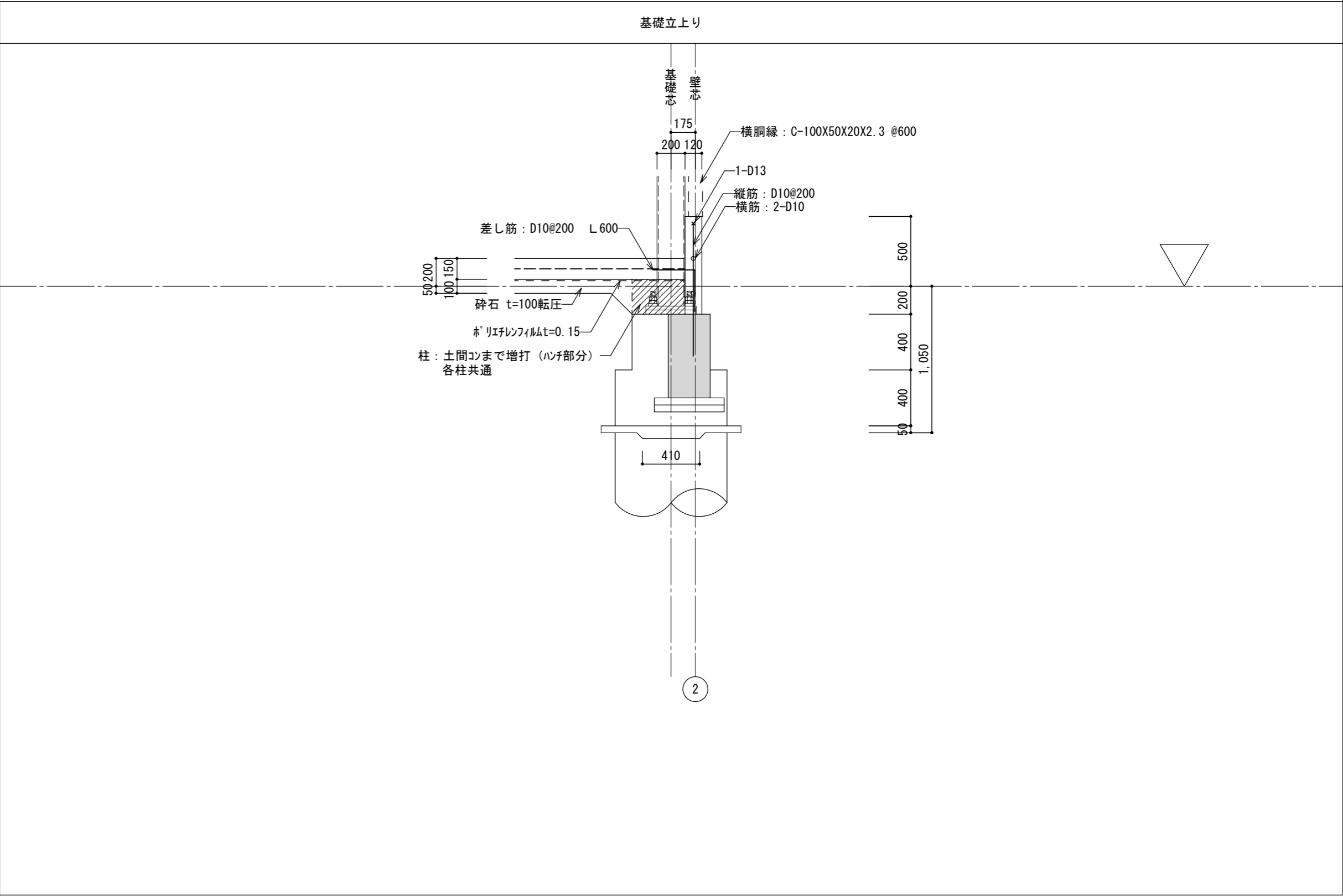
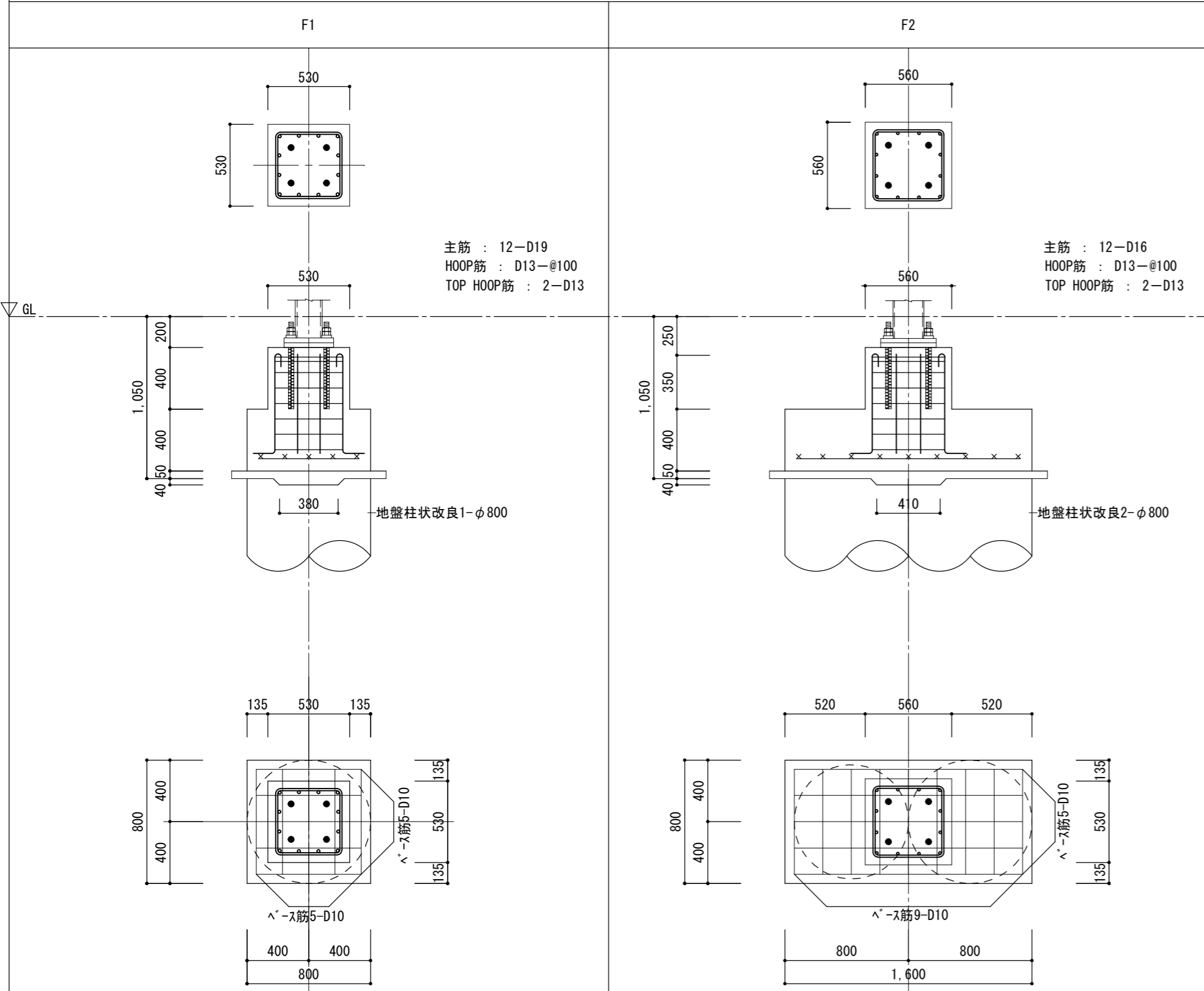
S-6  
原図: A2



基礎伏図 S=1:100

特記仕様書

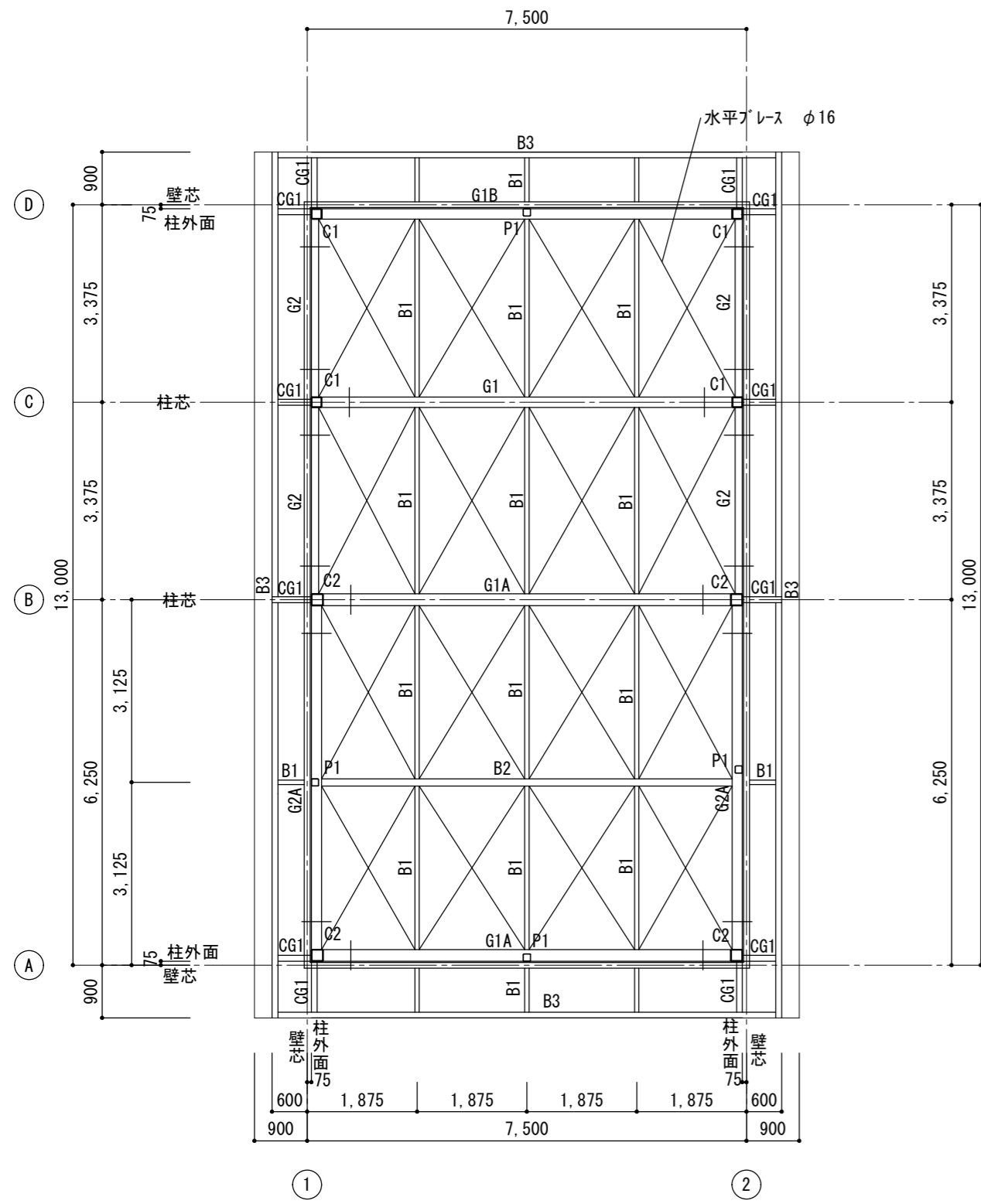
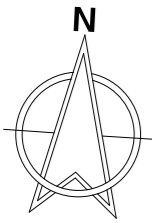
- ① 使用材料
- |             |                                                                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. コンクリート   | 21 N /mm ²                                                                              |
| 2. 土間コンクリート | 18 N /mm ²                                                                              |
| 3. 鉄筋       | D-16以下 ----- SD295A<br>D-19以上 ----- SD345                                                          |
| 4. 杭地業      | 地盤柱状改良 径=800φ 柱状長=2.6m<br>長期耐力=150KN/m ²<br>設計基準強度 F _c =750KN/m ² |
| 5. 鉄骨       | SS400<br>BCR295                                                                                    |
| 6. H.T.B    | S10T                                                                                               |
| 7. 錆止       | JIS K 5674 (工場1回、現場1回塗)                                                                            |
| 8. 柱脚       | 柱脚は露出型弾性固定柱脚工法(角形鋼管用)とする。                                                                          |
- ② 製作工場 Jグレード以上 (鋼全国鉄鋼工業連合会)
- ③ 全ての工事は大臣官房官庁営繕部監修、建築工事仕様書、建築改修工事共通仕様書による。



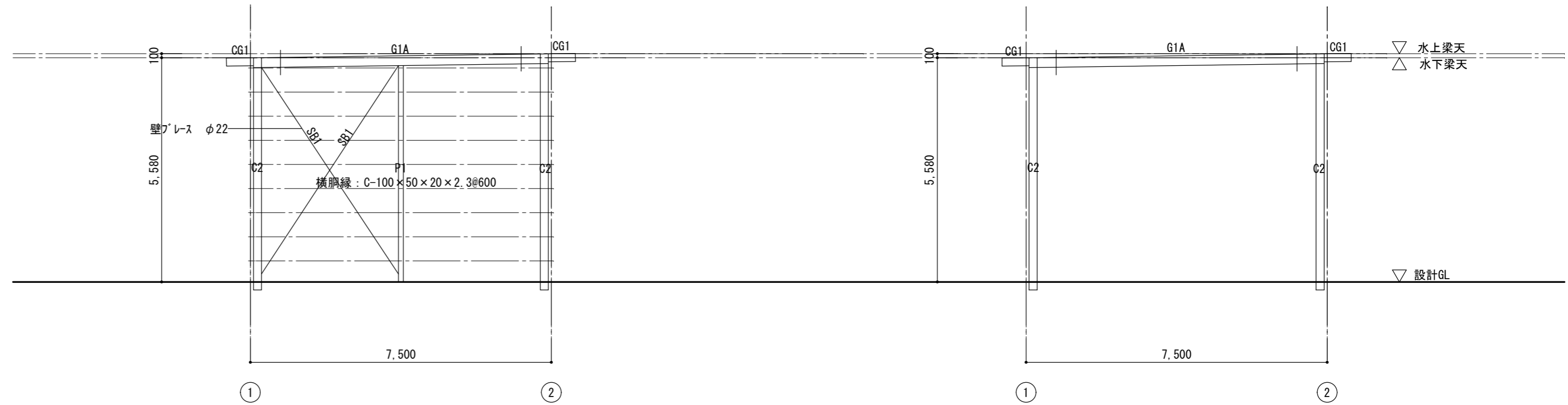
基礎梁断面リスト S=1:30 コンクリート強度  $F_c=21$  使用鉄筋 SD295A(D10~D16) SD345(D19以上) 巾止筋 D10-@1,000以内

符号	FG1	FG2	FG1A
BxD	300X700	300X600	300X700
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
上筋	1段筋3-D16 2段筋1-D16	3-D16	1段筋3-D16 2段筋2-D16
下筋	1段筋3-D16 2段筋1-D16	3-D16	1段筋3-D16 2段筋2-D16
スラック	D10@200	D10@200	D10@200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10
幅止筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000



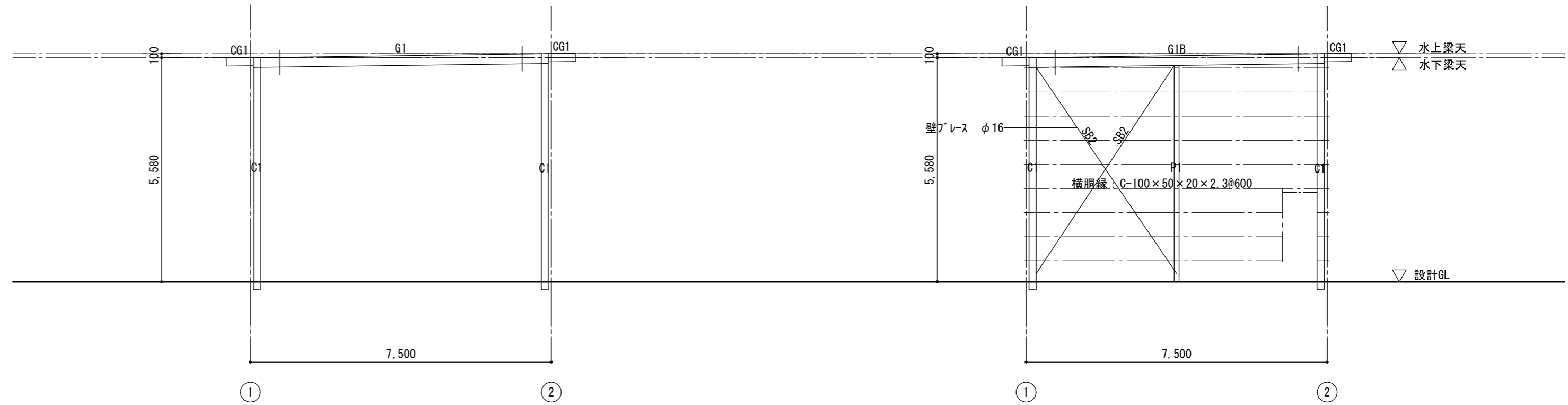


梁伏図 S=1:100



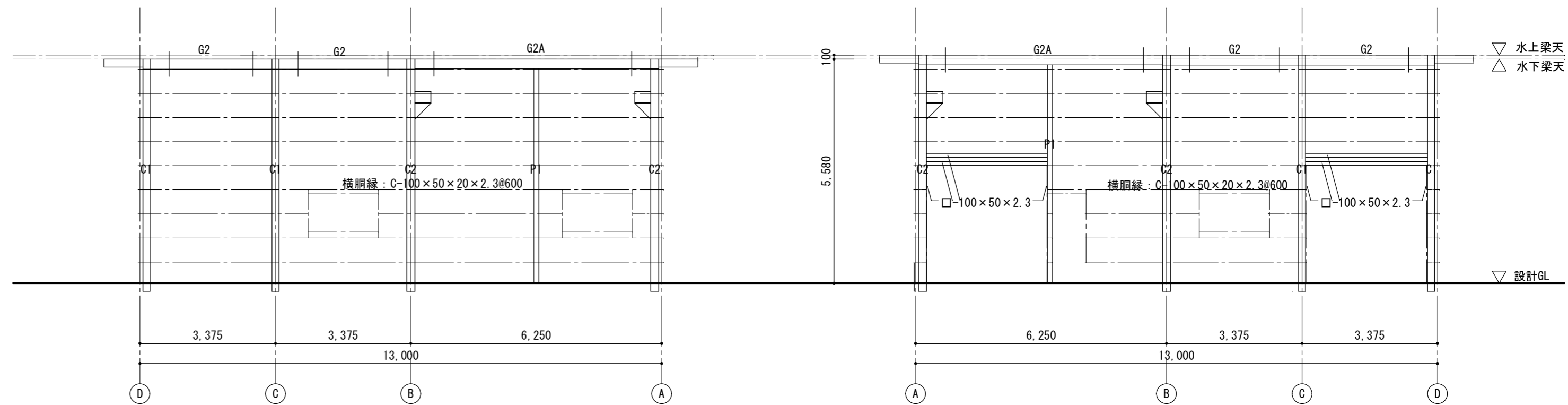
A

B



C

D



1

2

軸組図 S=1:100

memo

check  
client  
architect  
contractor

scale  
S=1:100

drawing title  
梁伏図、軸組図

project title  
(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

Kisho  
Architectural  
Design Office

一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 真匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

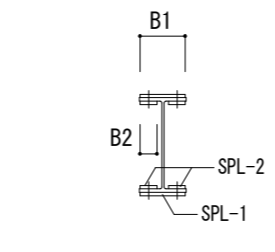
drawing no.  
sheet no.

S-9  
原図: A2

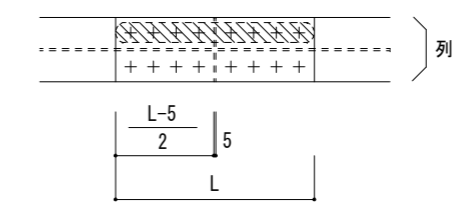
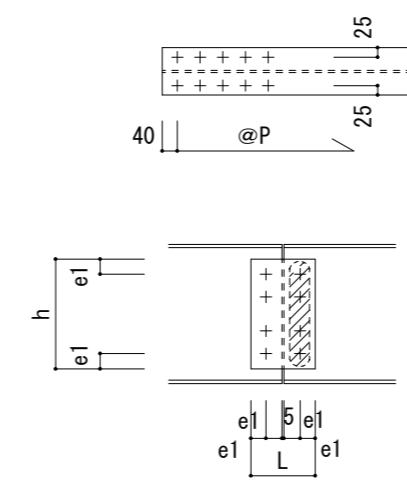
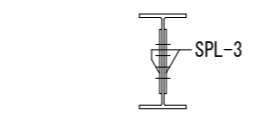
鉄骨部材リスト ※ 特記なき限り 鉄骨材質 SS400 H:ロールH型鋼 H・T・B S10T

符 号	部 材	G・PL	H・T・B	備 考
G1	H-244×175×7×11			
G2	H-250×125×6×9			
G1A	H-244×175×7×11			
G2A	H-244×175×7×11			
G1B	H-244×175×7×11			
B1	H-150×75×5×7	PL-6	2-M16	
B2	H-248×124×5×8	PL-9	2-M16	
B3	H-200×100×5.5×8	PL-6	2-M16	
CG1	H-200×100×5.5×8			
水平ブレース	φ16 タンパックル	PL-9	1-M16	
縦胴縁	C-100×50×20×2.3 @600			ね: L-75x75x6 ボルト-M12
壁ブレース	φ22 タンパックル	PL-12	1-M22	
SB1	φ16 タンパックル	PL-9	1-M16	
SB2	φ16 タンパックル	PL-9	1-M16	

フランジ継手 要領図

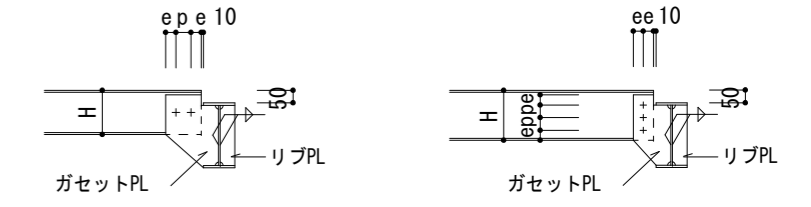


ウェブ継手 要領図



ボルト径	e1	P
M16	40	60
M20	40	60

接合部要領図



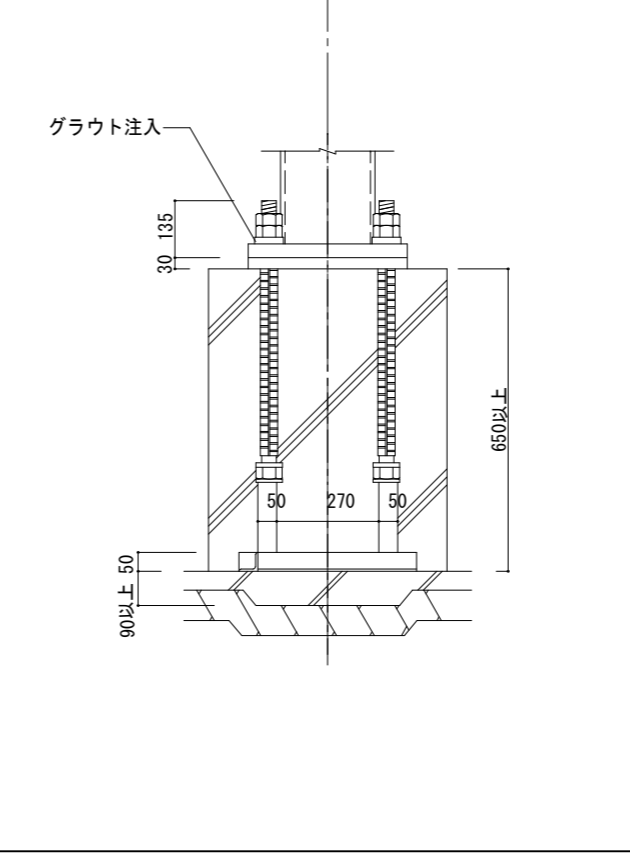
- ・リブPLはガセットPLの1サイズダウンかつ6mm以上
- ・p, eは下表とする

ボルト径	M16
P	60
e	40

鉄骨柱リスト S=1:30 ※ 特記なき限り 鉄骨材質 BCR295 (ダイヤフラム SN490C)

符 号	C1 17-12V	C2 20-09V	P1
階			
1 F	□-175×175×9	□-200×200×9	□-125×125×4.5 (STKR400)
柱脚	B・PL 320×320×32	360×360×28	325×125×9
A・BOLT	4-M30 (SD490) L=695	4-M30 (SD490) L=695	2-M12 (SS400) L=300
詳細図	大臣認定 露出型弾性固定柱脚工法 	大臣認定 露出型弾性固定柱脚工法 	

アンカー施工要領図  
大臣認定 露出型弾性固定柱脚工法



memo

check  
client  
architect  
contractor

scale

drawing title

鉄骨断面リスト1

project title

(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

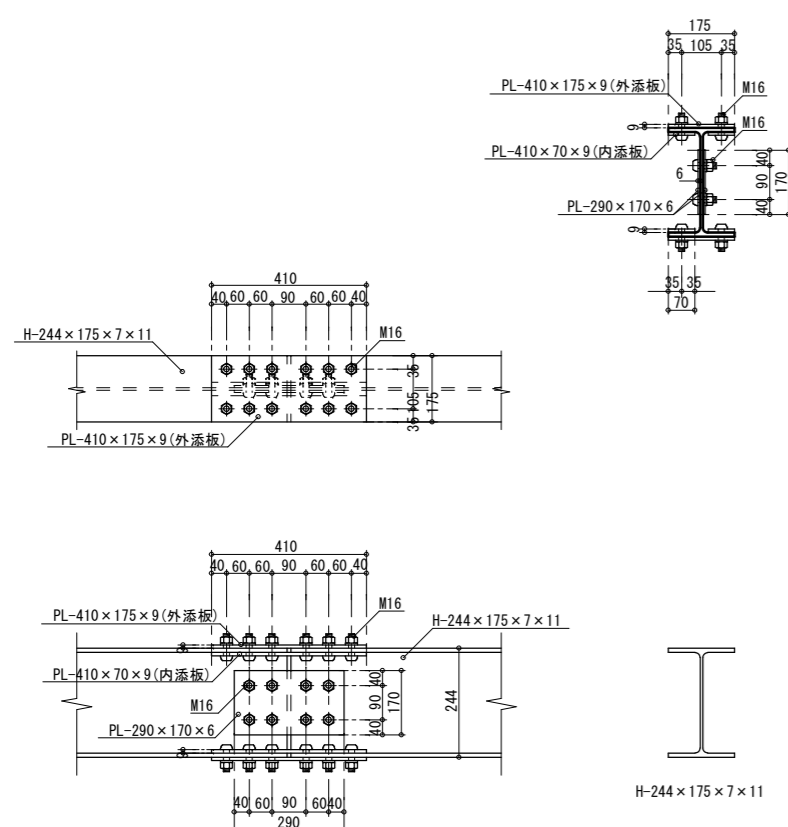
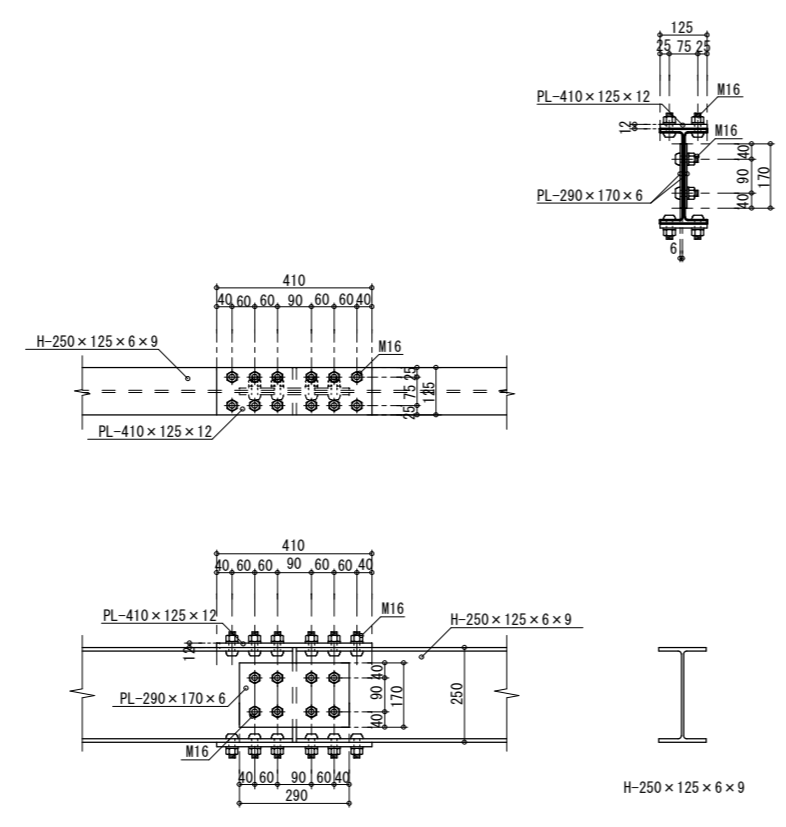
Kisho  
Architectural  
Design Office

一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

S-10  
原図: A2

符号	G1、G1A、G2A、G1B	G2																								
部材	H-244×175×7×11		H-250×125×6×9																							
詳細図	<table border="1" data-bbox="201 231 528 336"> <tr><td>梁サイズ</td><td colspan="2">H-244×175×7×11</td></tr> <tr><td>フランジ 外添板</td><td>PL-410×175×9 (2枚)</td><td>ボルトM16 (24本)</td></tr> <tr><td>内添板</td><td>PL-410×70×9 (4枚)</td><td></td></tr> <tr><td>ウェブ 添板</td><td>PL-290×170×6 (2枚)</td><td>ボルトM16 (8本)</td></tr> </table> 		梁サイズ	H-244×175×7×11		フランジ 外添板	PL-410×175×9 (2枚)	ボルトM16 (24本)	内添板	PL-410×70×9 (4枚)		ウェブ 添板	PL-290×170×6 (2枚)	ボルトM16 (8本)	<table border="1" data-bbox="914 231 1240 336"> <tr><td>梁サイズ</td><td colspan="2">H-250×125×6×9</td></tr> <tr><td>フランジ 添板</td><td>PL-410×125×12 (2枚)</td><td>ボルトM16 (24本)</td></tr> <tr><td>ウェブ 添板</td><td>PL-290×170×6 (2枚)</td><td>ボルトM16 (8本)</td></tr> </table> 	梁サイズ	H-250×125×6×9		フランジ 添板	PL-410×125×12 (2枚)	ボルトM16 (24本)	ウェブ 添板	PL-290×170×6 (2枚)	ボルトM16 (8本)		
梁サイズ	H-244×175×7×11																									
フランジ 外添板	PL-410×175×9 (2枚)	ボルトM16 (24本)																								
内添板	PL-410×70×9 (4枚)																									
ウェブ 添板	PL-290×170×6 (2枚)	ボルトM16 (8本)																								
梁サイズ	H-250×125×6×9																									
フランジ 添板	PL-410×125×12 (2枚)	ボルトM16 (24本)																								
ウェブ 添板	PL-290×170×6 (2枚)	ボルトM16 (8本)																								
符号																										
部材																										
詳細図																										

memo

check  
client  
architect  
contractor

scale  
S=1:20

drawing title  
鉄骨断面リスト2

project title  
(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

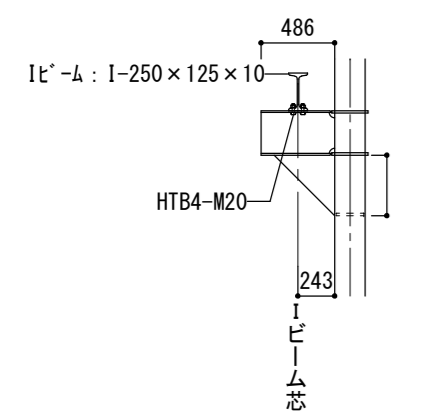
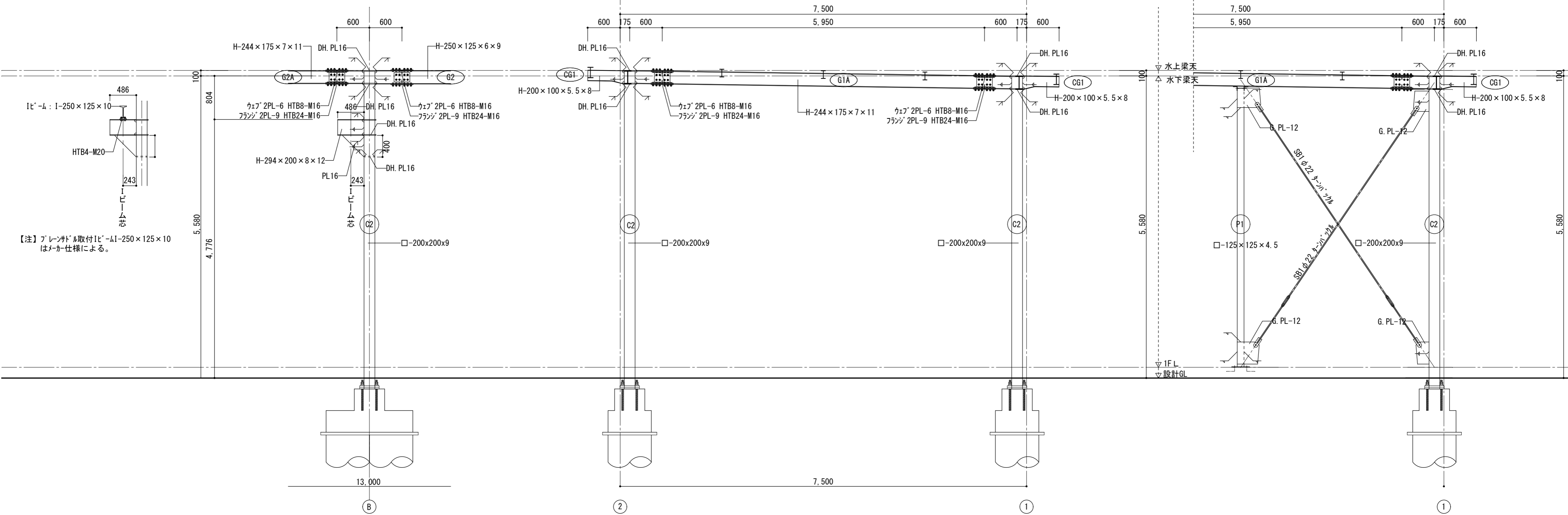
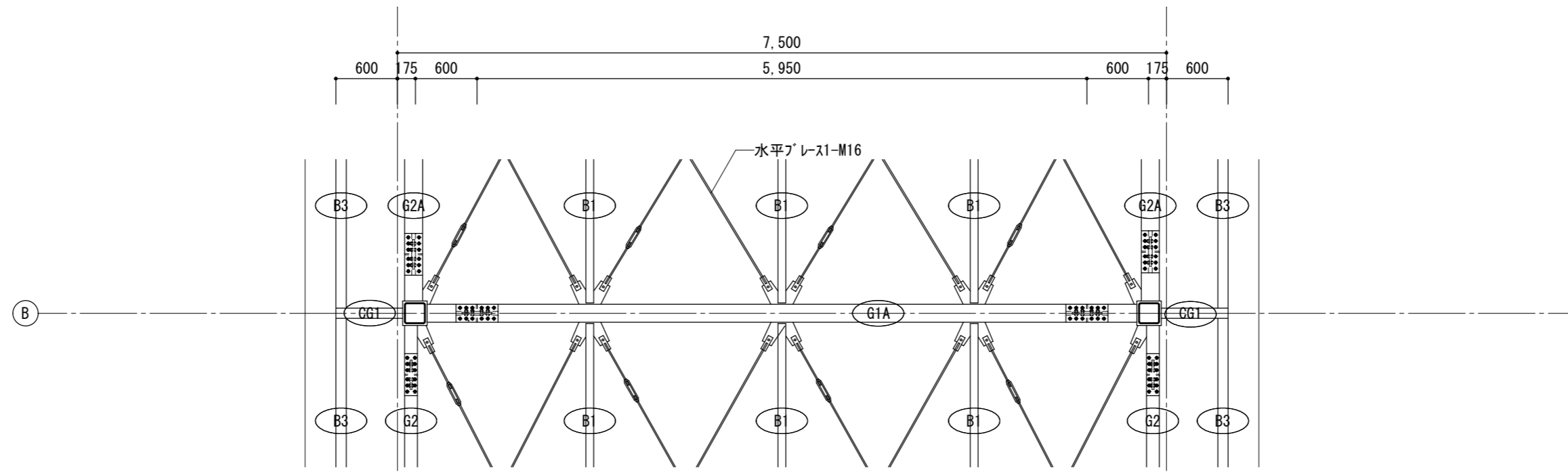
Kisho  
Architectural  
Design Office

一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

S-11  
原図: A2



【注】ブレースの取付1L-M1-250×125×10はメーカー仕様による。

B通り鉄骨詳細図 S=1:50

電気設備工事特記仕様書

I. 工事概要
1. 工事名称 (仮称)明神給水タンク等保管庫新築工事
2. 工事場所 津市 久居明神町 地内
3. 建物概要 保管庫 S造 平屋建 延べ面積 97.5㎡ 用途区分(14)項

4. 工事項目
下記において●印を付した工事を対象とする。
●電力設備 ●受変電設備 ●電力貯蔵設備 ●発電設備
●通信・情報設備 ●中央監視制御設備 ●医療関係設備
●構内配電線路 ●構内通信線路 ●その他

II. 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各平成31年版)
「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各平成31年版)
「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編 各平成31年版)
・電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準)
・電気工事業の業務の適正化に関する法律
・電気工事士法
・労働安全衛生法
・消防関連法規(条例・所轄署指導要領を含む。)
・電力会社供給約款
・その他関連法令、関連諸基準

III. 特記仕様
1. 一般共通事項
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。
1. 一般事項
(1)工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。
(2)設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。
なお、設計図書のとおりに施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。
(3)他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。

2. 足場
設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省 平成21年4月)により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

足場(つり足場、張出し足場又は高さが1.0m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る)の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。
1)足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
2)労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント(区分が土木又は建築である者)や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
3)全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

3. 三重県産業廃棄物税
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量集計)を超えて請求することはできない。

4. 電気工作物の種類
●一般電気工作物 ●自家用電気工作物

5. 電気工事士
電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。

6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律
電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。

7. 電気保安技術者
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。
なお、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、指導を受けるものとする。

8. 品質管理
工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。

9. 出来形管理
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。
①各種盤据付
耐震強度(設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ)
基礎寸法
水平垂直
②配管・配線工事
支持間隔
③スイッチ類の取付高さ

10. 測定機器の校正等
試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。
また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。

11. 施工計画等
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。
なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。
①総合施工計画書
包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。
②工種別施工計画書(施工要領書)
各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。
③施工図(プロット図、平面図、展開図、各種詳細図)
主要機器、重量機器等については、固定方法の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。
④耐震計算書

12. 機材等
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。
①機器明細図
②各種計算書
設計図書による他、監督員の指示による。

13. 工事写真
當繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(平成31年版))に従い撮影すること。
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(平成29年3月1日付け国営整第211号)」による。

14. 施工条件
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。
(1)施工可能日
●指定なし
●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)
●指定あり
指定日(●施設休業日 ●打ち合わせ ●その他( ))
(2)施工可能時間帯
●指定なし
●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)
●指定あり
指定時間(●( )時～( )時 ●打ち合わせ ●その他( ))
(3)その他( )

15. 事故の発生時
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。
なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。

16. 発生材の処理等
(1)引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。( )
(2)特別管理産業廃棄物
●変圧器 ●コンデンサ ●その他( )
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。
なお、施工に際してPCB等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。
(3)現場内において再利用を図るもの
●発生土 ●その他( )
(4)再資源化を図るもの
●コンクリート塊 ●アスファルトコンクリート塊 ●建設発生木材
(5)水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの
●蛍光灯 ●HIDランプ(高輝度放電ランプ) ●その他( )
「水銀廃棄物ガイドライン」(平成29年6月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)に基づき適切に処理すること。
(6)発注者へ引き渡すものについては「現場発生品調書」を提出すること。
また、再利用を図るものについても調書を作成し、監督員へ提出すること。
(7)引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。
(マニフェストA、B2、D票を提示すること。)

17. 官公署への手続き
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。
なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
●消防設備関係 ●電気工作物関係 ●受電関係 ●通信関係 ●建設工事関係
●その他( )

18. 消防法関係の手続き
(1)消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
●本工事(●建築工事 ●電気設備工事 ●機械設備工事) ●別途工事
(2)防火対象物使用開始届出書
書類の作成(電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。

19. 工所用仮設物
構内への設置 ●できる(施設管理者と協議) ●できない

20. 工所用電力
構内既存の施設
●利用できる(●有償 ●無償) ●利用できない
本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。

21. 工用水
構内既存の施設
●利用できる(●有償 ●無償) ●利用できない

22. 工事中等の保安監理
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手前から引渡しまでの電気保安管理等にかかる費用は本工事に含まれる。

23. 搬入計画
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法(厚、天井高さ、搬入経路上の曲がり等)、障害物(足場等)、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。

24. 製品確認
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、

25. 機材等の検査及び試験
検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。

26. 完成確認及び完成検査時等の電源確保
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。

27. 完成時の操作説明
総合盤等操作に必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。

28. 完成図等
作成する(●完成図 ●保全に関する資料 ●( ))
完成図作図範囲(設計図を訂正)
完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる権利は、発注者に移譲するものとする。また、製本2部(原因サイズ)により提出すること。

29. 完成写真
デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。
写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

30. 不正軽油の使用の禁止
(1)市工事業の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材の搬出入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。
(2)受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
(3)受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。

31. 現場での安全確保(自主施工の原則)
(1)受注者は、工事中の適切な安全確保の措置等の一切の手段について、自らの責任において定め、工事を実施すること。
(2)設計図書に明示された施工条件と工事現場が一致せず、安全確保のために指定仮設の変更や計上が必要な場合は、監督員と協議を行い、指示を受けた後、受注者として適切な安全確保の措置を講じたうえで、工事を実施すること。

32. 建設副産物情報交換システムの利用
受注者は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書(実施書)」、「再生資源利用促進計画書(実施書)」を監督員に提出することとし、工事着手前にJ A C I Cが運営する「建設副産物情報交換システム」へのデータ入力、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

2. 施工仕様
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。

1. 既設設備等の調査
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着手前に十分な調査を行うこと。
(1)地中埋設管路
1)項目 ●埋設配管 ●構造物 ●その他( )
2)調査範囲 ●埋設ルート ●その他( )
(2)貫通及びはつり
1)項目 ●鉄筋 ●配管 ●その他( )
2)調査範囲 ●施工部分 ●その他( )
(3)既設との取合い
1)項目 ●接続箇所 ●増設箇所 ●その他( )
2)調査範囲 ●施工部分 ●その他( )

2. 施工前の測定等
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認等を着工前に行い、監督員に報告すること。

3. 耐震施工
(1)想定される地震に対応するものとする。
(2)耐震計算書を監督員に提出するものとする。

4. 耐震基準
耐震措置の計算及び施工方法は、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」(国土交通省大臣官房官庁営繕部)及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(一財)日本建築センター)を適用する。

5. はつり
(1)穴開け及び補修 ●なし ●あり(貫通場所及び口径は別図による)
(2)溝はつり及び補修 ●なし ●あり(はつり深さは別図による)

6. あと施工アンカー
性能確認試験及び施工確認試験 ●行う ●行わない

7. 基礎の配線ビット
基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。

8. 配管・配線の耐震処置
建物引込部の配管の耐震処置 ●行う ●行わない
建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ●行う ●行わない

9. 最上階の埋込配管
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。

10. 露出配管
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。
(2)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。
(3)通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。
(4)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。

11. 合成樹脂管
(1)合成樹脂管の管端には、プッシングを取り付ける。
(2)原則として屋外の露出には使用しない。(P F管)

12. 予備配管等
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(P F 2 2)を1本、5回路以上は(P F 2 2)を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。また、二重天井の場合は、天井上で立上げ、位置ボックスを取付ける。

13. 金属製電線管等の塗装
(1)露出配管・露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。
1)屋外、屋内(電気室、機械室、E P S、居室、廊下)、その他建築意匠上必要な箇所。
2)図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。
3)湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。)
4)仮枠貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。
(2)塗装はエッチングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。

14. 導入線
通線を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線(φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。

15. 予備スリーブ
梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。
なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。

16. ボックス類
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として合成樹脂製とする。

17. 軽量間仕切のボックス
軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。

18. プルボックス
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。
(2)屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

19. ボルト・ナット類
屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの
●ステンレス ●溶融亜鉛メッキ仕上げ

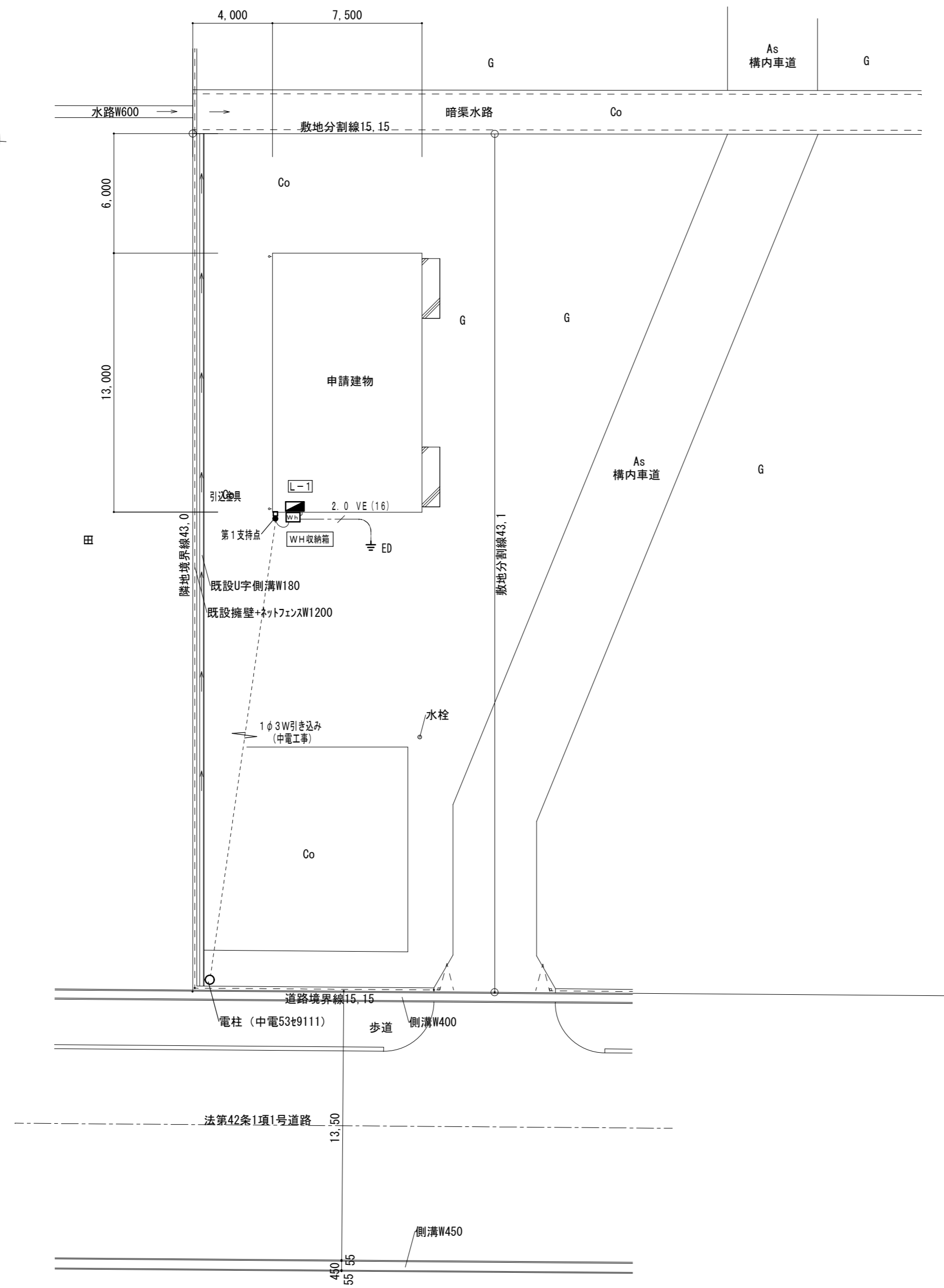
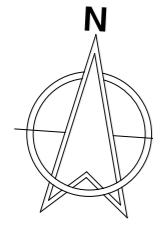
20. ケーブル及び配線  
 (1)表示  
 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札(ケーブル種別及びサイズ、行き先等を表示。)を取り付ける。  
 ① ケーブルがスラブを貫通する部分  
 ② ケーブル分岐部分  
 ③ 変電所内のケーブル引出し部分  
 ④ 盤内及び接地端子箱の外部配線引込み部分  
 ⑤ プルボックス内  
 ⑥ 屋外の共同溝等の直線部分は、5.0mごと  
 ⑦ 屋外の地中管路より建物内への引込み部分  
 ⑧ マンホール及びハンドホールごと  
 (2)ケーブル余長  
 1) 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数  
 ・2箇所 ・4箇所 ・( )箇所  
 2) 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数  
 ・2箇所 ・4箇所 ・( )箇所  
 21. 配線器具の設置  
 (1)特殊コンセントはプラグ付とする。  
 (2)電源の種類により色を区別する。  
 (3)配線器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁栓を使用する。  
 (4)プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。  
 (5)カバープレートは、原則として新金属製とする。  
 なお、器具を突装しない位置ボックスには用途表示をすること。  
 (6)フロアプレートは、水平高低調整型(空転防止リング付)とする。  
 22. 照明器具の設置  
 (1)照明器具取付完了後、照度測定を行う。  
 (2)天井下地材より支持をする場合は、ワイヤ等により脱落防止の措置を行う。  
 23. 照明改修の際の測定  
 対象室の改修前後の照度等の測定を次のとおり行うこと。  
 測定箇所 ( 2箇所 ) 測定回数 前後各( 1 )回  
 24. 分電盤、制御盤、キュービクル等  
 (1)図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。  
 25. 受変電設備、発電設備の設置場所  
 (1)保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。  
 (2)基礎の高さは周囲の状況を考慮する。  
 (3)電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通させない。  
 26. 発電設備の燃料配管  
 (1)フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。  
 (2)配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。  
 27. 非常放送設備のスピーカ設置  
 (1)放送区域の各部分からスピーカまでの水平距離は1.0m以内とする。  
 (2)階段等にスピーカを設置する場合は、垂直距離1.5m以内とする。  
 28. 土工事  
 (1)埋戻しの材料及び工法  
 ・B種 (材料:根切り土中の良質土 / 工法:機器による締固め)  
 ・その他 ( )  
 ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。  
 (2)根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。  
 (3)機械掘削は根切り底を乱さないようにする。  
 29. 地中配線路の表示杭  
 下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。  
 ① 建物への引込口及び送出口付近  
 ② マンホール・ハンドホール付近  
 ③ 地中線路の曲折箇所  
 ④ 直線部分では3.0m程度に1個(3.0mに満たない部分はその間に1個)

3. 機器仕様  
 下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。  
 なお、詳細については図面による。  
 【電力設備】  
 1. 電灯設備  
 (1)既設等との取り合い ●無し ・盤改造 ・配線接続 ・電源供給 ・その他 ( )  
 (2)機器類 ●一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯(単独設置) ●コンセント等 ●分電盤、制御盤等 ・その他 ( )  
 (3)一般照明器具  
 1)形式 ●公共型 ・一般型  
 2)灯具 ●LED灯 ・その他 ( )  
 3)用途 ●屋内用 ・屋外用 ・防災用  
 4)環境 ●普通地域 ・塩害地域  
 5)照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。  
 (4)照明制御器  
 1)センサ類 ・明るさセンサ ・人感センサ ・タイマ ・調光スイッチ ・その他 ( )  
 2)調光方式 ・連続調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 ・その他 ( )  
 (5)外灯(単独設置)  
 1)制御方式 ・有線 ・無線通信  
 1)照明用ポール  
 ①材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他 ( )  
 ②配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。  
 2)基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 3)灯具 ・LED灯 ・その他 ( )  
 4)電源 ・商用電源(60Hz) (・200V ・100V) ・その他 ( )  
 5)制御 ・Eスイッチ ・タイマ ・その他 ( )  
 6)接地 ・単独接地 (・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他 ( )  
 (6)コンセント等 ●一般型 ・防水型  
 ・ハフションアクト (・固定型 ・上下動型(アップ式を含む))  
 (7)分電盤、制御盤等  
 1)銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)に定める事項に加えて、受注者名、施工者名を記載する。  
 2)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。  
 3)絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。  
 4)配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。  
 ・無し ・盤改造 ・配線接続 ・その他 ( )  
 ・分電盤、制御盤等 ・その他 ( )  
 ・給水 ・排水 ・消火 ・空調 ・換気 ・排煙 ・昇降機 ・その他 ( )  
 (4)負荷設備への接続  
 図面に特記明示がない場合、負荷設備への接続は本工事とする。  
 (5)電動機等の接地  
 ・専用接地 ・金属管接地(7.5kW以下)  
 (6)分電盤、制御盤等  
 1)銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)に定める事項に加えて、受注者名、施工者名を記載する。  
 2)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。  
 3)絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。  
 4)配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。  
 5)電流計は赤指針付(定格電流指示)とする。  
 3. 雷保護設備  
 (1)避雷針  
 1)受雷部 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物  
 2)避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用  
 3)接地極 ・接地極埋設 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極  
 4)接地抵抗の測定  
 ①測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法  
 ②測定回数 ・3回 ・( )回  
 5)接地極埋設を設置する。  
 (2)雷サージ保護  
 1)耐雷トランス ・設置(・単相用 ・動力用) ・設置しない  
 2)SPD ・低圧用(・クラスI ・クラスII) ・通信用(・カテゴリC2 ・カテゴリD1)  
 3)SPDの性能仕様は別図による。  
 (3)電源回路保護  
 1)低圧用SPDIに使用する配線用遮断器は警報接点付とする。  
 2)主幹機器の2次側に設ける場合の配線用遮断器は、定格遮断容量5kA以上とする。  
 (4)通信回線保護  
 電話回線、制御回線などの通信回線に侵入するおそれがある場所は、雷サージから機器を保護するため通信用SPDを設置する。  
 4. 接地設備  
 (1)接地工事  
 1)種別 ・A種 ・B種 ・C種 ●D種  
 2)施工 ●各種単独 ・共用有り ( )  
 (2)接地抵抗測定  
 1)測定方法 ●電位差計方式 ・電圧降下法  
 2)測定回数 ●3回 ・( )回  
 (3)接地極埋設  
 接地には接地極埋設を施工し、接地極の位置がわかるようにする。

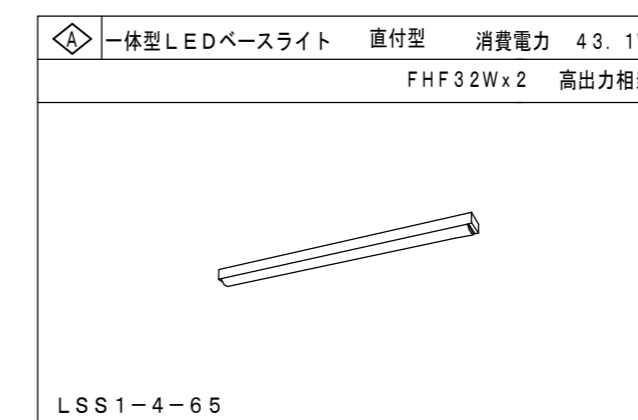
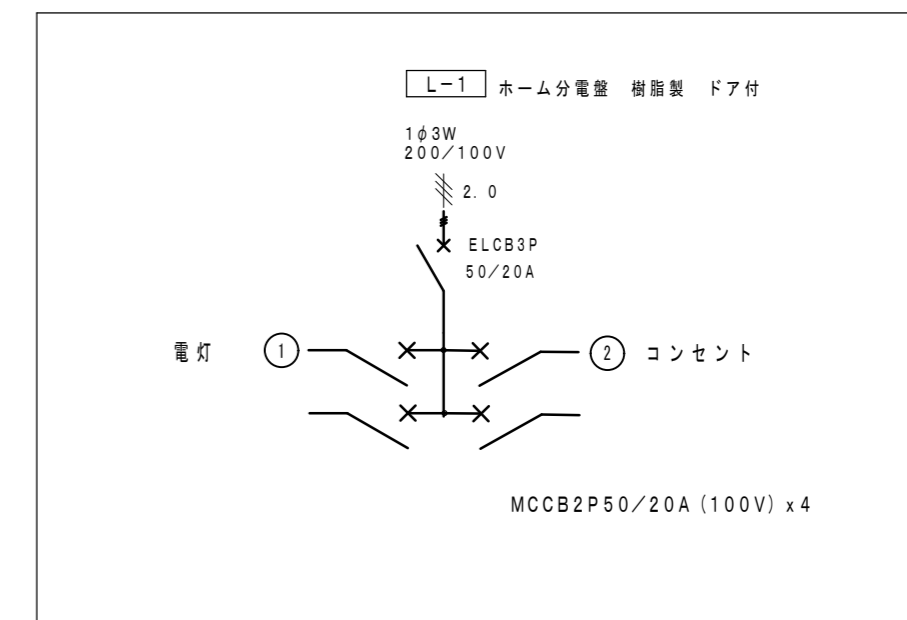
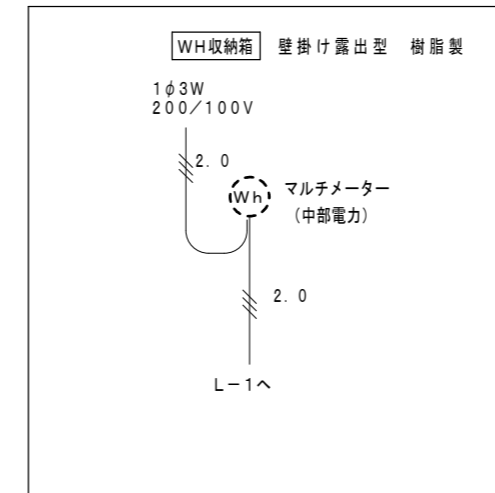
【受変電設備】  
 5. 受変電設備  
 (1)既設との取り合い  
 ・無し ・改造(機器取替、追加等を含む) ・増設 ・配線接続 ・その他 ( )  
 (2)機器類  
 ・盤類 ・交流遮断器 ・断路器 ・避雷器 ・負荷開閉器 ・変圧器 ・進相コンデンサ ・直列リアクトル ・配線用遮断器 ・電磁接触器 ・その他 ( )  
 (3)盤類  
 1)形式 ・キュービクル式配電盤(JIS C 4620) ・高圧スイッチギア(JEM 1425) (・CX ・CW ・PW ・MW) ・開放形配電盤 ・その他 ( )  
 2)中通路 ・有 ・無  
 3)特記事項 ( )  
 (4)交流遮断器  
 真空遮断器(VCB)  
 ①操作方式 ・手動ばね操作 ・電動ばね操作 ・電磁操作  
 ②引外し方式 ・電流引外し ・コンデンサ引外し ・直流電圧引外し  
 1)形式 ・3極単投 ・単極単投(避雷器用に限定)  
 2)操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作(避雷器用に限定)  
 (5)断路器  
 1)形式 ・配電盤用 ・引込柱用 ・地中引込用  
 2)配電盤用  
 ①操作方式 ・フック棒操作 ・遠方手動操作 ・電動操作  
 ②限流ヒューズ ・有(ストライカ付き) ・無  
 ③引外し装置 ・ストライカ引外し ・電圧引外し ・無  
 ④本体及び制御箱の材質 ・ステンレス製 ・鋼製  
 ⑤保護装置 過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする  
 ⑥避雷器 ・内蔵 ・無  
 ⑦引込柱用  
 ①本体及び制御箱の材質 ・ステンレス製 ・鋼製  
 ②保護装置 過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする  
 ③避雷器 ・内蔵 ・無  
 (6)地中引込用  
 保護装置は、過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする  
 (7)変圧器  
 1)形式 ・油入 ・モールド  
 2)設置方式 ・屋外型 ・屋内型  
 3)ダイヤル温度計 ・有(・最大値指針 有 ・最大値指針 無) ・無  
 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合には必須とする  
 (8)進相コンデンサ  
 1)絶縁方式 ・油入 ・モールド ・ガス  
 2)その他 ①内部異常を検知して動作する保護接点を設けること ②放電装置を附属又は内蔵すること  
 (9)直列リアクトル(進相コンデンサ用)  
 1)絶縁方式 ・油入 ・モールド  
 2)容量 ・6% ・1.3%  
 3)その他 内部異常を検知して動作する警報接点を設けること  
 (10)キュービクル等  
 1)銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)に定める事項に加えて、受注者名、施工者名を記載する。  
 2)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。  
 3)絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。  
 ・本工事 (・2.1N/mm² ・1.8N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 (12)配線ピット及び蓋  
 1)施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 2)ピット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。  
 (13)設置場所  
 ・屋内 ・屋外 (・地上 ・屋上)  
 【電力貯蔵設備】  
 6. 直流電源設備  
 (1)用途 ( )  
 (2)容量 ( )kVA  
 (3)整流装置  
 1)出力電圧 直流(・1.2V ・2.4V ・4.8V ・( )V)  
 2)整流装置は、蓄電池を充電するための電流並びに監視及び制御等で消費される電流を考慮して選定する。  
 (4)蓄電池  
 1)種類 ・鉛蓄電池(・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池(・AH ・AMH) ・その他 ( )  
 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・( )℃  
 7. 交流無停電電源設備  
 (1)用途 ( )  
 (2)容量 ( )kVA  
 (3)給電方式  
 ・常時インバータ給電方式 ・ラインインタラクティブ方式  
 ・常時商用給電方式 ・その他 ( )  
 (4)整流装置等  
 整流装置、インバータ装置は、接続する負荷の特性を配慮し選定する。  
 (5)蓄電池  
 1)種類 ・鉛蓄電池(・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池(・AH ・AMH) ・その他 ( )  
 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・( )℃  
 停電補償時間 ( )  
 (6)性能  
 ・仕様詳細は別図による。  
 8. 電力平準化用蓄電設備  
 ・仕様詳細は別図による。  
 9. 分散電源エネルギーマネジメントシステム  
 ・仕様詳細は別図による。

【発電設備】  
 10. 燃料式発電設備  
 (1)用途  
 1)用途 ・防災電源専用(防災認定品) ・防災電源兼用(防災認定品) ・一般用  
 2)区分 ・常用 ・非常用  
 3)設置場所 ・屋内 (・普通地域 ・塩害地域) ・屋外 (・普通地域 ・塩害地域)  
 (2)発電装置  
 ・燃料槽 ・給油ボックス ・燃料移送ポンプ  
 (3)機器  
 ・その他 ( )  
 (4)発電装置  
 1)種類 ・ディーゼル発電装置 ・ガスエンジン発電装置  
 ・ガスタービン発電装置  
 2)形式 ・簡易形 ・オープン式  
 ・キュービクル式(・85dB(A)/1m ・75dB(A)/1m)  
 3)始動時間(停電検出後) ・1.0秒以内 ・4.0秒以内  
 ・( )秒以内  
 4)連続運転時間 ・2時間以上 ・1.0時間以上 ・2.4時間以上  
 ・7.2時間以上 ・その他 ( )  
 5)発電機  
 ①電気方式 ・三相3線式(・6.6kV ・200V ・( )V) ・単相3線式(200/100V) ・単相2線式(・200V ・100V ・( )V)  
 ②定格周波数 60Hz  
 ③定格出力 ( )kVA  
 6)原動機  
 ①定格出力 ( )kW 以上 ・( )ps 以上  
 ②冷却方式 ・ラジエータ方式 ・その他 ( )  
 (5)燃料  
 1)種類 ・軽油 ・灯油 ・A重油 ・その他 ( )  
 2)引渡時燃料 ・満タン ・指定なし ・その他 ( )  
 (6)燃料槽  
 1)形式及び容量 ・パッケージ搭載タンク ( )リットル  
 ・燃料小出槽 ( )リットル  
 ・主燃料槽 ( )リットル  
 ・屋外型(・ステンレス製 ・鋼製)  
 ・屋内型(・ステンレス製 ・鋼製)  
 2)燃料小出槽  
 ①設置場所 ・屋内 (・屋外(地上) ・地下埋設(・タンク室内埋設 ・直埋設) ・二重殻タンク ・一重殻タンク ・その他 ( )  
 ②形式 ( )  
 ③設置工事 ・本工事 ・別途工事 ・その他 ( )  
 ④タンク室工事 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 (7)給油ボックス  
 1)材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・その他 ( )  
 2)油量指示計 ・有 ・無  
 (8)燃料移送ポンプ  
 1)電動ポンプ ・歯車ポンプ ・油中ポンプ  
 2)手動ポンプ(ウイングポンプ) ・有 ・無  
 3)電動ポンプ水没防止カバー ・有 ・無  
 (9)基礎  
 ・本工事 (・2.1N/mm² ・1.8N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 11. その他発電設備  
 ・( )の仕様詳細は別図による。  
 【通信・情報設備】  
 12. 構内情報通信網設備  
 ・仕様詳細は別図による。  
 13. 構内交換設備  
 (1)機器  
 ・交換装置 ・電話機 ・端子盤類 ・アウトレット  
 ・その他 ( )  
 (2)交換装置  
 1)種別 ・構内交換装置(・デジタルPBX ・IP-PBX ・VoIPサーバ) ・ボタン電話装置 ・その他 ( )  
 2)局線応答方式 ・局線中継台 ・分散中継台 ・ダイヤルイン ・ダイレクトインダイヤル ・ダイレクトインライン ・その他 ( )  
 3)保安用接地 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 4)本配電盤(MDF) ・自立フレーム(・片面形 ・両面形) ・交換機一体型 ・壁掛型 ・その他 ( )  
 5)電源装置 ①形式 ・別置型 ・一体形 ・その他 ( ) ②停電補償時間 ・3.0分以上 ・( )以上  
 (3)電話機  
 ・一般電話機 ・多機能電話機 ・IP電話機  
 ・デジタルコードレス電話機(PHS方式) ・IPコードレス電話機(無線LAN方式)  
 ・その他 ( )  
 (4)端子盤類  
 1)端子盤 ・中継端子盤(1DF) ・室内端子盤  
 2)中継端子盤には実装数の20%以上、室内端子盤には10P以上の接続端子板スペースを見込む。  
 (5)アウトレット  
 ・ローテンションアウトレット(・固定型 ・上下動型(アップ式を含む))  
 ・壁コンセント ・その他 ( )  
 14. 情報表示設備  
 (1)設備  
 仕様詳細は別図による。  
 (2)マルチン装置  
 仕様詳細は別図による。  
 (3)出退表示装置  
 仕様詳細は別図による。  
 (4)時刻表示装置  
 (5)警報等表示装置  
 1)機器 ・表示盤 ・検出装置 ・その他 ( )  
 2)表示盤 ①表示方式 ・表示窓式 ・その他 ( ) ②施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 3)検出装置 ①検出方式 ・電極 ・無電圧接点 ・その他 ( ) ②施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ( )  
 (6)図面に特記明示がない場合、検出装置への接続は本工事とする。  
 15. 映像音響設備  
 ・仕様詳細は別図による。

<p>16. 拡声設備</p> <p>(1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増幅器 ・付属機器 ・操作装置 ・スピーカ ・その他 ( )</li> <li>・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照)</li> <li>・専用 出力 ( ) W</li> </ul> <p>(2) 増幅器</p> <p>出力インピーダンス ・Lo形 ・Hi形</p> <p>(3) 付属機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーディオミキサー ・リモコンマイク ・電源制御器</li> <li>・録音再生装置 (・CD ・メモリアーディオ ・その他 ( ))</li> <li>・アナウンスレコーダ (・チャイム ・独自メッセージ ・プログラムタイマ ・その他 ( ))</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有線マイクロホン</li> <li>・無線マイクロホン (・電波式 (・アナログ ・デジタル) ・赤外線式)</li> <li>・ラジオチューナー (・FM ・AM ・その他 ( ))</li> <li>・スピーカー切替装置 ・その他の機器 ( )</li> </ul> <p>(4) 操作装置</p> <p>(5) スピーカ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓型 ・キャビネットラック型 ・壁掛型 ・その他 ( )</li> <li>・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照)</li> <li>・専用 結線 ・1W ・3W ・( ) W</li> <li>インピーダンス ・Lo形 ・Hi形</li> <li>設置場所 ・屋内 ・屋外 ・その他 ( )</li> </ul>	<p>23. 自動閉鎖設備</p> <p>(1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動制御器</li> <li>・感知器</li> <li>・自動閉鎖装置</li> <li>・自動開錠装置</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 運動制御器</p> <p>1) 制御対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防火戸 ・防火シャッター ・防排煙ダンパー</li> <li>・非常口等の扉 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 回線数 ( ) 回線 (遠方復帰機構 ( ) 回路)</p> <p>3) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤</li> <li>・アドレス付 ・一般型</li> </ul> <p>(3) 感知器</p> <p>1) 型式</p> <p>2) 種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・煙感知器 (・2種 ・3種)</li> <li>・自動試験機能</li> <li>・遠隔試験機能</li> </ul> <p>3) 試験機能</p> <p>4) 機器仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般 ・防水 ・防爆 ・防食 ・その他 ( )</li> </ul> <p>(4) 自動閉鎖装置</p> <p>1) 方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁式 ・ラッチ式 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事</li> <li>・既設利用 ・その他 ( )</li> </ul> <p>(5) 自動開錠装置</p> <p>1) 方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気錠 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事</li> <li>・既設利用 ・その他 ( )</li> </ul>	<p>【構内通信線路】</p> <p>27. 構内通信線路</p> <p>(1) 用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話 ・拡声 ・時刻表示 ・火災報知 ・非常警報 ・インターホン</li> <li>・テレビ共同受信 ・防犯 ・制御 ・その他 ( )</li> <li>・地中線式 (・直埋 ・管路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架)</li> <li>・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ( ))</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 配線方式</p> <p>(3) 建柱</p> <p>1) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 ・既設柱利用 ・構内配電線柱に添架</li> <li>・その他 ( )</li> <li>・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・バンザマスト</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 電柱</p> <p>3) 支持材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根かせ ・根はじき ・根巻き ・底板</li> <li>・支線 (保護ガード ・有 ・無)</li> </ul> <p>4) 装柱材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 ・無</li> </ul> <p>5) 銘板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 ・無</li> </ul> <p>(4) ハンドホール</p> <p>マンホール</p> <p>1) 形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック式 ・現場打ち</li> </ul> <p>2) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事</li> <li>・既設利用 ・その他 ( )</li> </ul> <p>3) ケーブル支持金物の取付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2箇所 ・4箇所 ・( ) 箇所</li> </ul> <p>4) 重車両の通行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 (破壊荷重 200kN以上、衝撃係数 0.1(走行速度制限箇所)) ・無</li> </ul> <p>(5) 鉄蓋</p> <p>1) 鉄蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。</p> <p>2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。</p> <p>(6) 地中ケーブル</p> <p>保護材料</p> <p>1) 種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP</li> <li>・厚鋼電線管 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 標示杭埋設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分)</li> </ul> <p>3) 埋設標識シート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2倍長 ・その他 ( )</li> </ul> <p>4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。</p>	<p>【その他】</p> <p>28. 消火器</p> <p>1) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本工事 (●建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事)</li> <li>・別途工事</li> </ul> <p>2) 消火器</p> <p>種類 (ABC10型 ( ) )、数量 ( 1 ) 本</p> <p>3) 消火器収納箱</p> <p>材質 ( )、数量 ( ) 面</p>
<p>17. 誘導支援設備</p> <p>(1) 設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声誘導装置</li> <li>・インターホン</li> <li>・トイレ等呼出装置</li> </ul> <p>(2) 音声誘導装置</p> <p>1) 検出方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁気式 ・無線式 ・画像認識式 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 設置場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外 (防雨形) ・屋内</li> </ul> <p>3) 機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する</li> <li>・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>4) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御装置</li> <li>・送信機</li> <li>・受信機</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>5) 制御装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛型</li> <li>・卓上形</li> <li>・複合盤組込</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>6) 送信機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛形</li> <li>・卓上形</li> <li>・埋込形</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>7) 受信機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカ式</li> <li>・イヤホン式</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(3) インターホン</p> <p>1) 用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部受付用</li> <li>・外部受付用</li> <li>・夜間訪問用</li> <li>・身体障害者用</li> <li>・保守用</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声通話</li> <li>・映像モニタ</li> </ul> <p>3) 通話網</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子式</li> <li>・相互式</li> <li>・複合式</li> </ul> <p>4) 通話方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時通話式</li> <li>・交互通話式</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>5) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親機</li> <li>・子機</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>6) 親機</p> <p>①形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛型</li> <li>・卓上形</li> <li>・複合盤組込</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>②送受話器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話機形</li> <li>・マイク形</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>7) 子機</p> <p>①形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛形</li> <li>・卓上形</li> <li>・埋込形</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>②送受話器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話機形</li> <li>・マイク形</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(4) トイレ等呼出装置</p> <p>1) 用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ呼出</li> <li>・受付呼出</li> <li>・非常通報</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親機</li> <li>・呼出スイッチ</li> <li>・警報装置</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>3) 親機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛型</li> <li>・卓上型</li> <li>・複合盤組込</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>4) 呼出スイッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・押ボタン式</li> <li>・引紐式</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>5) 警報装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光</li> <li>・音声</li> <li>・ブザー</li> <li>・ベル</li> <li>・その他 ( )</li> </ul>	<p>24. 非常警報設備</p> <p>(1) 設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常放送装置</li> <li>・非常ベル</li> </ul> <p>(2) 非常放送装置</p> <p>1) 設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 消防法基準適合マーク品とする。</li> <li>2) 機器</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増幅器</li> <li>・スピーカ</li> <li>・非常用リモコンマイク</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> </ul> <p>3) 増幅器</p> <p>①出力 ( ) W</p> <p>②出力インピーダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lo形 ・Hi形</li> </ul> <p>③形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングラック型</li> <li>・スタンダードラック型</li> <li>・壁掛型</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>④機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイク放送</li> <li>・連動放送 (・自火報設備 ・緊急地震速報設備)</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>⑤用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡声設備兼用</li> <li>・非常放送専用</li> </ul> <p>4) スピーカ</p> <p>①結線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1W ・3W ・( ) W</li> </ul> <p>②インピーダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lo形 ・Hi形</li> </ul> <p>③設置場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内 ・屋外 ・その他 ( )</li> </ul> <p>④用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡声設備兼用</li> <li>・非常放送専用</li> </ul> <p>5) 非常用リモコンマイク</p> <p>型式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛形</li> <li>・ラック収納形</li> <li>・卓上形</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起動装置</li> <li>・非常ベル</li> <li>・表示灯</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独設置</li> <li>・機器収容箱に組込</li> <li>・消火栓ボックス (別途) に組込</li> <li>・その他 ( )</li> </ul>	<p>5. 使用資機材の適用規格</p> <p>(1) 以下に定めるとおりとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本工業規格 (JIS規格) 適合品の使用を原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品</li> <li>●電気用品安全法適合品</li> <li>●耐熱 ・耐火電線、耐熱 ・耐火ケーブル</li> <li>●消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火 ・耐熱電線及び耐火バスタクトの適合性検査を行い合格したもの</li> <li>●第三者認証機関として(一社)日本電線工業会規格 (JCS規格) への適合性検査を行い合格したもの</li> <li>●非常用照明器具</li> <li>●建築基準法に定める国土交通大臣認定品</li> <li>●(一社)日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの</li> <li>●誘導灯</li> <li>●登録認定機関 ((一社)日本電気協会 (JEA誘導灯認定委員会)) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> <li>●制御盤</li> <li>●(一社)日本配電制御システム工業会規格 (JSIA規格) 適合品</li> <li>●消防用加圧送水装置、不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災通報装置、総合操作盤等の認定対象品</li> <li>●登録認定機関 ((一財)日本消防設備安全センター (消防用設備等認定委員会)) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> <li>●不活性ガス消火設備等の操作箱、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品</li> <li>●(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの</li> <li>●金属閉鎖形スイッチギア</li> <li>●(一社)日本電機工業会規格 (JEM規格) 適合品</li> <li>●高圧機器 (遮断器、限流ヒューズ、負荷開閉器、避雷器、断路器、特定機器以外の変圧器、計器用変成器、保護継電器)</li> <li>●(一社)電気学会電気規格調査会規格 (JEC規格) 適合品</li> <li>●直流電源装置 (防災電源用)</li> <li>●登録認定機関 ((一社)日本電気協会 (JEA蓄電池設備認定委員会)) の認定をうけ、認定証票が貼付されたもの</li> <li>●交流無停電電源装置</li> <li>●(一社)電気学会電気規格調査会規格 (JEC規格) 適合品</li> <li>●自家発電装置 (防災電源用)</li> <li>●登録認定機関 ((一社)日本内然力発電設備協会) の認定を受け、認定証票 (長時開形) が貼付されたもの</li> <li>●自家発電装置 (防災電源用でないもの)</li> <li>●(一社)日本電機工業会規格 (JEM規格) 適合品</li> <li>●太陽電池モジュールの支持物</li> <li>●電気設備の技術基準の解釈第46条第2項又は第3項の規定に適合するもの</li> <li>●電話用設備 (電話交換機、電話機等)</li> <li>●登録認定機関 ((一財)電気通信端末機器審査協会 (JATE) 等) の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの</li> <li>●非常用放送設備</li> <li>●登録認定機関 (日本消防検定協会) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> <li>●テレビ共同受信機器</li> <li>●優良住宅部品 (BL部品) の認定を受けたもので、BLマーク証紙が貼付されたもの</li> <li>●(一社)電子情報技術産業協会スーパーハイビジョン受信マーク登録品の認定を受けたもので、SHマークが貼付されたもの</li> <li>●自動火災報知設備</li> <li>●登録認定機関 (日本消防検定協会) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> <p>(2) 特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様 ・性能等を証明する書類を監督員に提出し、かつ監督員の承諾が得られた場合に限り使用できるものとする。</p>	
<p>18. テレビ共同受信設備</p> <p>(1) 受信放送</p> <p>(2) 機器</p> <p>(3) アンテナ</p> <p>1) 放送</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UHF ・BS ・CS ・FM ・CATV ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) マスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上波用 (・壁面取付 ・自立 ・既設利用)</li> <li>・衛星用 (・壁面取付 ・自立 ・既設利用)</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>3) 自立用基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事</li> <li>・別途工事</li> <li>・既設利用</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>19. 監視カメラ設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様詳細は別図による。</li> </ul> <p>20. 駐車場管制設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様詳細は別図による。</li> </ul> <p>21. 防犯・入退室管理設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様詳細は別図による。</li> </ul> <p>22. 自動火災報知設備</p> <p>(1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受信機</li> <li>・副受信機 (表示装置)</li> <li>・中継器</li> <li>・発信機</li> <li>・感知器</li> <li>・光警報装置</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 受信機</p> <p>1) 型式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P型1級</li> <li>・P型2級</li> <li>・R型</li> </ul> <p>2) 回線数 ( ) 回線 ( ) アドレス</p> <p>3) 試験機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動試験機能</li> <li>・遠隔試験機能</li> </ul> <p>4) 盤形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合盤組込</li> <li>・自立型</li> <li>・壁掛型</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(3) 副受信機 (表示装置)</p> <p>1) 盤形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立型</li> <li>・壁掛型</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 回線数 ( ) 回線 ( ) アドレス</p> <p>3) 表示装置の仕様詳細は別図による。</p> <p>(4) 中継器</p> <p>試験機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動試験機能</li> <li>・遠隔試験機能</li> </ul> <p>(5) 発信機</p> <p>1) 型式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドレス付</li> <li>・P型1級</li> <li>・P型2級</li> </ul> <p>2) 消火栓ポンプ起動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき場合は、発信機連動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する。</li> </ul> <p>3) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独設置</li> <li>・機器収容箱に組込</li> <li>・消火栓ボックス (別途) に組込</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(6) 感知器</p> <p>1) 型式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドレス付</li> <li>・一般型</li> </ul> <p>2) 種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱感知器</li> <li>・空気管式</li> <li>・煙感知器</li> <li>・炎感知器</li> </ul> <p>3) 試験機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動試験機能</li> <li>・遠隔試験機能</li> </ul> <p>4) 機器仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般</li> <li>・防水</li> <li>・防爆</li> <li>・防食</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(7) 光警報装置</p> <p>1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警報装置</li> <li>・制御装置</li> <li>・同期装置</li> </ul> <p>2) 警報装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天井付</li> <li>・壁付</li> </ul> <p>3) 同期装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自走同期式</li> <li>・外部同期式</li> </ul>	<p>25. ガス漏れ火災警報設備</p> <p>(1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受信機</li> <li>・副受信機</li> <li>・中継器</li> <li>・検知器</li> <li>・警報器</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 受信機</p> <p>1) 回線数 ( ) 回線</p> <p>2) 種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ガス用</li> <li>・液化石油ガス用</li> </ul> <p>3) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(3) 副受信機</p> <p>設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(4) 検知器</p> <p>1) 動作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独 (単独動作)</li> <li>・連動 (受信機に伝送)</li> </ul> <p>2) 定格電圧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AC100V</li> <li>・DC24V (受信機等から供給)</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>3) ガス検知出力信号</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有電圧出力方式</li> <li>・無電圧接点方式</li> </ul> <p>【中央監視制御設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様詳細は別紙による。</li> </ul> <p>【医療関係設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様詳細は別紙による。</li> </ul> <p>【構内配電線路】</p> <p>26. 構内配電線路</p> <p>(1) 配線方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地中線式 (・直埋 ・管路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架)</li> <li>・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ( ))</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 建柱</p> <p>1) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 ・既設柱利用 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 電柱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・バンザマスト</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>3) 支持材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根かせ ・根はじき ・根巻き ・底板</li> <li>・支線 (保護ガード ・有 ・無)</li> </ul> <p>4) 装柱材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 (電力仕様) ・無</li> </ul> <p>5) 銘板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 ・無</li> </ul> <p>(3) 装柱機器 (高圧用)</p> <p>1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開閉器</li> <li>・避雷器</li> <li>・カットアウト</li> <li>・碍子</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 耐環境性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般用</li> <li>・耐塩用</li> </ul> <p>3) 開閉器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕様は 5. 受変電設備 (6) 負荷開閉器 による。</li> </ul> <p>(4) 装柱機器 (低圧用)</p> <p>1) 機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開閉器</li> <li>・開閉器箱</li> <li>・避雷器</li> <li>・カットアウト</li> <li>・碍子</li> <li>・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 耐環境性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般用</li> <li>・耐塩用</li> </ul> <p>(5) ハンドホール</p> <p>マンホール</p> <p>1) 形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック式</li> <li>・現場打ち</li> </ul> <p>2) 施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事</li> <li>・既設利用 ・その他 ( )</li> </ul> <p>3) ケーブル支持金物の取付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2箇所</li> <li>・4箇所</li> <li>・( ) 箇所</li> </ul> <p>4) 重車両の通行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有 (破壊荷重 200kN以上、衝撃係数 0.1(走行速度制限箇所)) ・無</li> </ul> <p>(6) 鉄蓋</p> <p>1) 鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。</p> <p>2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。</p> <p>(7) 地中ケーブル</p> <p>保護材料</p> <p>1) 種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP</li> <li>・厚鋼電線管 ・その他 ( )</li> </ul> <p>2) 標示杭埋設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分)</li> </ul> <p>3) 埋設標識シート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2倍長 ・その他 ( )</li> </ul> <p>4) 埋設標識シートの表記は電力用であることがわかるものとする。</p>	<p>【その他】</p> <p>28. 消火器</p> <p>1) 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本工事 (●建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事)</li> <li>・別途工事</li> </ul> <p>2) 消火器</p> <p>種類 (ABC10型 ( ) )、数量 ( 1 ) 本</p> <p>3) 消火器収納箱</p> <p>材質 ( )、数量 ( ) 面</p>	<p>■memo</p> <p>■check</p> <p>client</p> <p>architect</p> <p>contractor</p> <p>■scale</p> <p>A2:S=NS</p> <p>A3:S=NS</p> <p>■drawing title</p> <p>電気設備工事特記仕様書 (3)</p> <p>■project title</p> <p>(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事</p> <p>Kisho Architectural Design Office</p> <p>一級建築士 登録第146490号</p> <p>一級建築士事務所 登録第1-169号</p> <p>(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office</p> <p>管理建築士: 山田 賢治</p> <p>■drawing no.</p> <p>■sheet no.</p> <p>E-03</p>



配置図 A2:S=1/200 A3:S=1/282



memo

check  
client  
architect  
contractor

scale  
A2:S=1/200  
A3:S=1/282

drawing title

幹線設備、配置図、盤図、照明器具姿図

project title

(仮称) 明神給水タンク等保管庫新築工事

Kisho  
Architectural  
Design Office

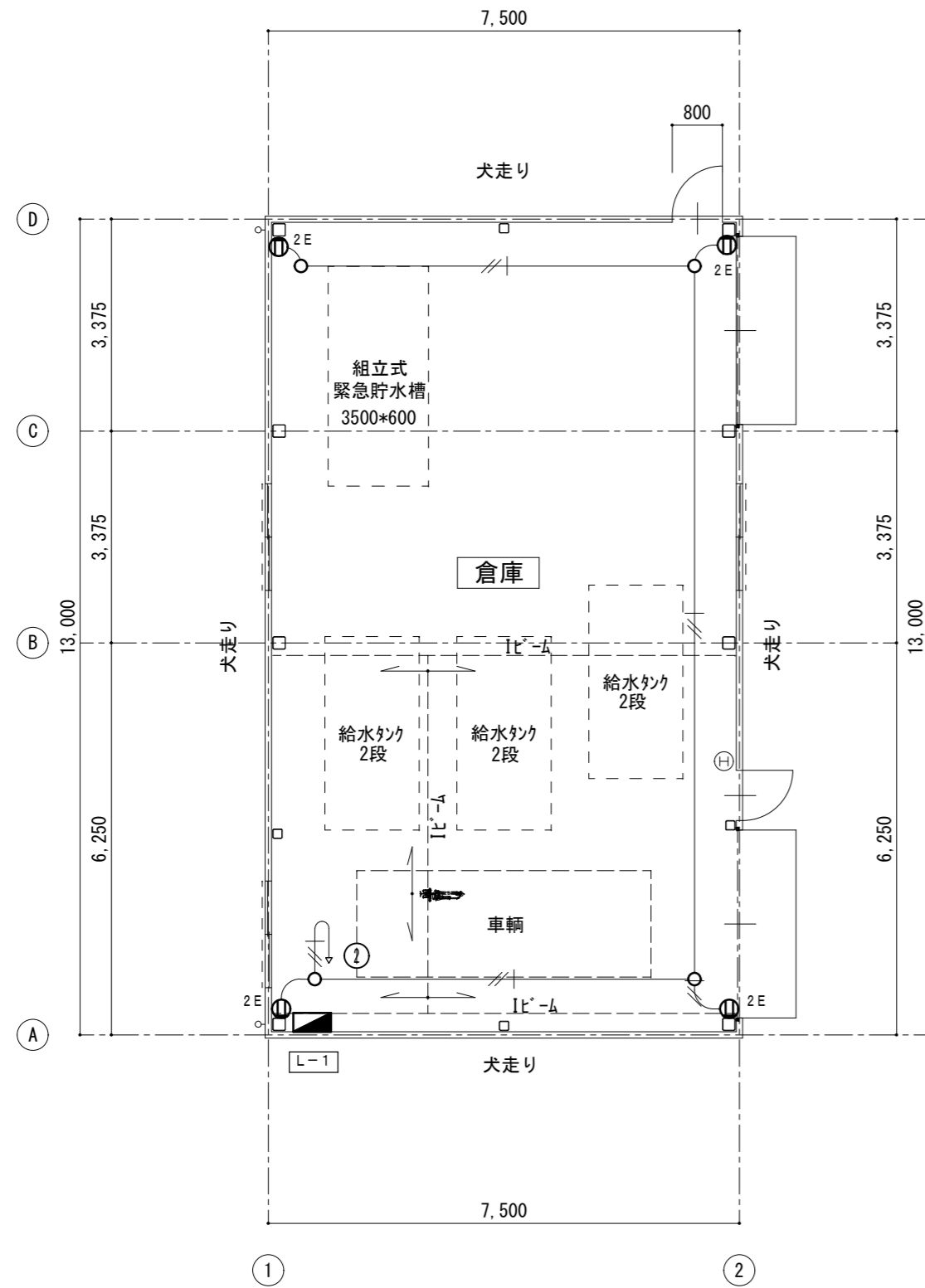
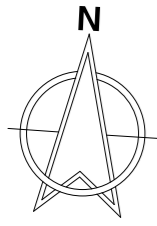
一級建築士 登録第146490号  
一級建築士事務所 登録第1-169号  
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office  
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

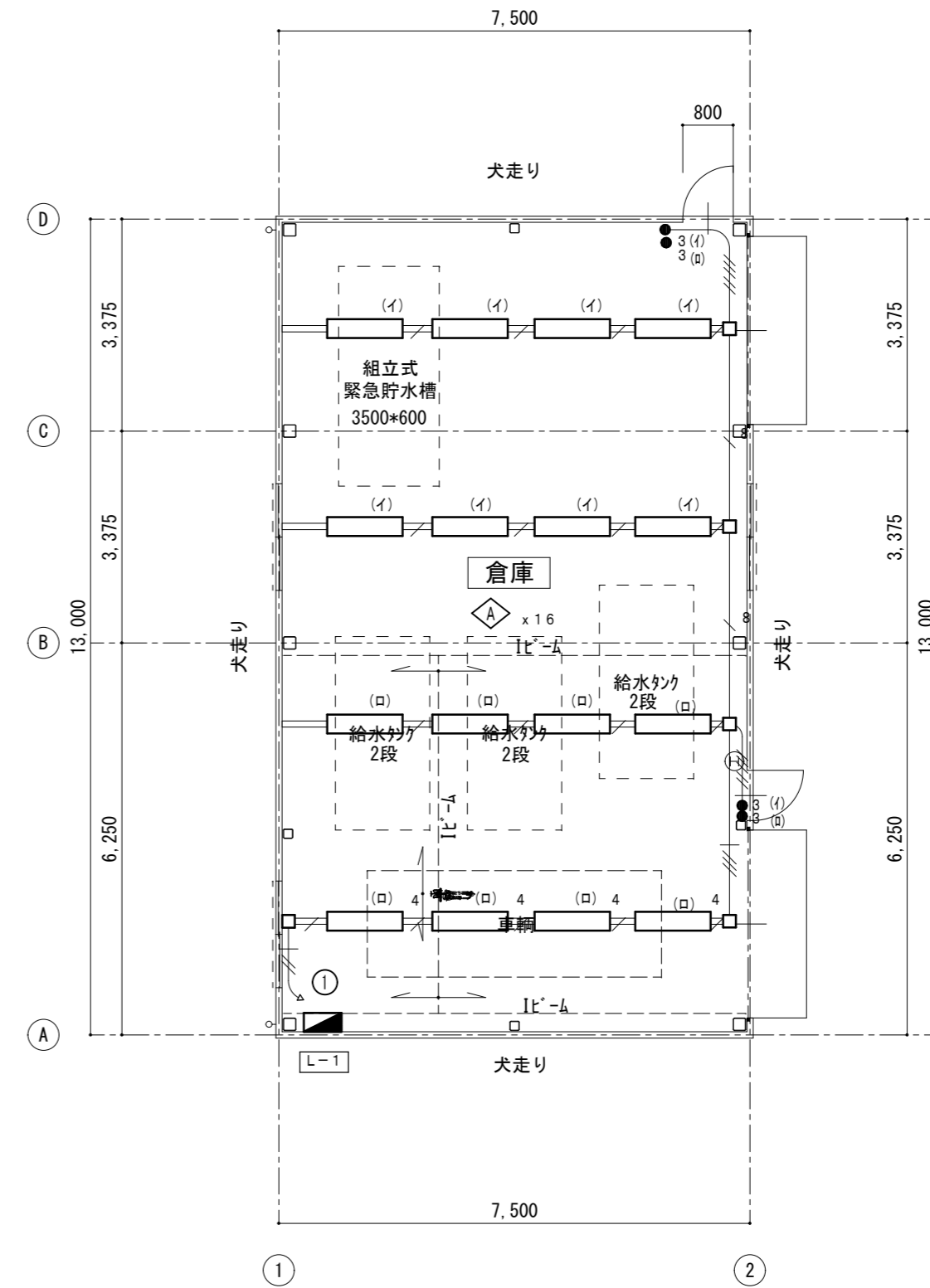
E-04





⊕ : 消火器ABC10型

平面図 A2:S=1/100  
A3:S=1/141



⊕ : 消火器ABC10型

平面図 A2:S=1/100  
A3:S=1/141

特記事項

1. 記入なき配管配線は下記とする

	EM-EEF2.0-3C	(107-ス)	(H122)
	EM-EEF1.6-3C+2C		(H122)
	EM-EEF1.6-2Cx2	(107-ス)	(H122)
	EM-EEF1.6-3Cx2+2C	(107-ス)	(H128)
	EM-EEF1.6-3C	(107-ス)	レースウェイ
	EM-EEF1.6-2Cx2	(107-ス)	レースウェイ
	レースウェイ		

2. 凡例

- ₃ 埋込3路スイッチ 3W15A x 1 新金属プレート
- Ⓧ_{2E} 埋込コンセント 接地付2P15A x 2 新金属プレート
- 露出丸ボックス

3. レースウェイの高さは、下場=FL+5000とする